

芦屋町
男女共同参画に関する
町民意識調査結果報告書

令和4年3月

芦 屋 町

目 次

第1部 調査の概要.....	1
第2部 調査結果.....	3
I. 回答者の基本属性について.....	3
II. 男女の地位・役割について.....	12
III. 家庭生活について.....	23
IV. 就労・働き方について.....	34
V. 地域活動や社会活動への参加について.....	43
VI. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について.....	47
VII. 暴力などの人権侵害について.....	53
VIII. 防災・災害復興について.....	69
IX. 男女共同参画社会について.....	72

第 1 部
調査の概要

I. 調査の目的

町民の男女平等に対する意識、家庭生活や地域活動における男女共同参画の状況、就労や人権に関する意識・実態等を把握することによって、「第3次芦屋町男女共同参画推進プラン」の策定や今後の男女共同参画施策の推進に反映させるための基礎資料を得ることを目的とする。

II. 調査の設計

- | | |
|---------|--|
| 1. 調査地域 | 芦屋町全域 |
| 2. 調査対象 | 町内在住の満20歳以上の男女 |
| 3. 標本数 | 1,500人 |
| 4. 抽出方法 | 住民基本台帳から年齢10歳階層ごとに（70歳以上は1階層とし、全部で6階層とする）男女同数を無作為抽出 |
| 5. 調査方法 | 質問紙法（無記名自記式）
郵送による配布・回収（礼状兼督促状を1回発送） |
| 6. 調査期間 | 令和4年1月19日～令和4年2月4日
（ただし、令和4年2月16日回収分までを集計に含めている。） |
| 7. 調査主体 | 芦屋町教育委員会 生涯学習課 社会教育係 |

III. 回収の結果

配布数：1,500件 有効回収数：598件 回収率：39.9%

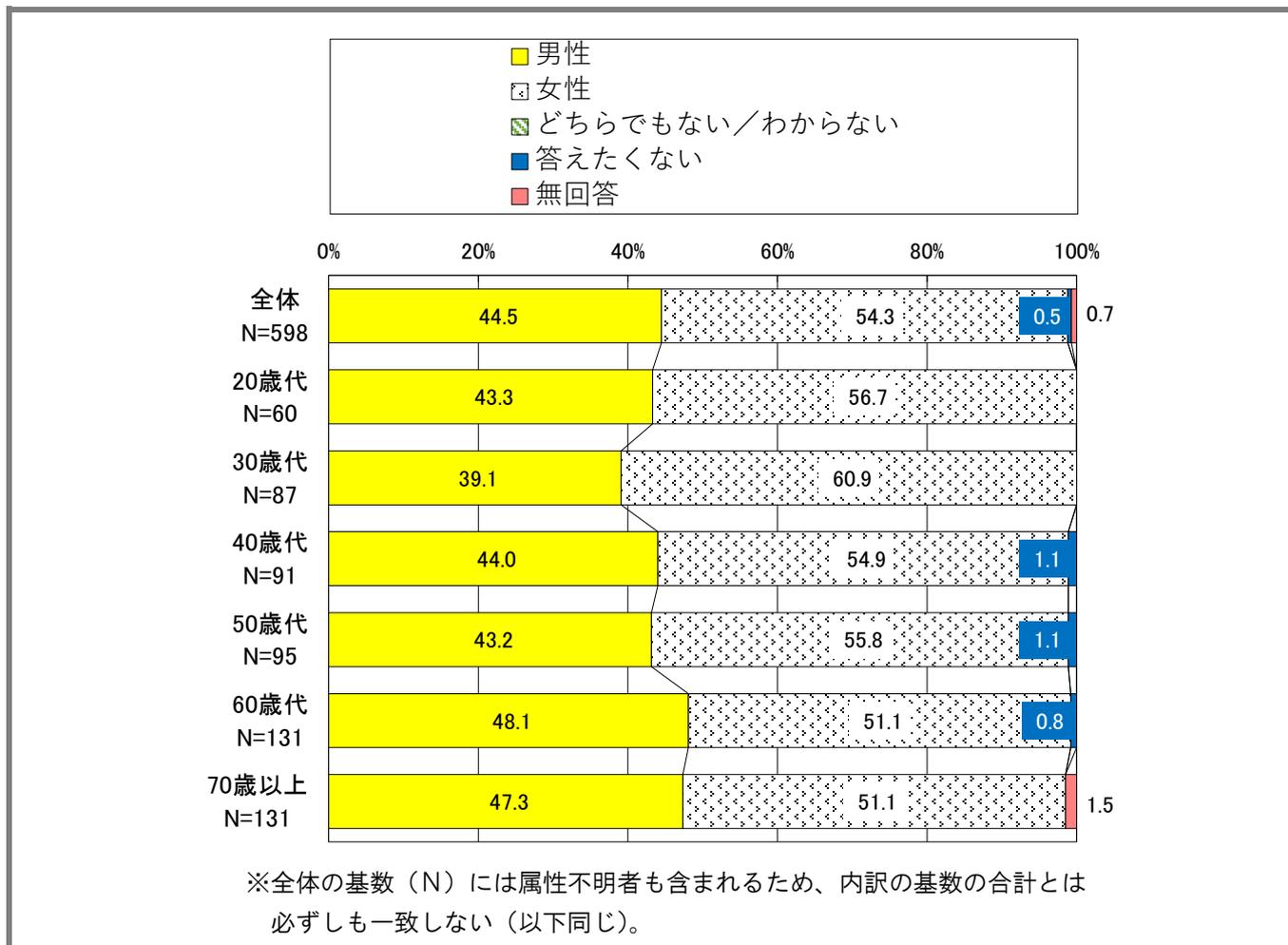
IV. 報告書の見方

1. 回答は、各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示している。小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合がある。
2. 複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超える。
3. 表・グラフにおいて、回答選択肢を簡略化して表記している場合がある。

第 2 部
調 查 結 果

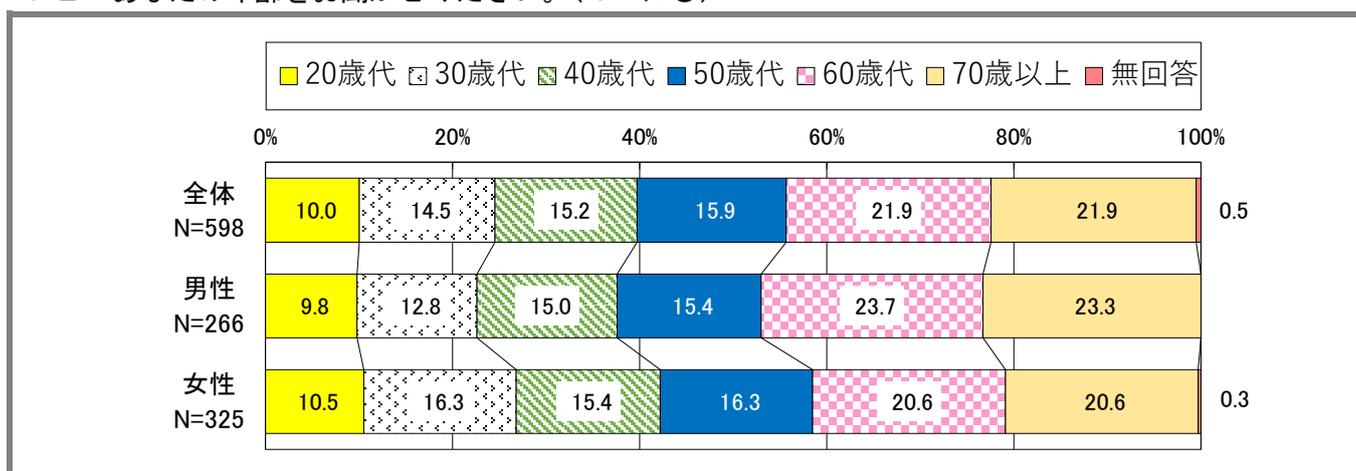
I. 回答者の基本属性について

F 1 あなたの性別をお聞かせください。(1つに〇)



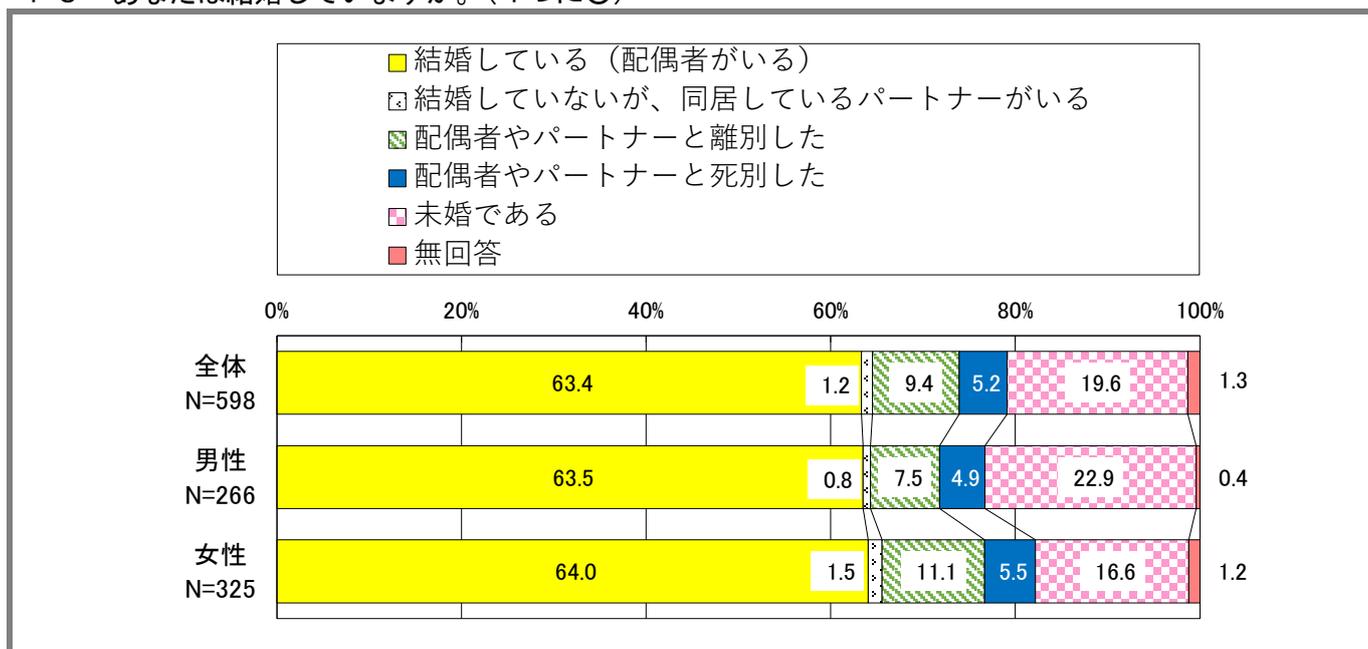
- 回答者の性別については、「男性」が44.5%、「女性」が54.3%、「答えたくない」が0.5%となっている。
- 調査対象者の抽出は男女同数であったため、いずれの年齢階層においても女性の方が回答率が高かったことがわかる。

F2 あなたの年齢をお聞かせください。(1つに○)



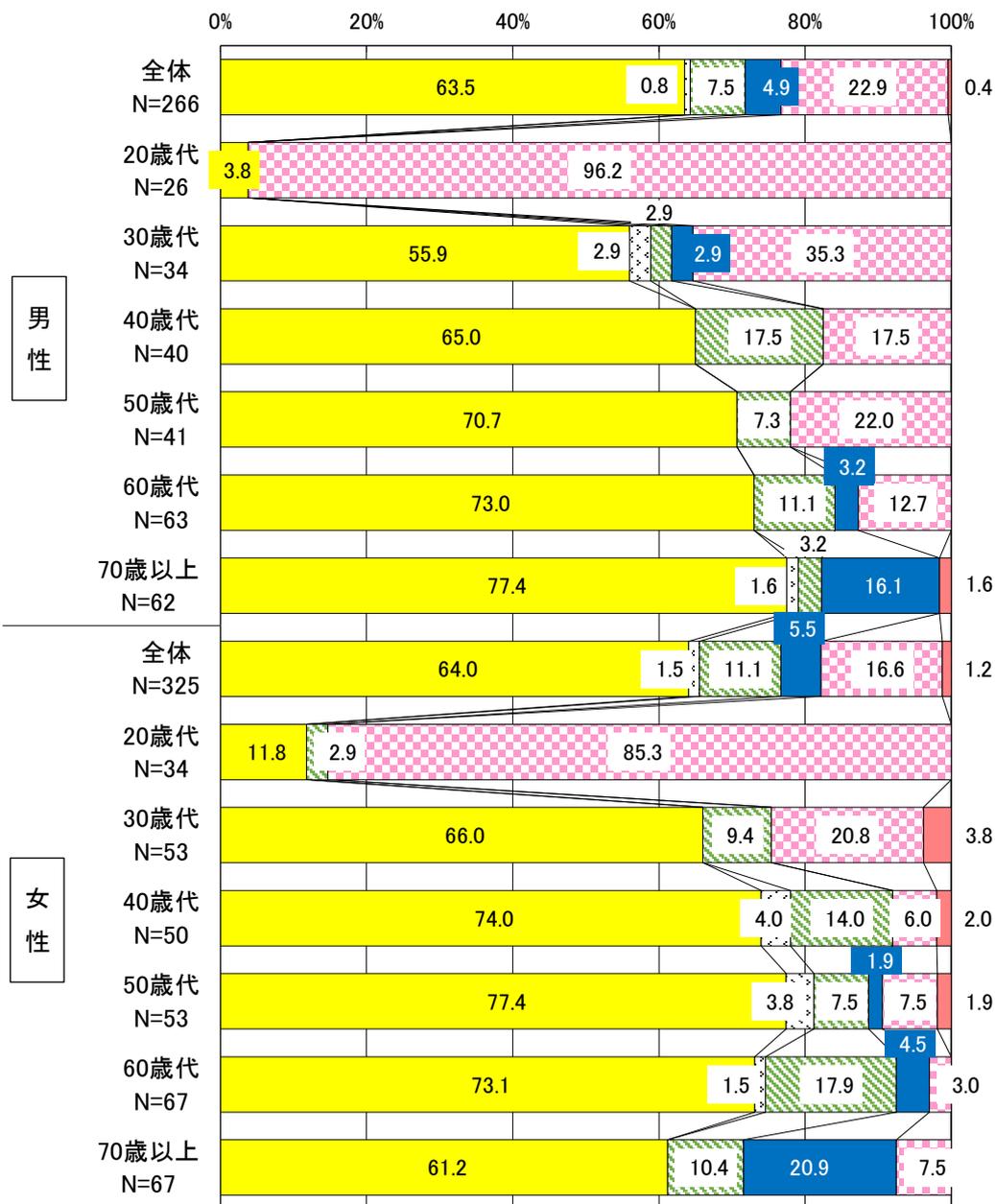
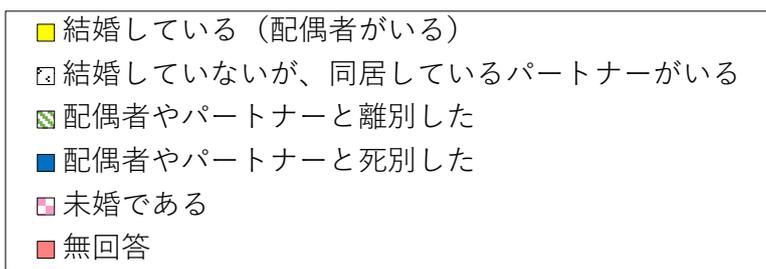
- 回答者の年齢構成は上のとおりで、60歳以上が男性の47.0%、女性の41.2%を占めている。
- 調査対象者の抽出は各年齢階層同数であったため、20歳代の回答率が特に低かったことがわかる。

F3 あなたは結婚していますか。(1つに○)

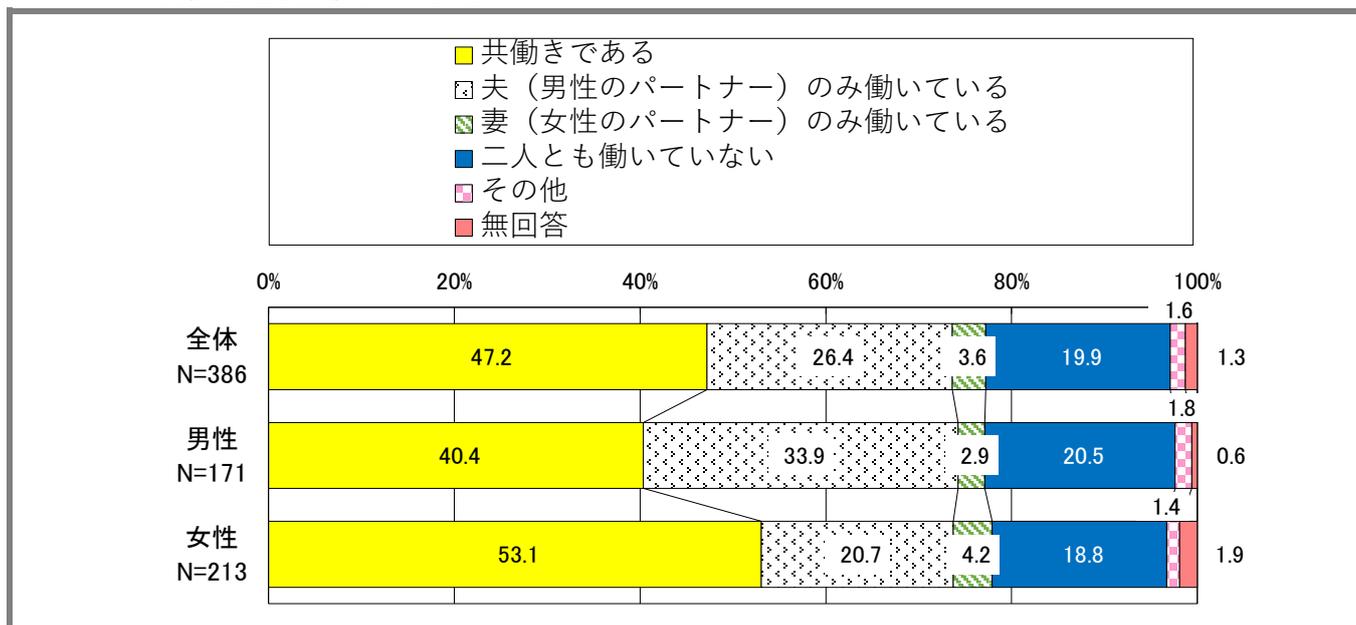


- 回答者の配偶関係については、「結婚している (配偶者がいる)」と回答した人が63.4%、「未婚である」が19.6%となっている。
- 死別は男女とも70歳以上で割合が高くなっており、離別の割合が比較的高かったのは、男性の「40歳代」(17.5%)と女性の「60歳代」(17.9%)となっている (次ページの男女別・年齢階層別クロス集計結果参照)。

《男女別・年齢階層別クロス集計結果》

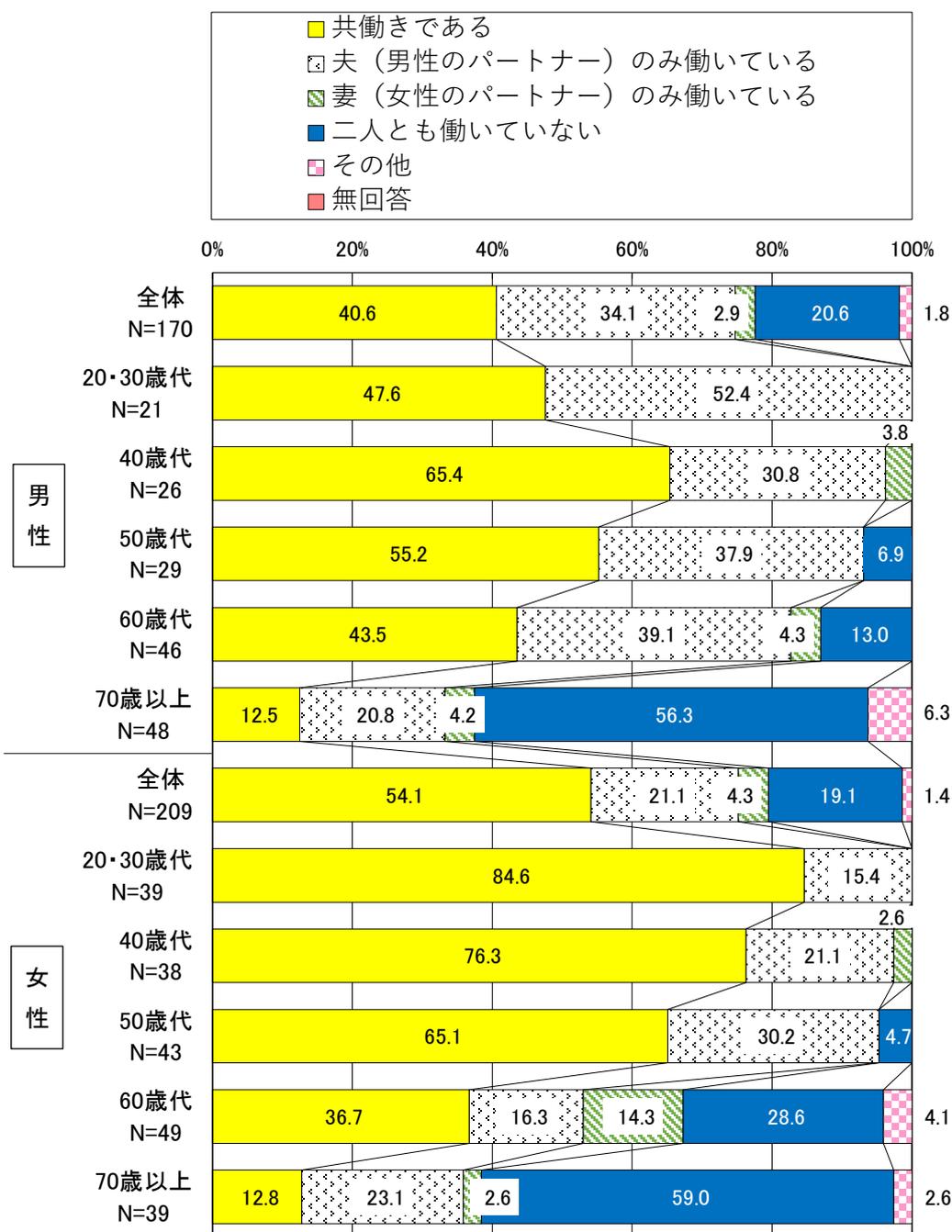


F3-1 (F3で「1. 結婚している」「2. 同居しているパートナーがいる」と答えた方へ)
共働きですか。(1つに○)

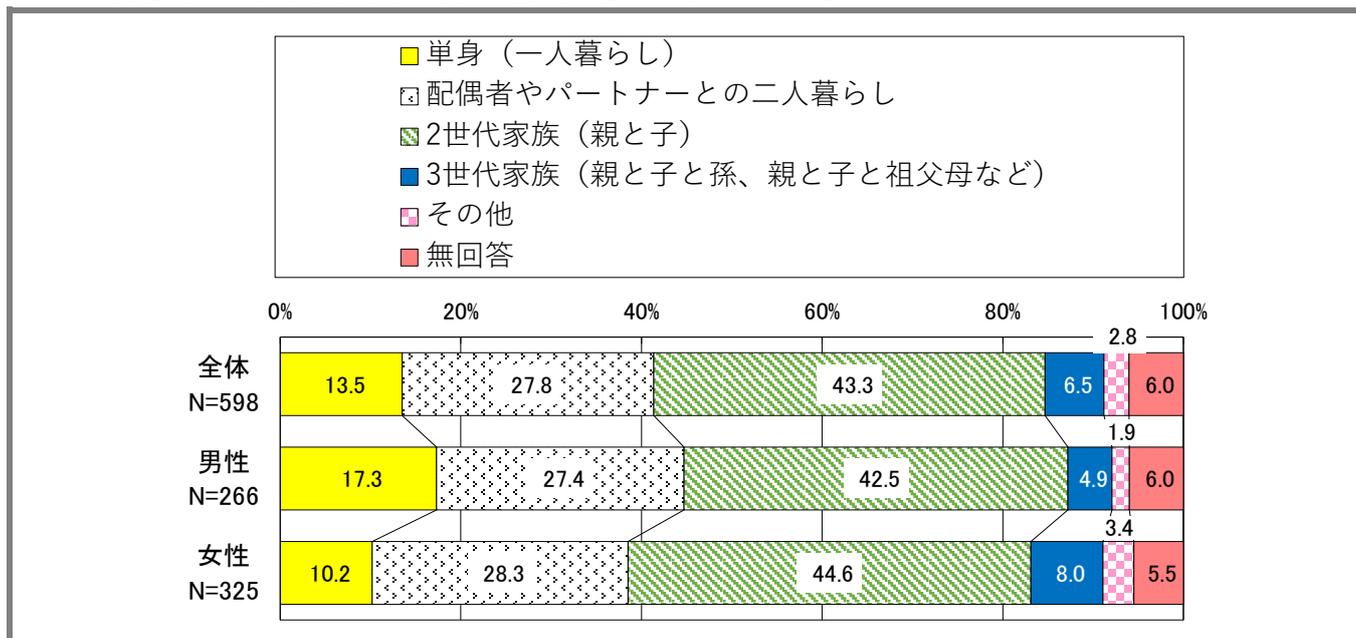


- 配偶者や同居のパートナーがいると回答した人のうち、「共働きである」と回答した人の割合は全体の47.2%となっており、男女別に見ると、男性よりも女性の方が「共働きである」の割合が高くなっている。
- 共働きの割合は、男性は「40歳代」(65.4%)、女性は「20・30歳代」(84.6%)が最も高くなっており、それぞれそこをピークに年齢階層が高くなるにつれて低くなっている（次ページの男女別・年齢階層別クロス集計結果参照）。

《男女別・年齢階層別クロス集計結果》

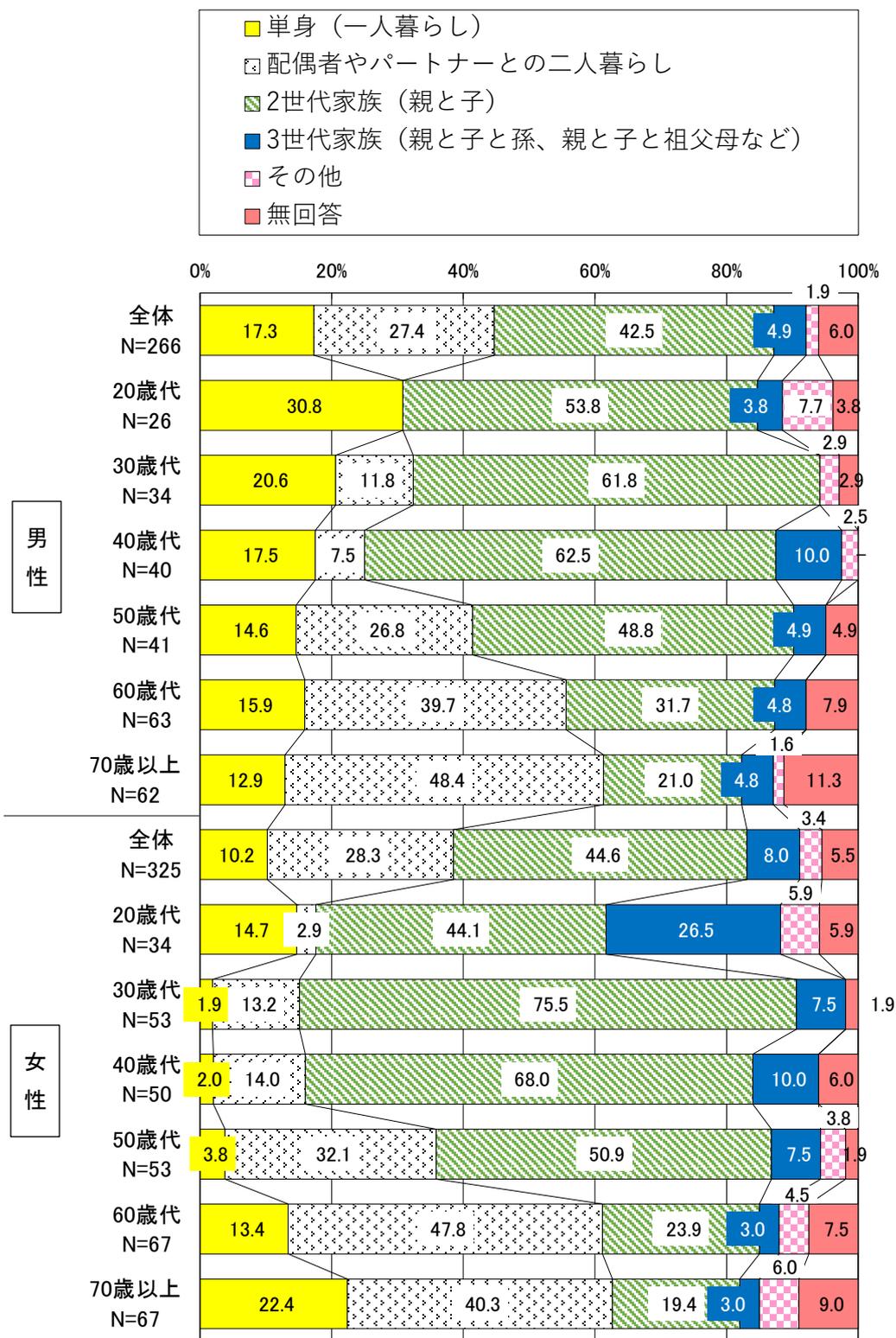


F4 あなたの家族構成は次のどれにあたりますか。(1つに○)

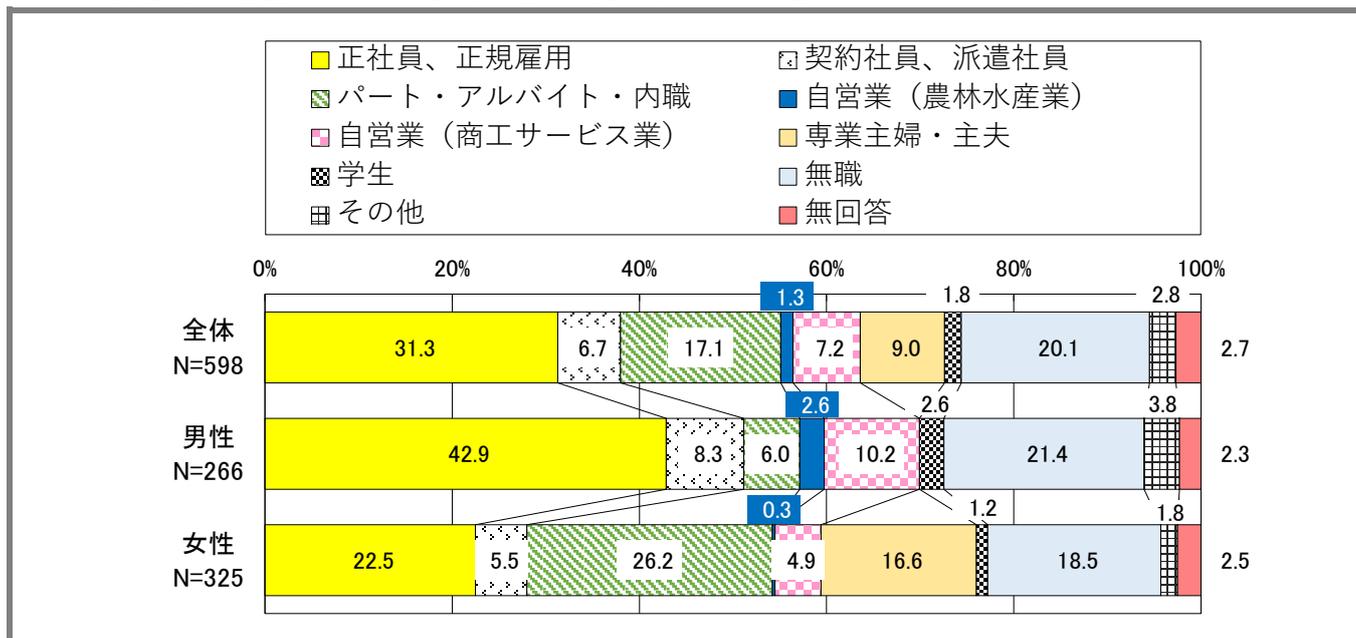


- 回答者の家族構成は、男女ともに「2世代家族 (親と子)」の割合が最も高く、全体の43.3%を占めている。
- 年齢階層別に見ると、「2世代家族 (親と子)」の割合は、男性は「40歳代」(62.5%)、女性は「30歳代」(75.5%)をピークに年齢階層が高くなるにつれて低くなっており、その分「配偶者やパートナーとの2人暮らし」の割合が高くなっている (次ページの男女別・年齢階層別クロス集計結果参照)。
- 70歳以上を男女別に見ると、女性では「単身 (一人暮らし)」が22.4%と、男性 (12.9%) に比べ高い割合となっている (次ページの男女別・年齢階層別クロス集計結果参照)。

《男女別・年齢階層別クロス集計結果》

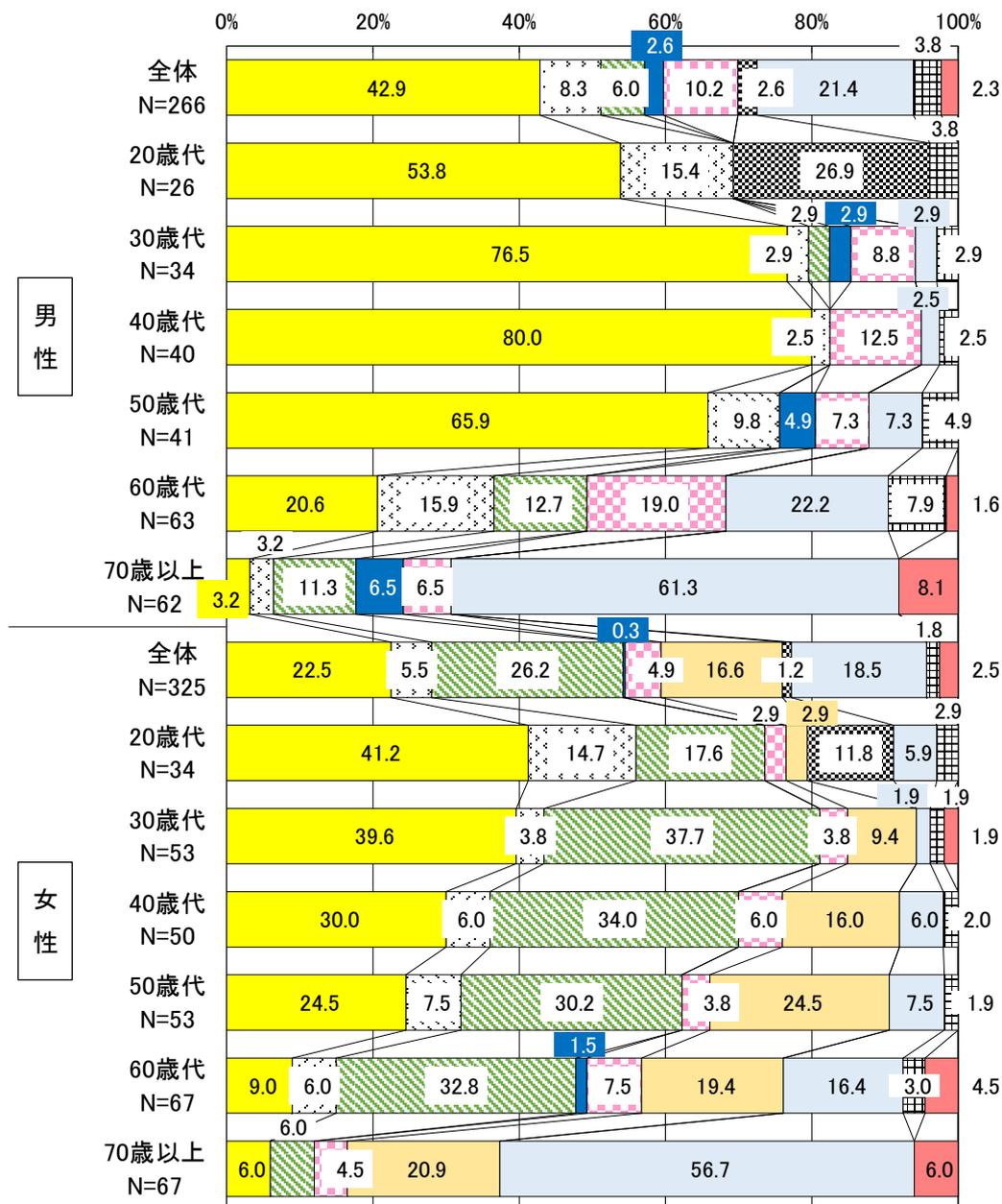


F5 あなたの働き方についてお聞かせください。(1つに○)



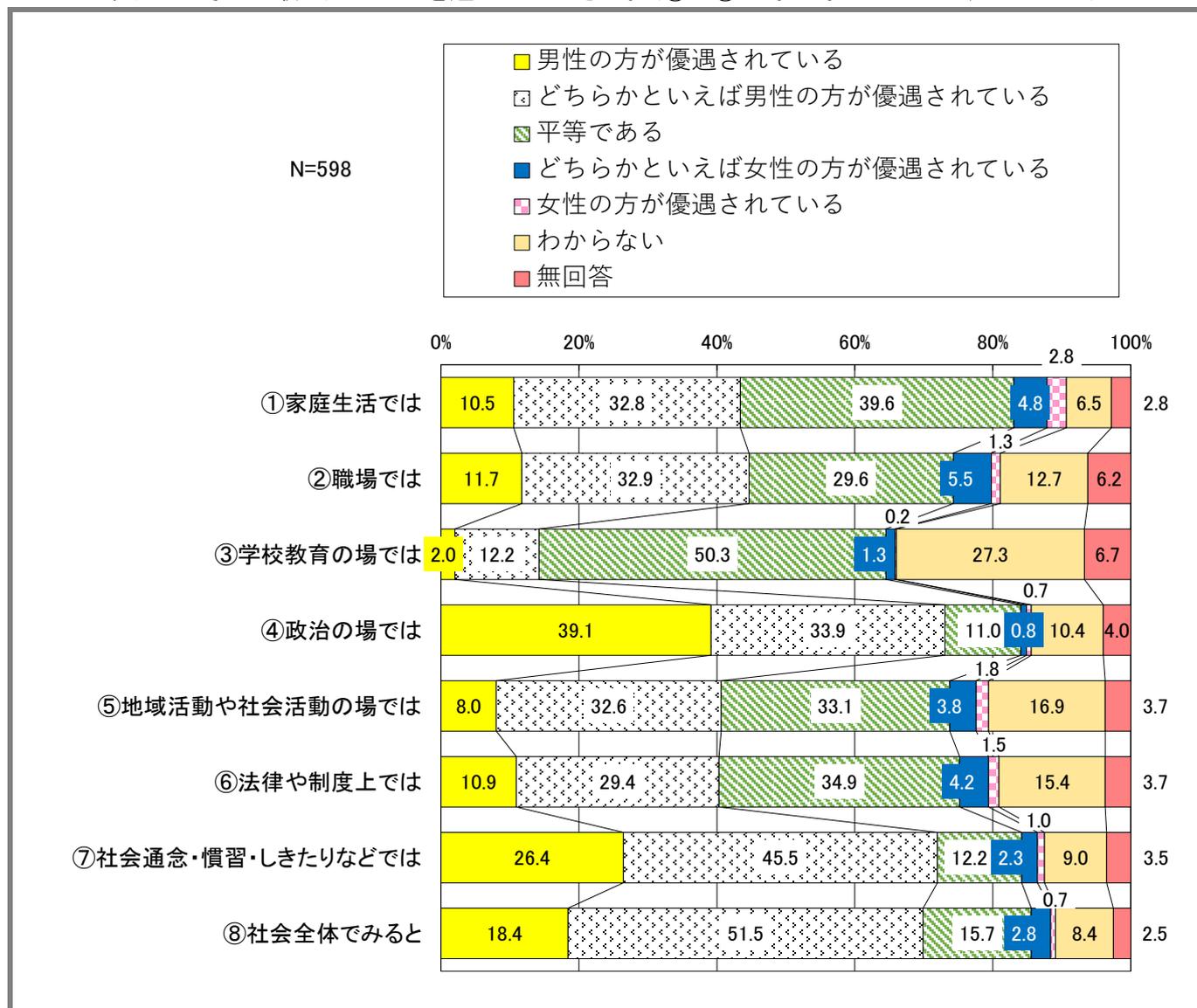
- 回答者の働き方を見ると、男性では「正社員、正規雇用」の割合が42.9%と最も高い割合となっているのに対し、女性では22.5%にとどまり、「パート・アルバイト・内職」(26.2%)の割合の方が高くなっている。
- 年齢階層別に見ると、男性では「50歳代」までは「正社員、正規雇用」の割合が高く、「60歳代」以降は年齢階層が高くなるにつれて「無職」の割合が高くなっている。また、「60歳代」は「自営業(商工サービス業)」(19.0%)、「契約社員・派遣社員」(15.9%)「パート・アルバイト・内職」(12.7%)の割合も比較的高くなっている(次ページの男女別・年齢階層別クロス集計結果参照)。
- 一方、女性についても「30歳代」までは「正社員、正規雇用」の割合が最も高くなっているが、「40歳代」から「60歳代」までは、「パート・アルバイト・内職」の割合が最も高くなっている(次ページの男女別・年齢階層別クロス集計結果参照)。

《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



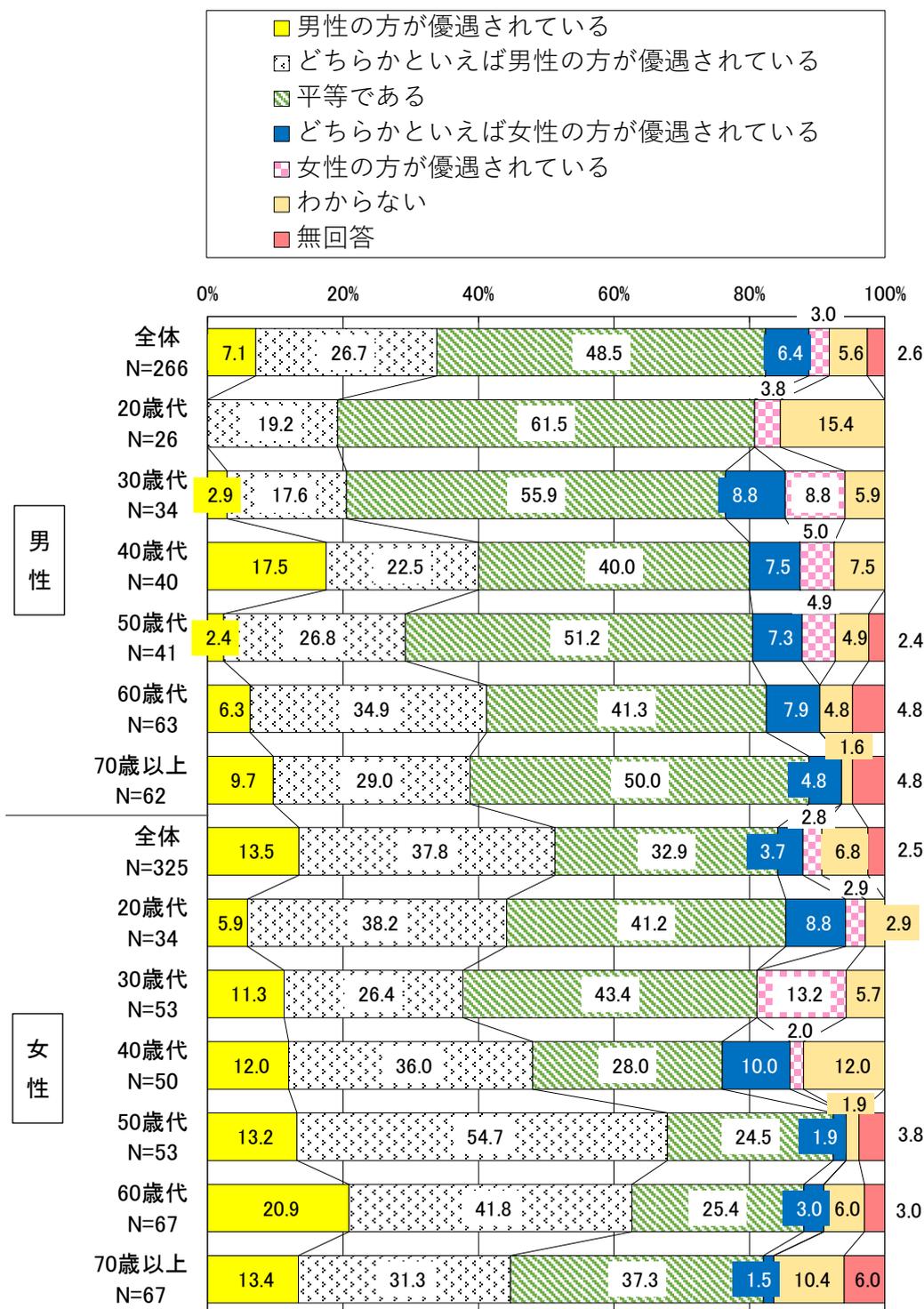
Ⅱ. 男女の地位・役割について

問1 あなたは、次にあげる各分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。各項目についてあなたの考えに最も近いものを選んでください。(①～⑧のそれぞれについて、1つに○)



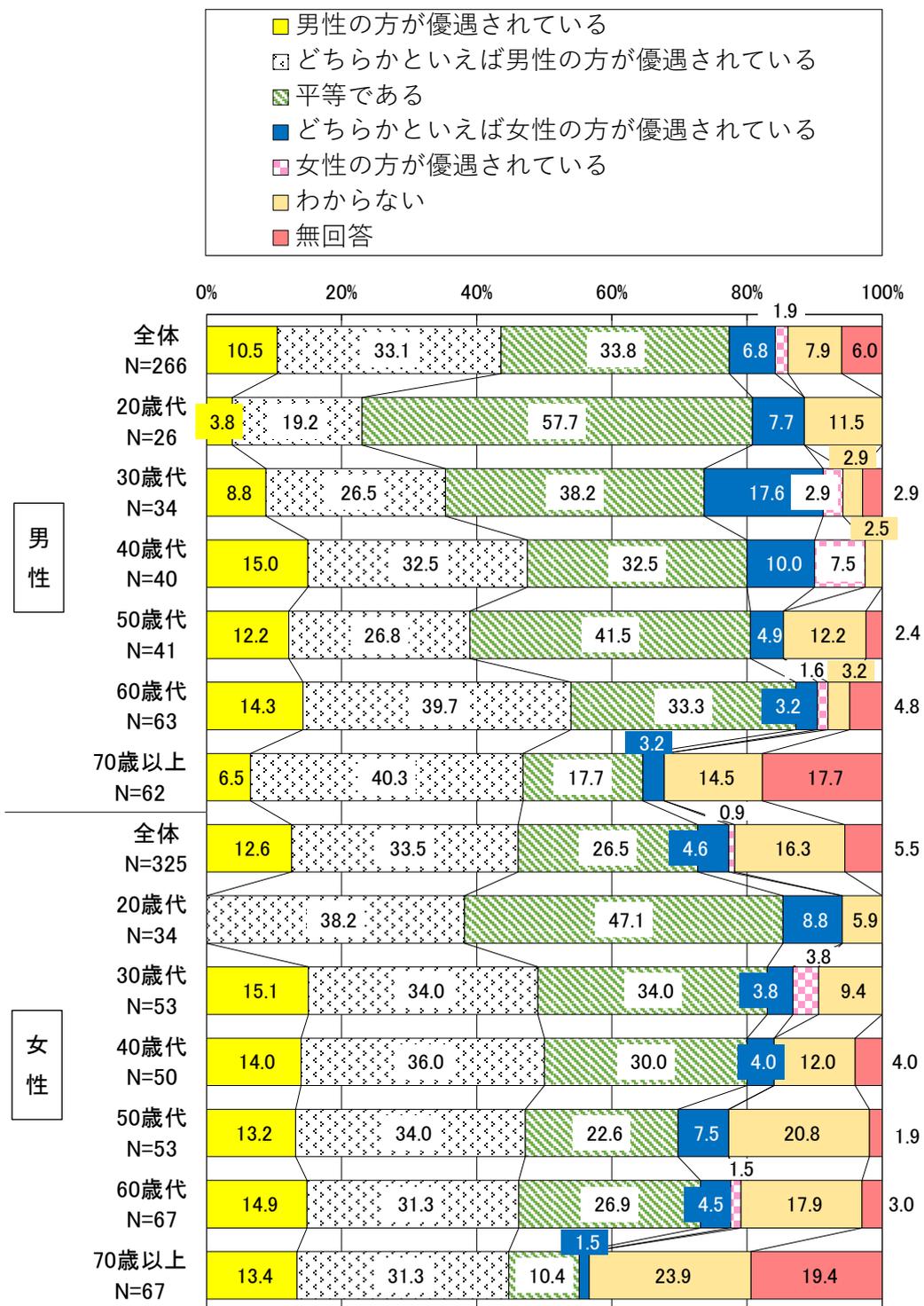
- 社会の様々な分野における男女の地位について、「平等である」と回答した割合が高かったのは「学校教育の場」で50.3%、次いで「家庭生活」が39.6%で、それに続いている。
- 一方、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた「男性優遇」という回答が最も多かったのは、「政治の場」で73.0%、次いで「社会通念・慣習・しきたりなど」(71.9%)、「社会全体」(69.9%)と続いている。
- 男女別に見ると、すべての分野で男性より女性の方が「男性優遇」という回答割合が高く、「平等である」と回答した割合が低くなっている (P13～20の男女別・年齢階層別クロス集計結果参照)。

① 家庭生活では（男女別・年齢階層別クロス集計結果）



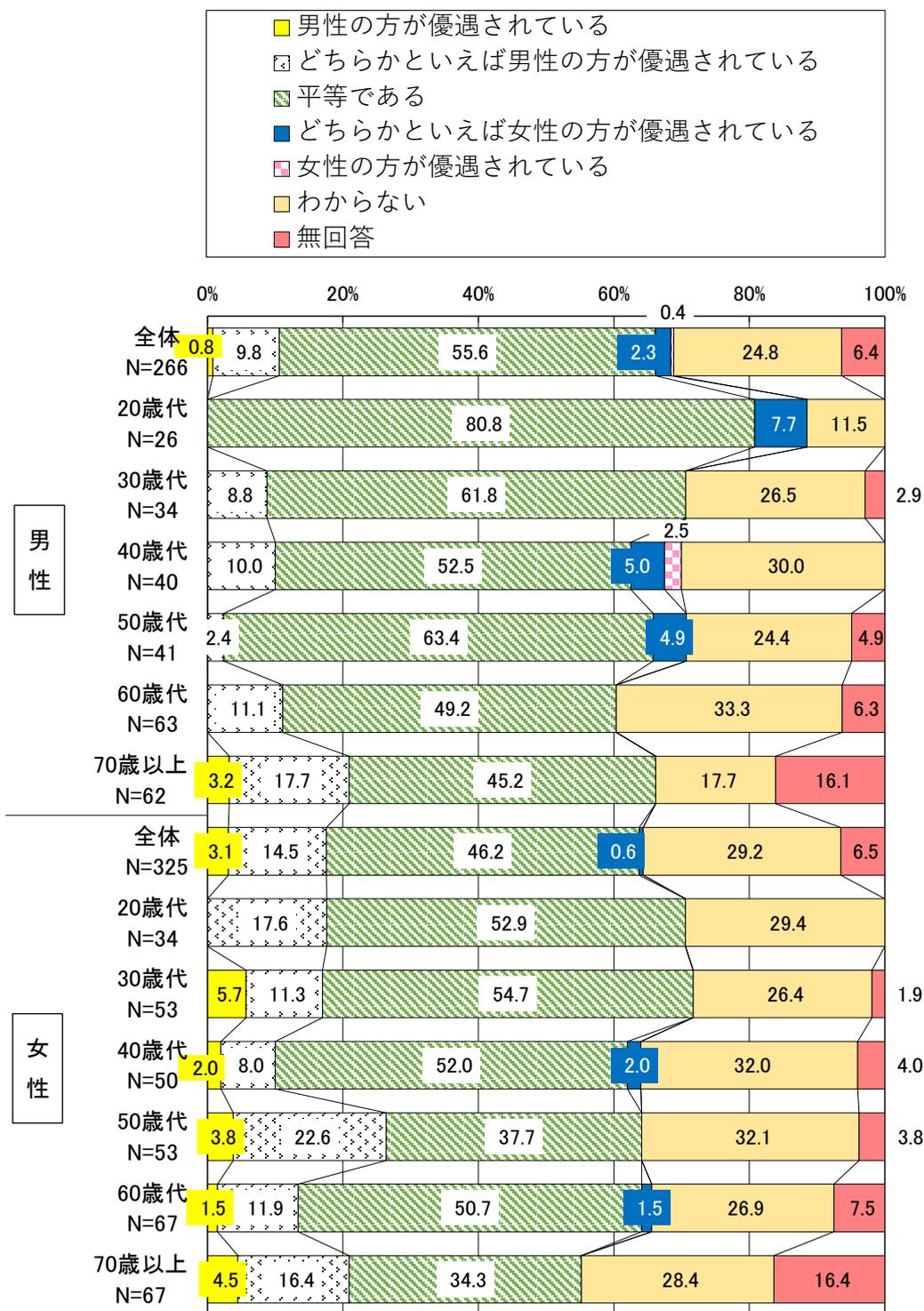
- 家庭生活での男女の地位の不平等感について、全年齢階層で、女性は男性に比べ「男性優遇」と感じている人の割合が高く、男女間でかなり意識に差があることがわかる。
- また、男女別・年齢階層別に見て、「男性優遇」という回答割合が最も高かったのは「50歳代の女性」(67.9%)であった。

②職場では（男女別・年齢階層別クロス集計結果）



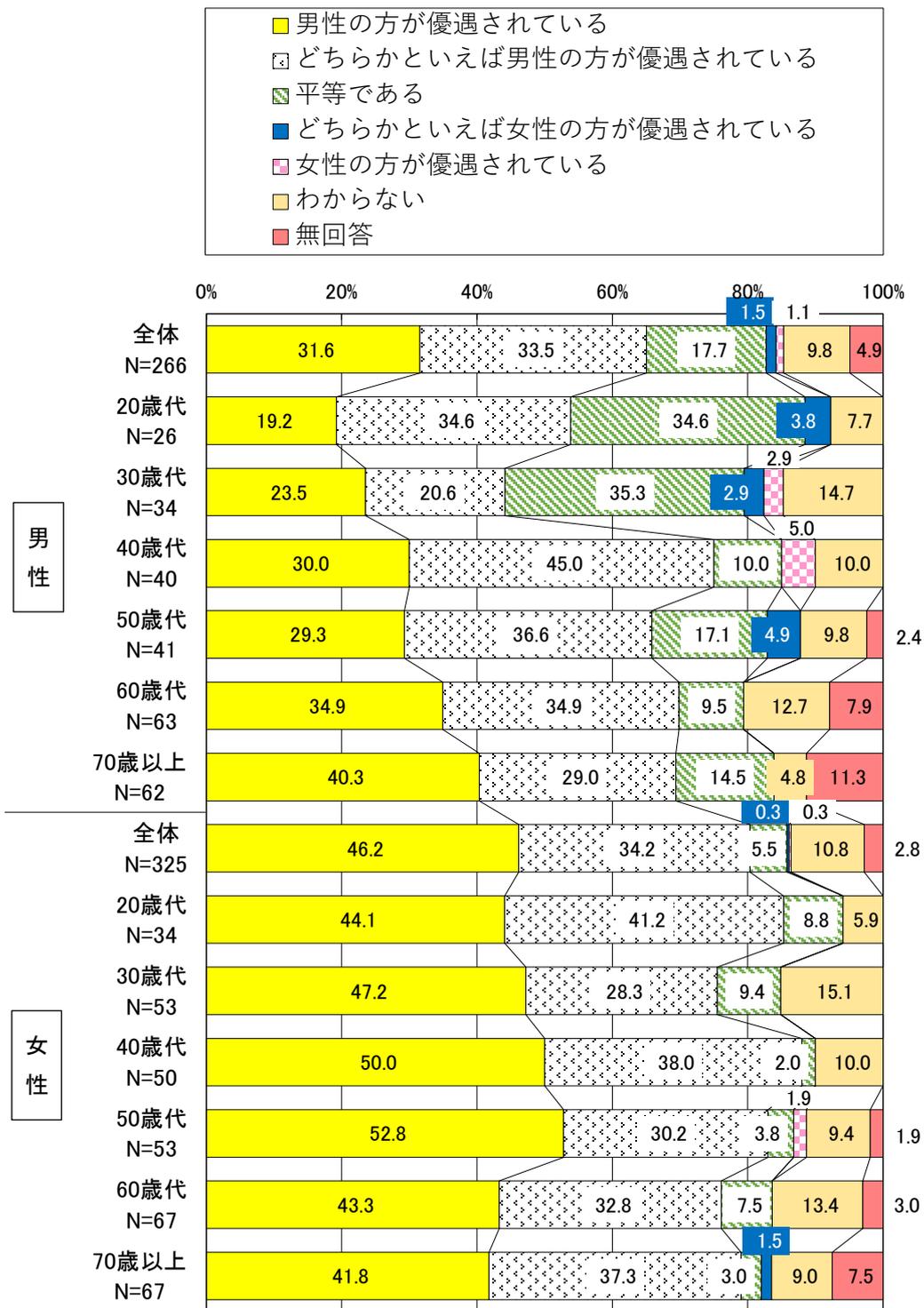
- 職場での男女の地位の不平等感については、男性自身も男性が優遇されていると考える割合が比較的高く、職場での男女不平等を多くの人が実感していることがうかがえる。
- また、「男性優遇」と回答した人の割合が最も低く、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた「女性優遇」と回答した人の割合が最も高かったのは、「30歳代の男性」(20.5%)であった。

③学校教育の場では（男女別・年齢階層別クロス集計結果）



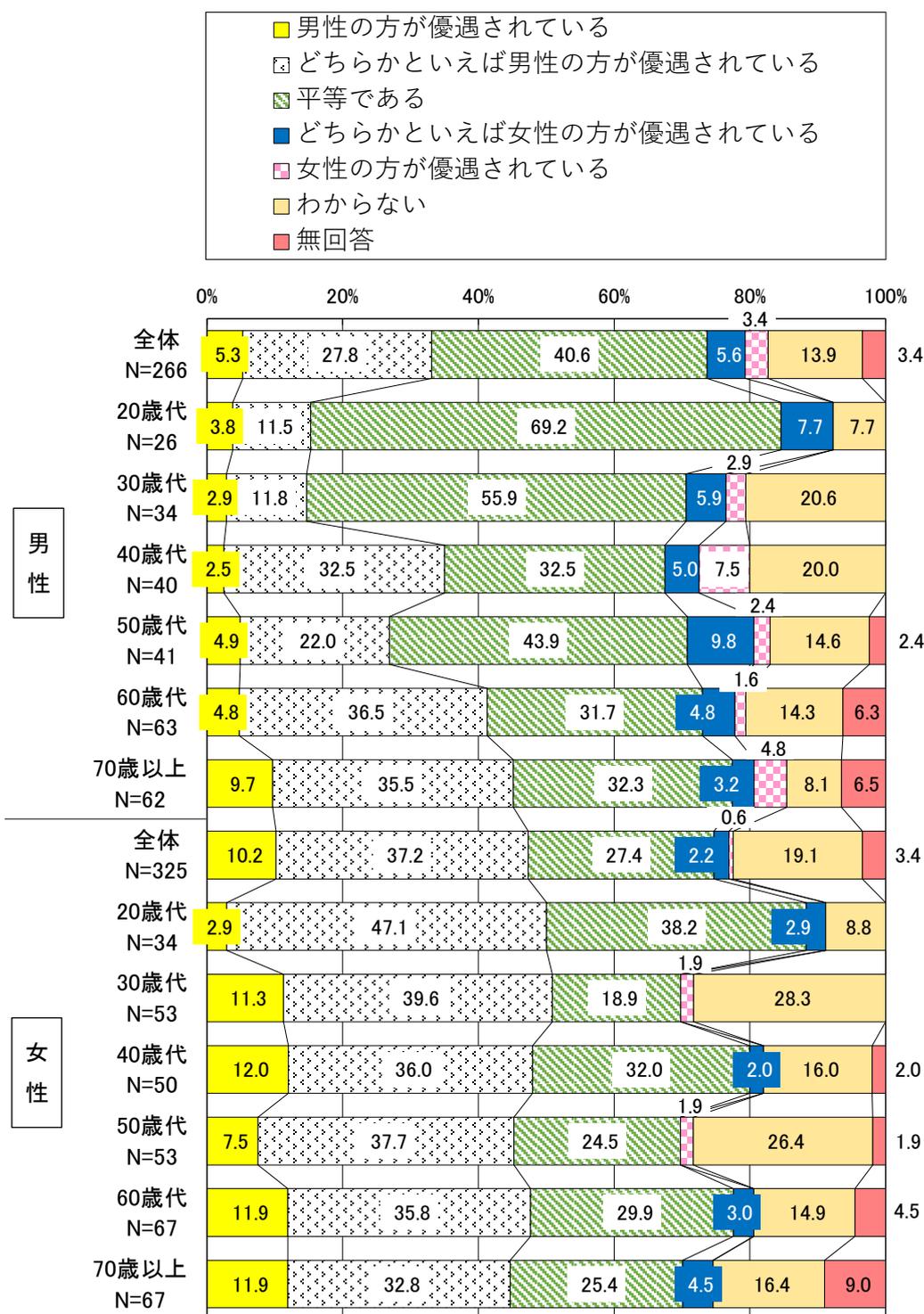
- 学校教育の場での男女の地位の不平等感については、男女ともに全年齢階層を通じて「平等である」と回答した人の割合が最も高くなっている。
- 「男性の方が優遇されている」と回答した人の割合は、他の分野に比べかなり低くなっている。

④政治の場では（男女別・年齢階層別クロス集計結果）



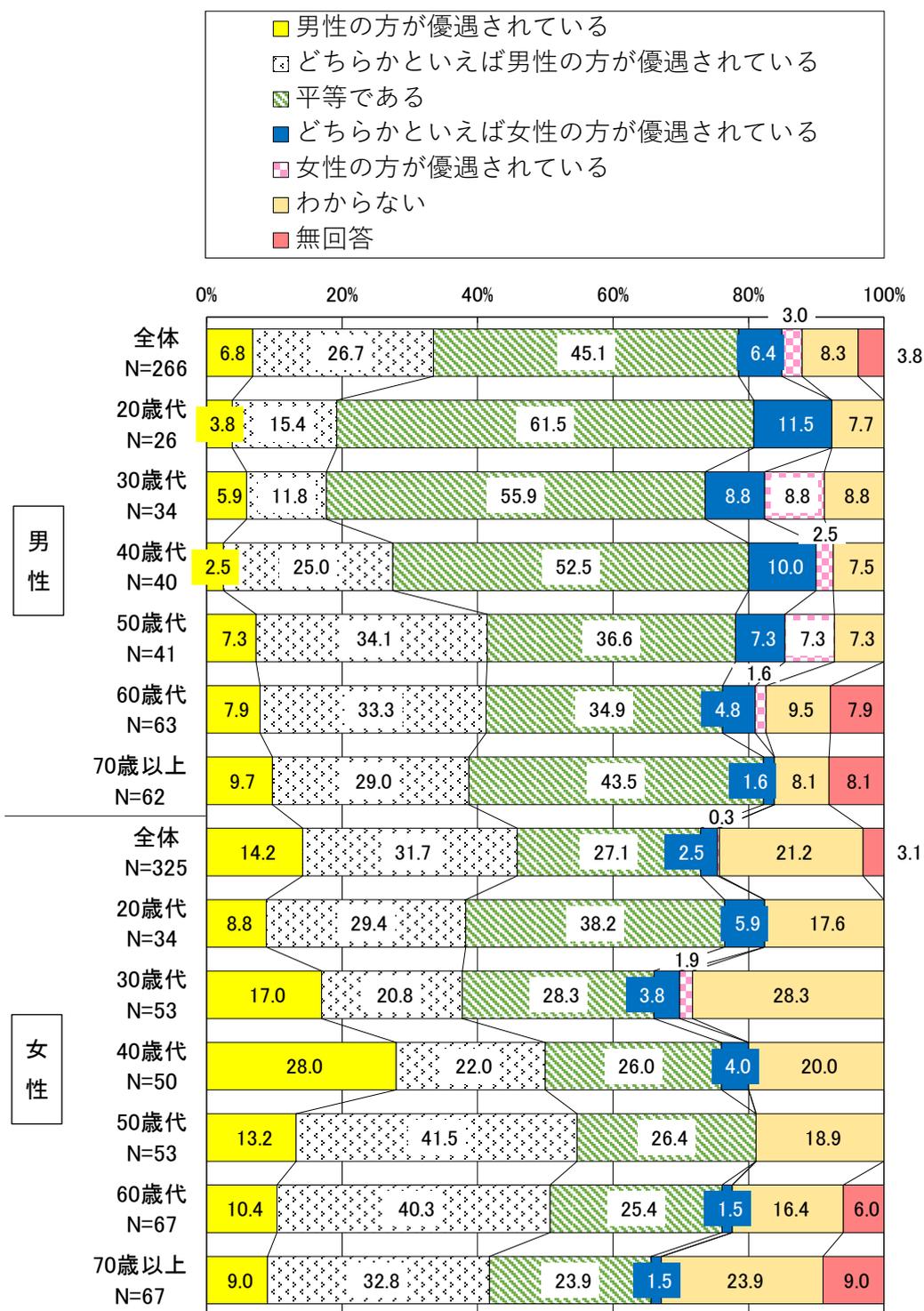
- 政治の場での男女の地位の不平等感については、全年齢階層を通じて男性に比べ女性の方が「男性優遇」と回答した人の割合が高くなっている。
- また、男女別・年齢階層別に見ると、「男性優遇」と回答した人の割合が最も高かったのは、「40歳代の女性」(88.0%)であった。

⑤地域活動や社会活動の場では（男女別・年齢階層別クロス集計結果）



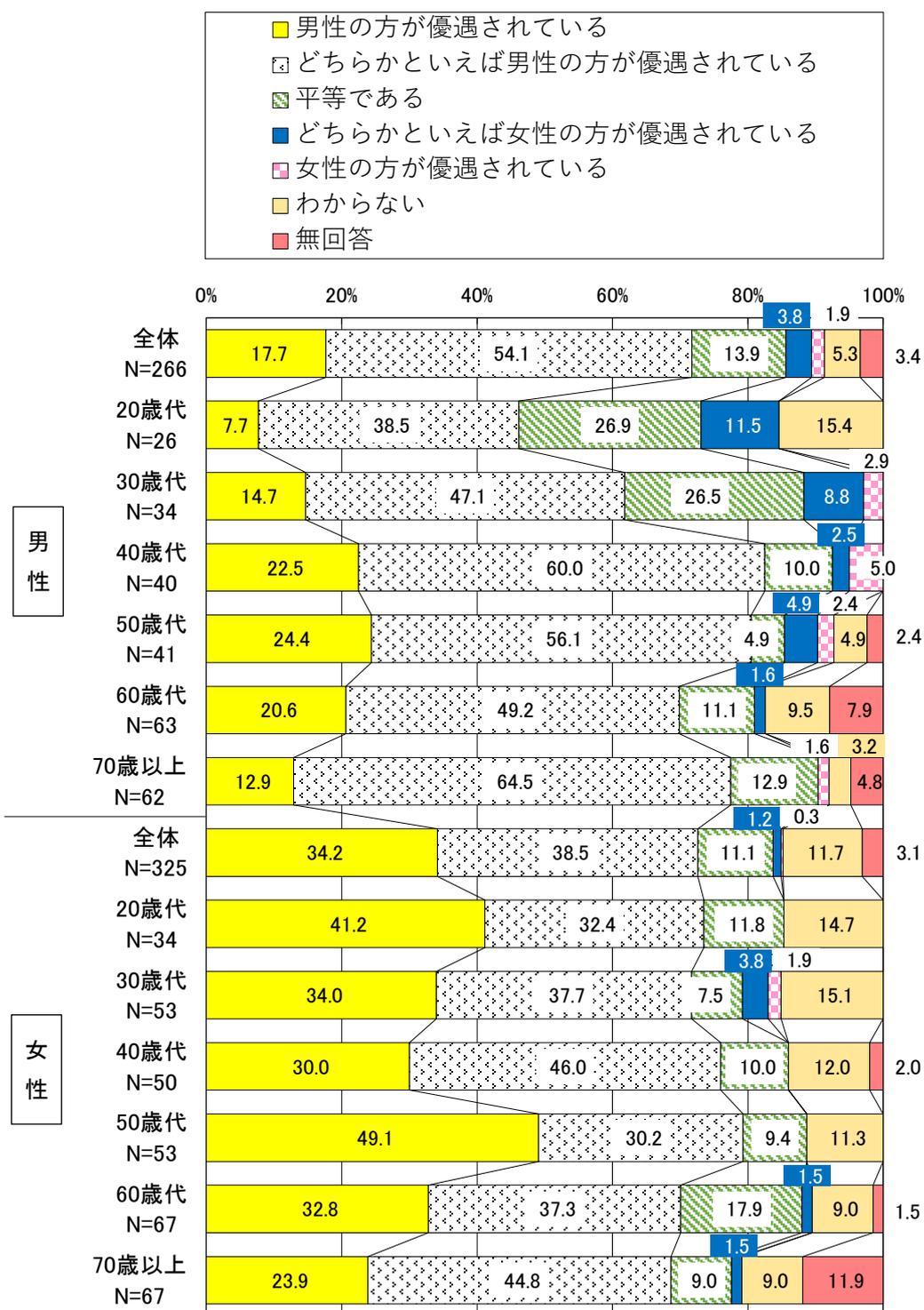
- 地域活動や社会活動の場での男女の地位の不平等感についても、全年齢階層を通じて男性は女性に比べて「平等である」と回答した割合が高くなっており、特に「30歳代」では37.0ポイントの開きが見られ、男女間の意識差が目立っている。
- また、「男性優遇」という回答割合が最も高かったのは「30歳代の女性」(50.9%)であった。

⑥法律や制度上では（男女別・年齢階層別クロス集計結果）



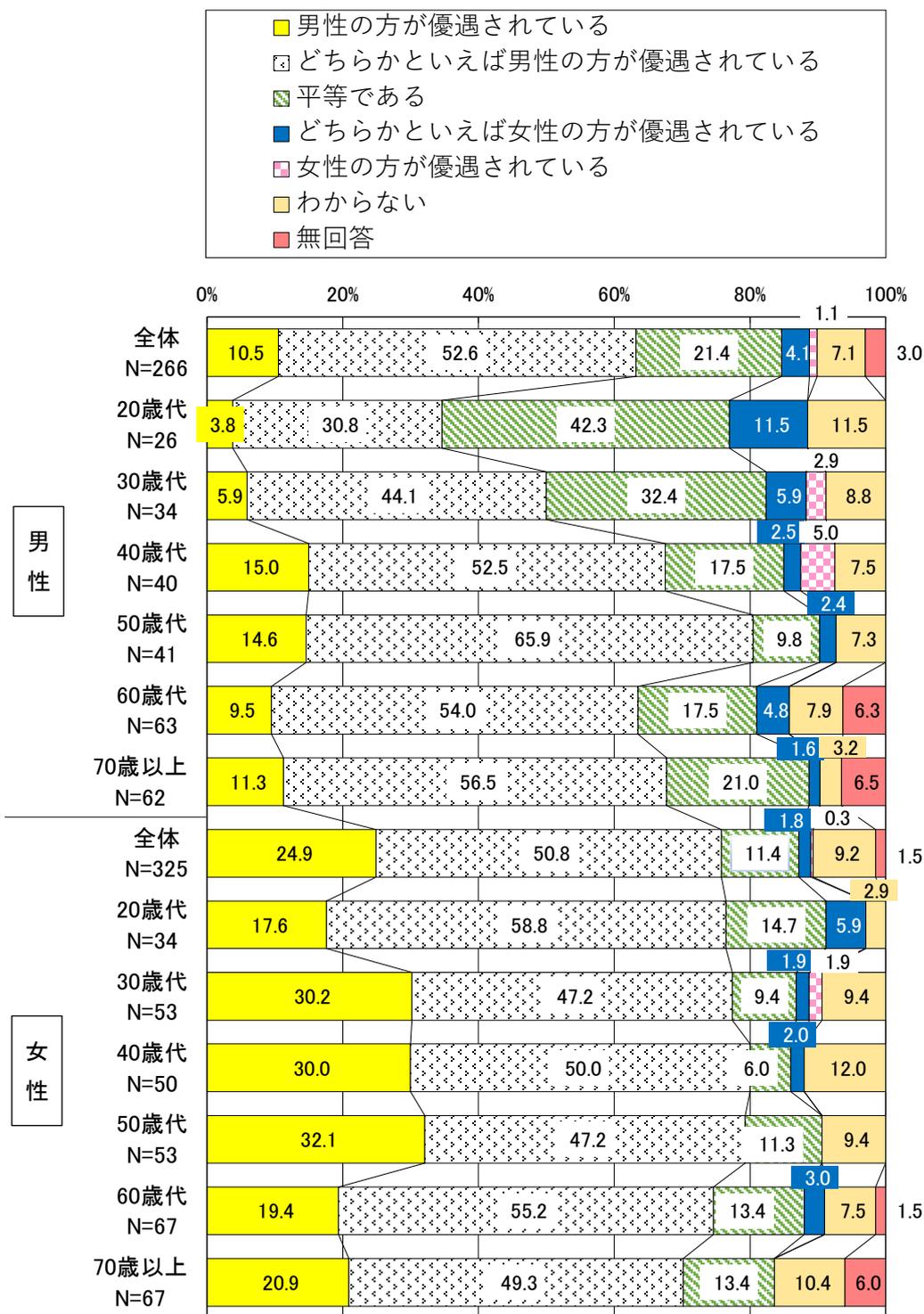
- 法律や制度の上での男女の地位の不平等感については、全年齢階層を通して、男性の方が「平等である」と回答した割合が高くなっており、男女間のギャップが目立っている。
- また、「男性優遇」という回答割合が最も高かったのは「50歳代の女性」(54.7%)であった。

⑦社会通念・慣習・しきたりなどでは（男女別・年齢階層別クロス集計結果）



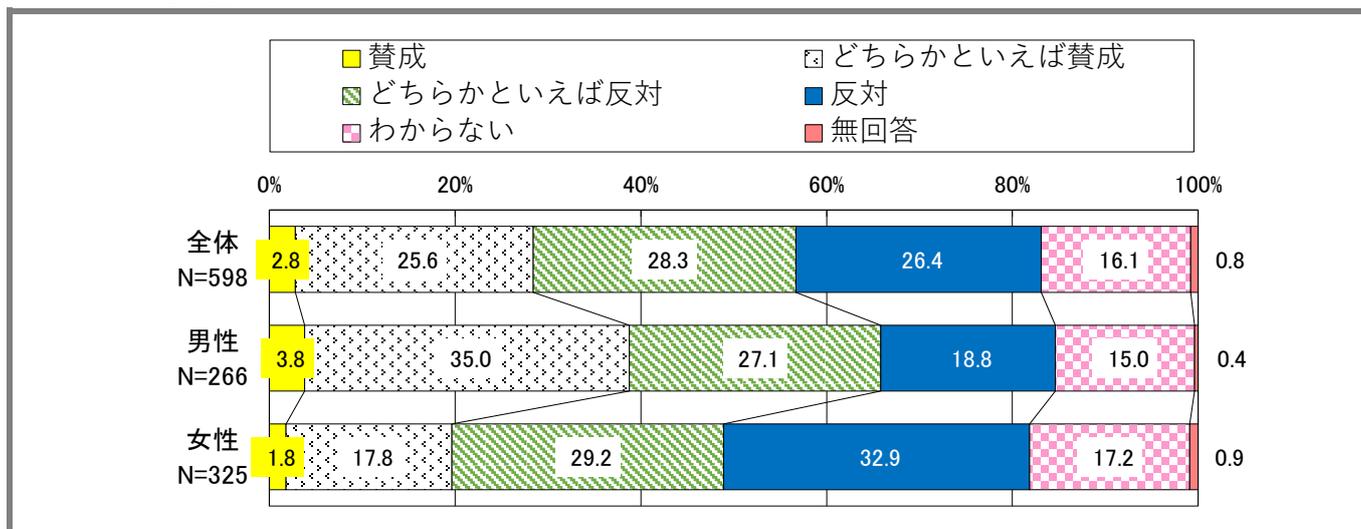
- 社会通念・慣習・しきたりなどでの男女の地位の不平等感については、「男性優遇」という女性の回答割合が他の分野に比べても高く、男性自身も男性の優遇を認める割合が高くなっている。
- また、年齢階層別に見ると、「男性優遇」という回答割合が高かったのは「40歳代の男性」(82.5%)であった。

⑧社会全体でみると（男女別・年齢階層別クロス集計結果）



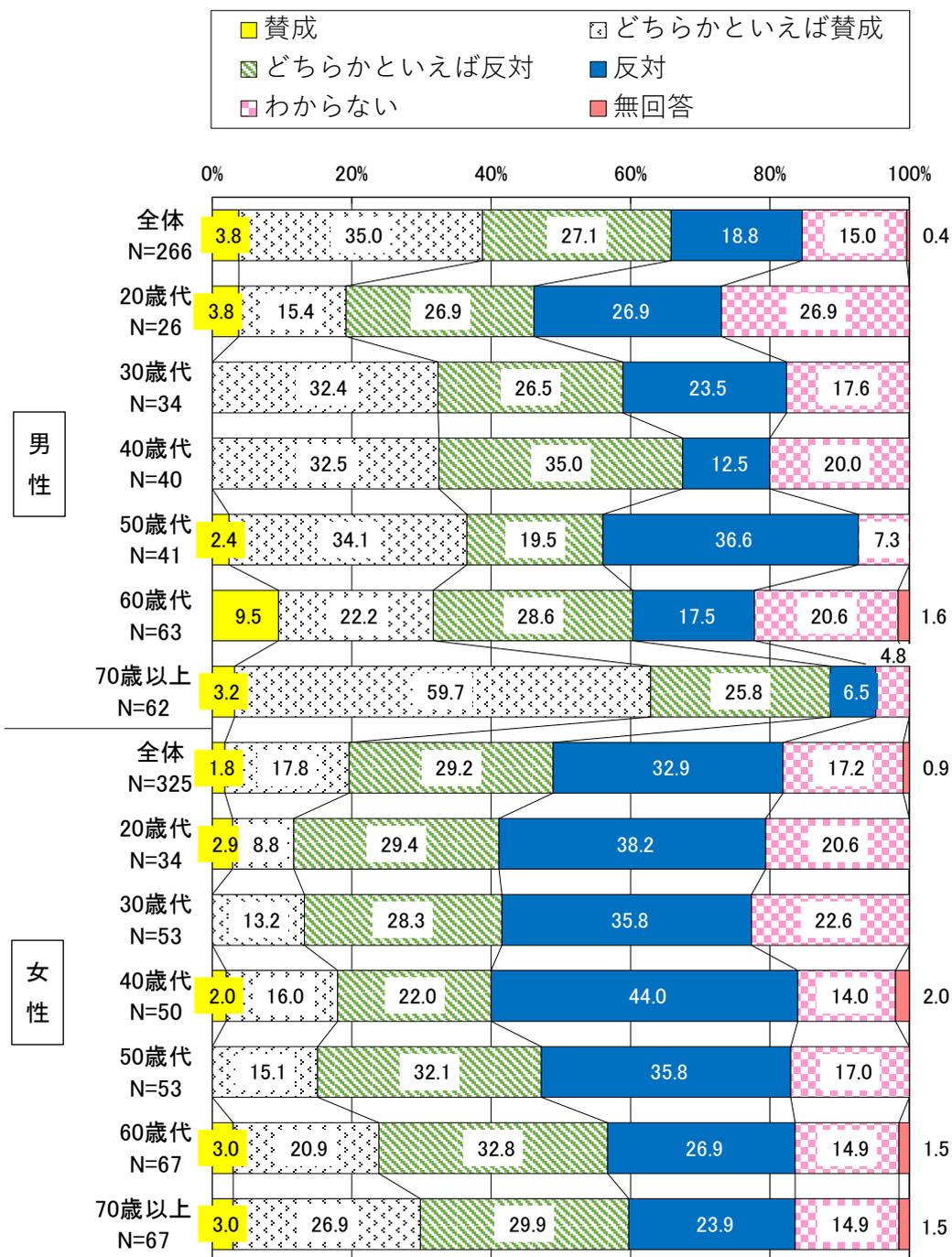
- 社会全体での男女の地位の不平等感についても、「50歳代」を除く全年齢階層で男性に比べ女性の方が「男性優遇」という不平等感を感じている人の割合が高くなっている。
- 「男性優遇」という回答割合が高かったのは「50歳代の男性」(80.5%)であった。

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。
(1つに○)



- 性別による役割分担意識として代表的なものである「男は仕事、女は家庭」という考え方については、全体では「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた反対派（54.7%）が、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた賛成派（28.4%）を26.3ポイント上回っている。
- 男女別に見ると、賛成派の割合は、女性（19.6%）に比べ男性（38.8%）の方がかなり高くなっており、特に「70歳以上の男性」では賛成派が62.9%を占めている。
- また、年齢階層別に見て反対派の割合が最も高かったのは、男女ともに「50歳代」（男性：56.1%、女性：67.9%）であった（次ページの男女別・年齢階層別クロス集計結果参照）。

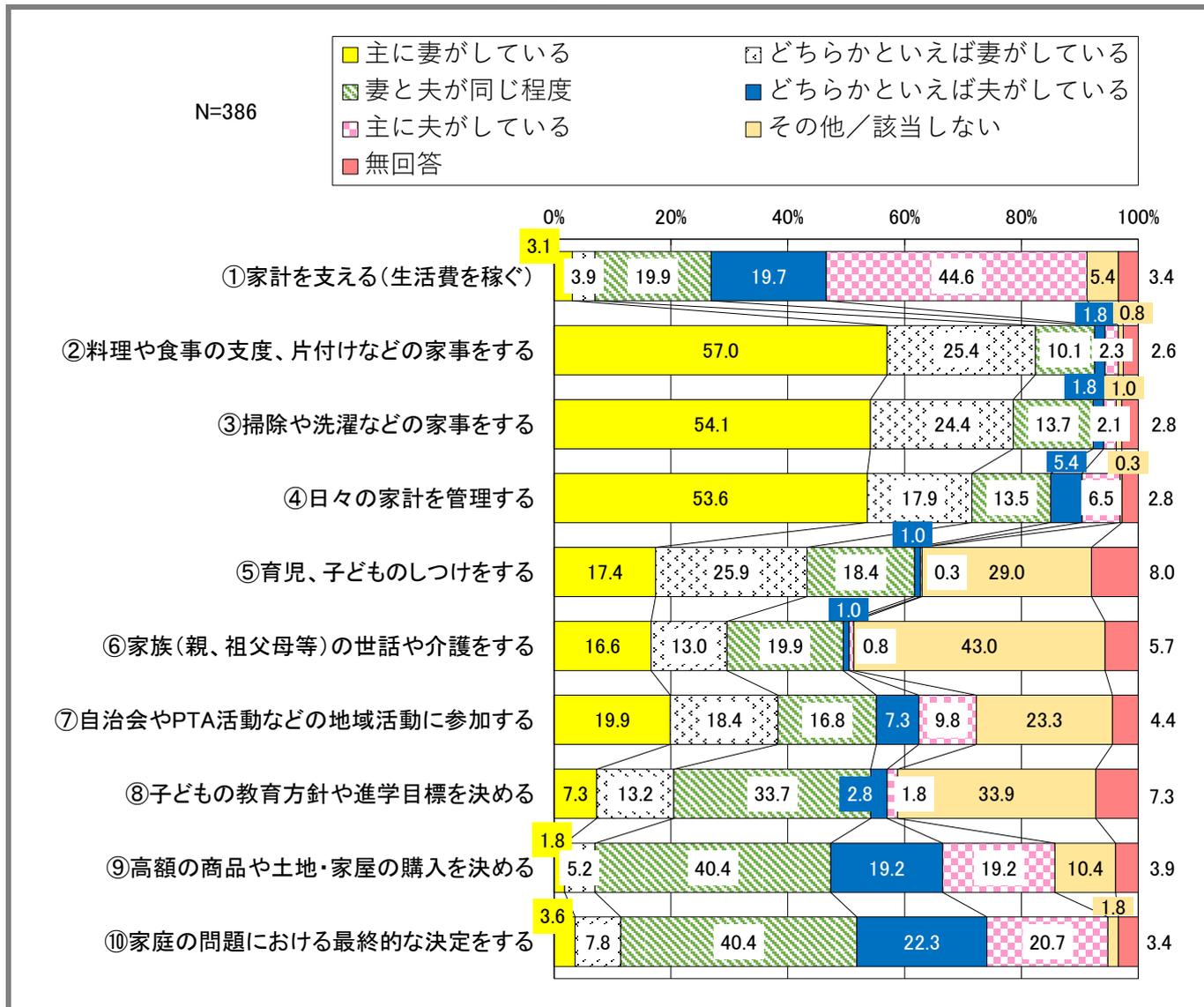
《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



Ⅲ. 家庭生活について

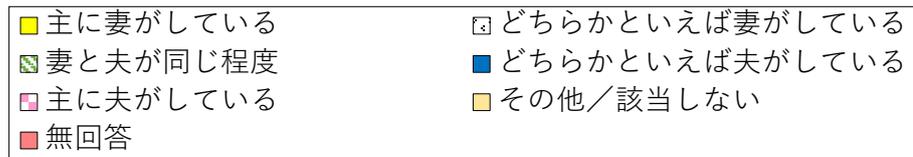
問3 現在、配偶者（パートナー）と同居している方におたずねします。

あなたの家庭では、次にあげるような家庭内の仕事を、主に誰がしていますか。各項目について、最もあてはまるものを選んでください。（①～⑩のそれぞれについて、1つに〇）

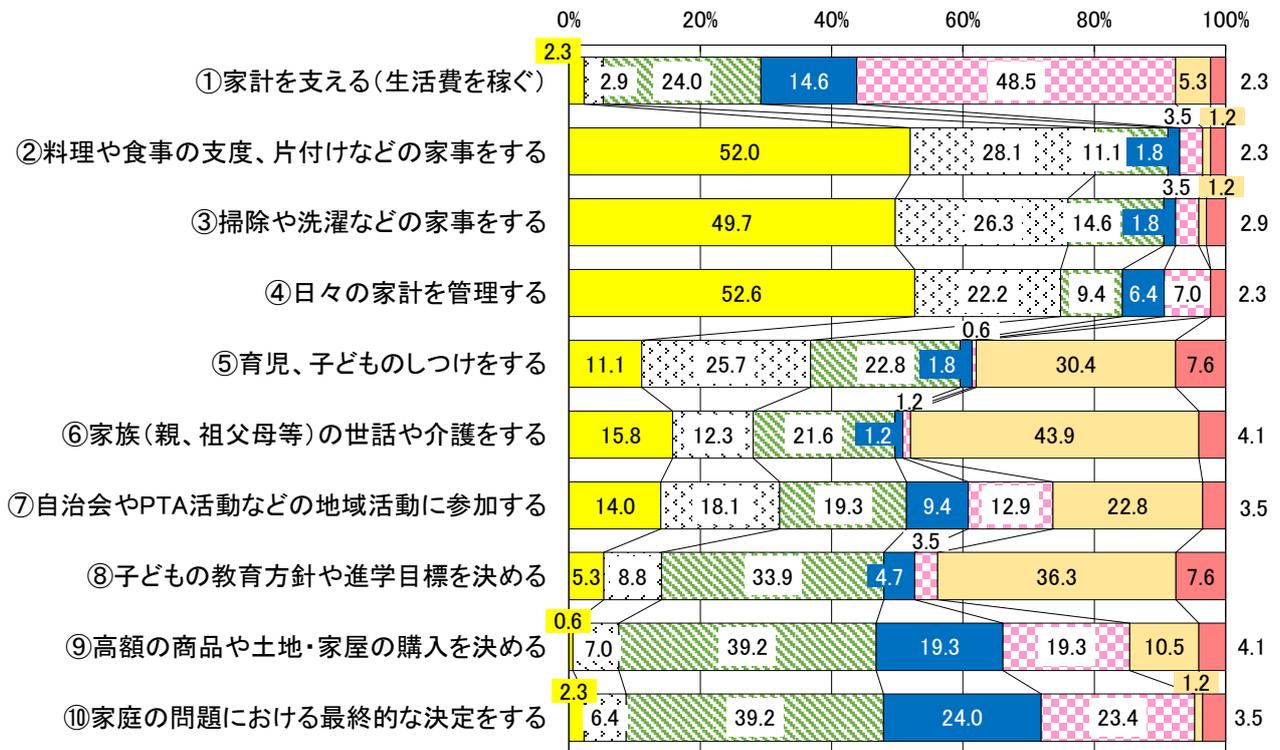


- 家庭における夫婦の役割分担については、「料理や食事の支度、片付けなどの家事をする」「掃除や洗濯などの家事をする」「日々の家計を管理する」をはじめ、「育児、子どものしつけをする」「家族（親、祖父母等）の世話や介護をする」「自治会やPTA活動などの地域活動に参加する」などの項目で「主に妻がしている」「どちらかといえば妻がしている」の割合が高くなっており、家庭での役割分担が妻に偏っている実態が浮き彫りとなっている。
- 「妻と夫が同じ程度」という回答割合が高かったのは「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」や「家庭の問題における最終的な決定をする」（ともに40.4%）であったが、一方で、この2項目については、「主に夫がしている」「どちらかといえば夫がしている」の割合が「主に妻がしている」「どちらかといえば妻がしている」の割合を大きく上回っている。

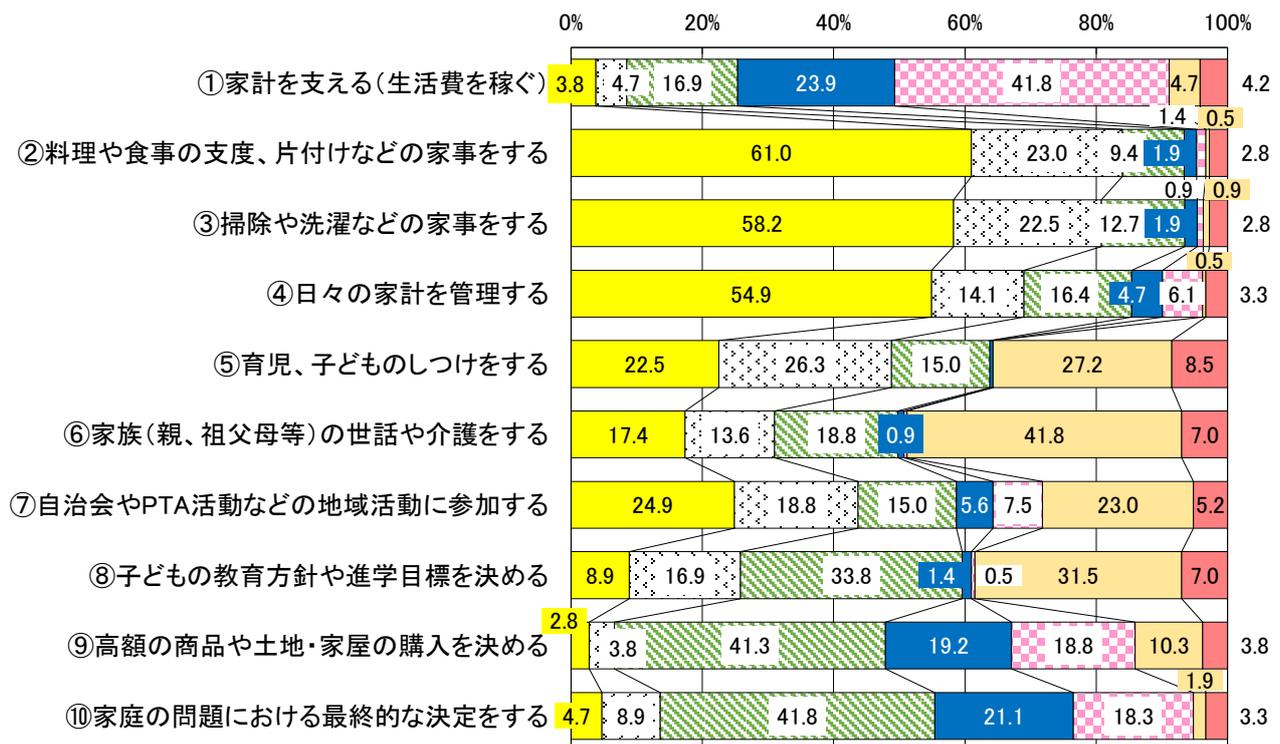
《男女別クロス集計結果》



男性(N=171)

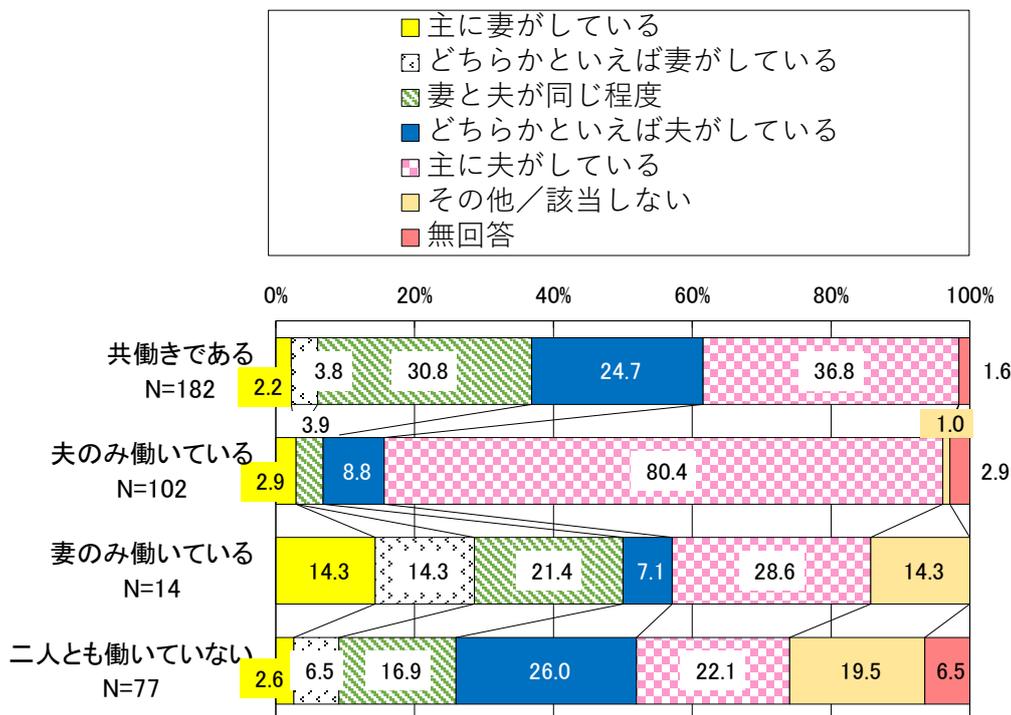


女性(N=213)

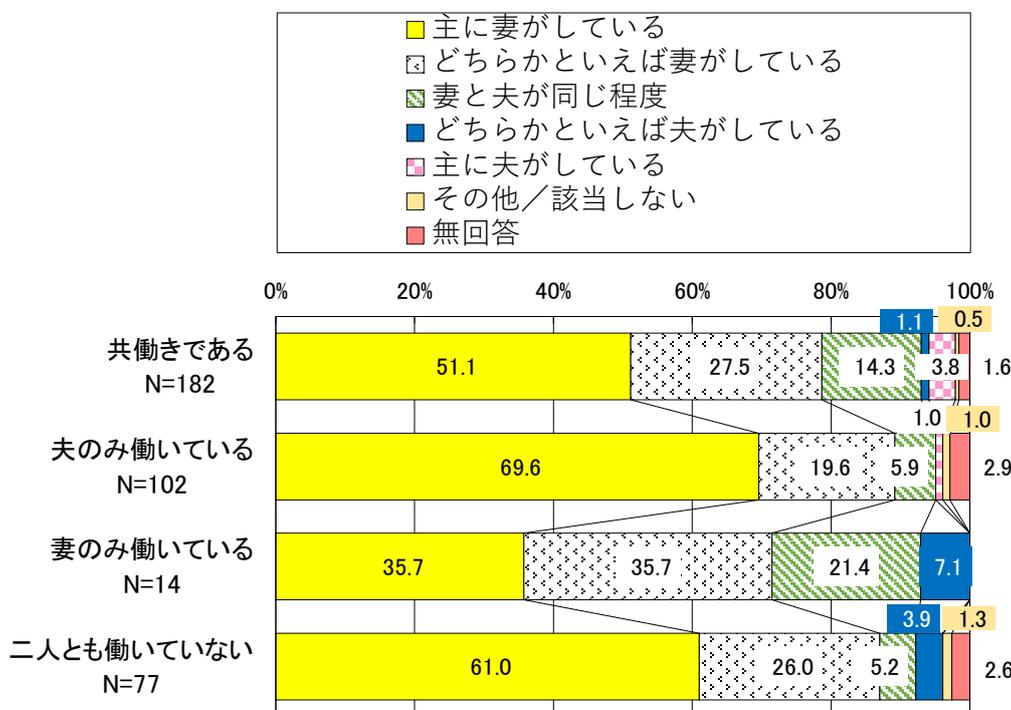


《夫婦の働き方別クロス集計結果》

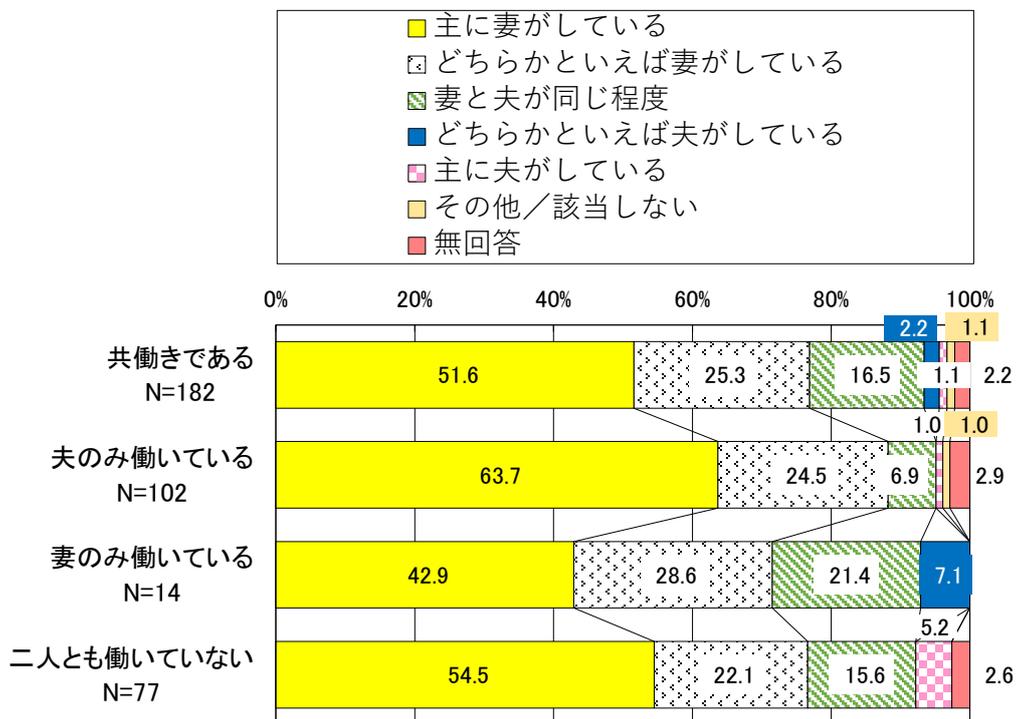
①家計を支える（生活費を稼ぐ）



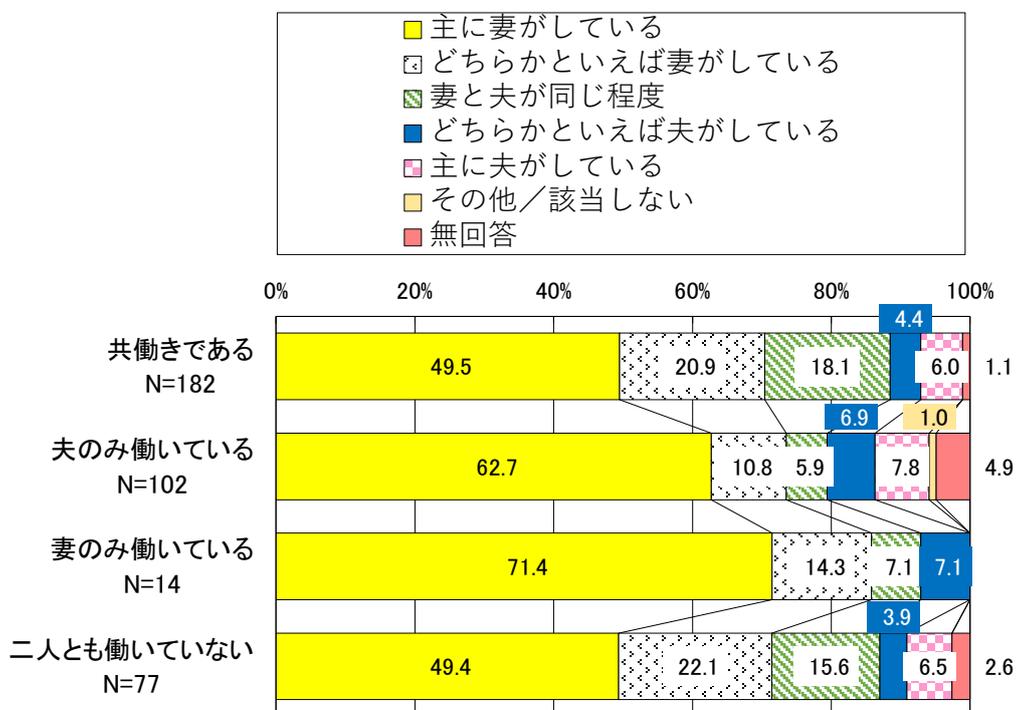
②料理や食事の支度、片付けなどの家事をする



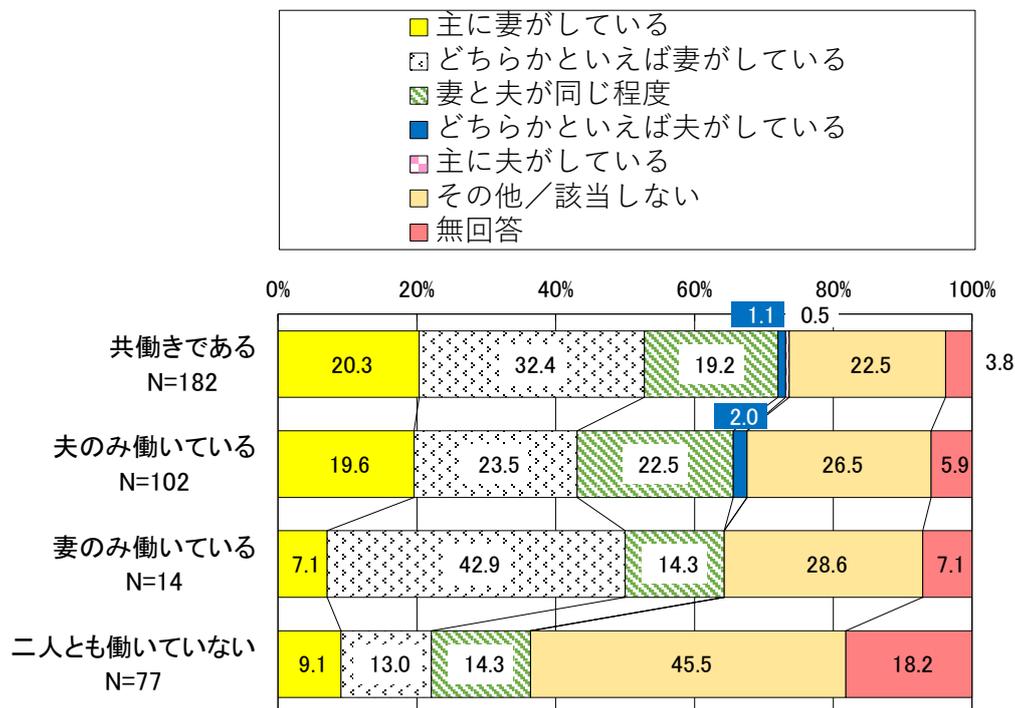
③掃除や洗濯などの家事をする



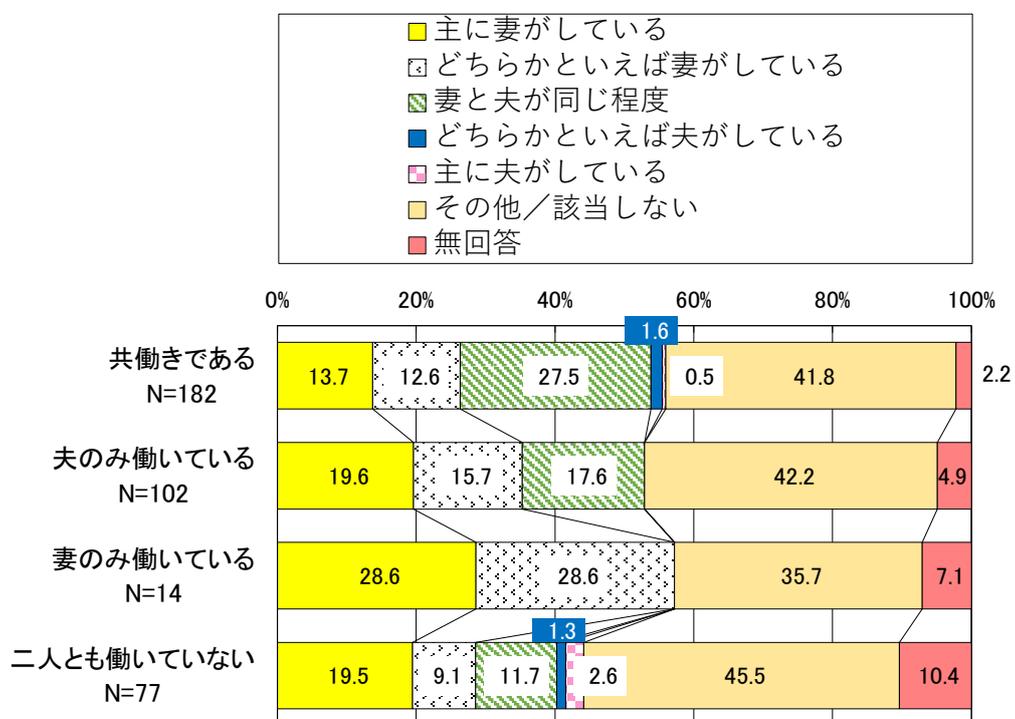
④日々の家計を管理する



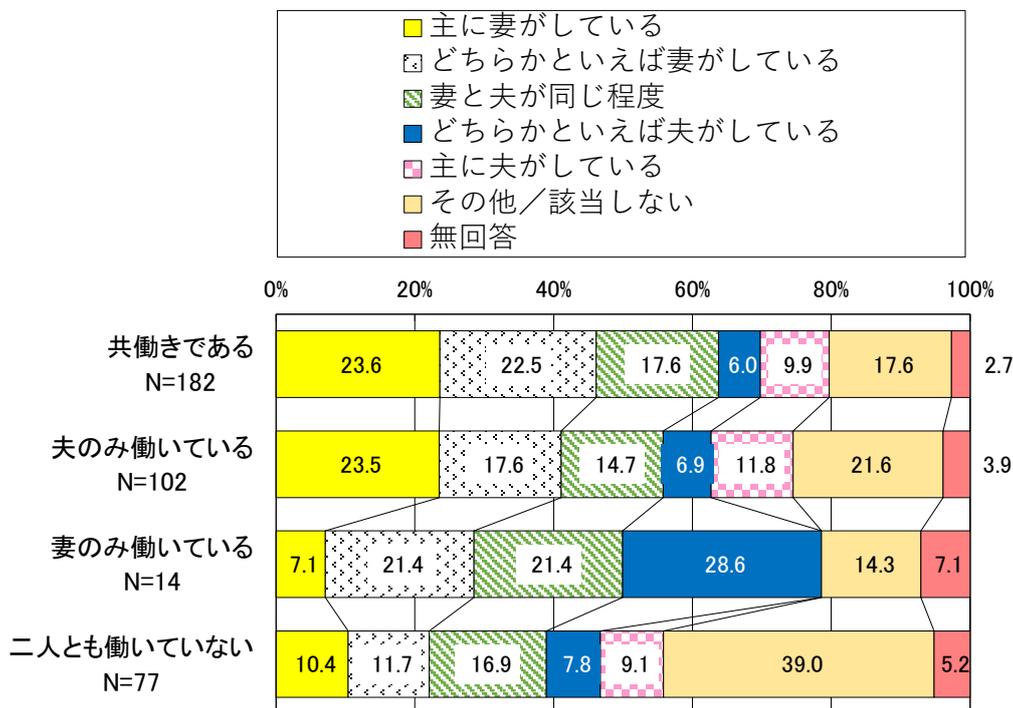
⑤育児、子どものしつけをする



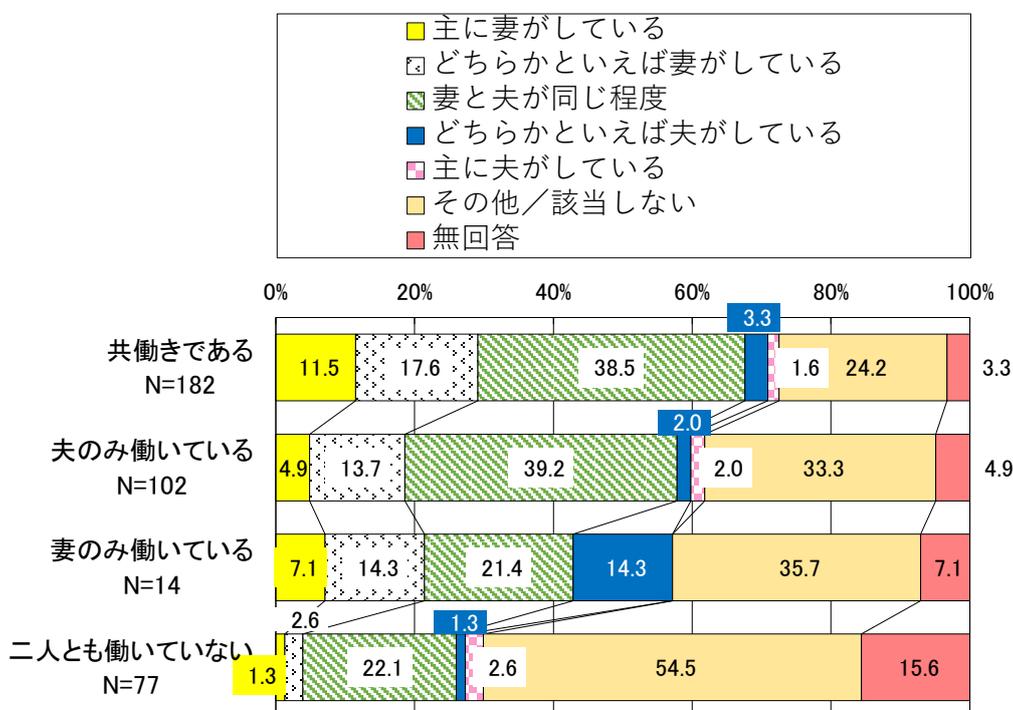
⑥家族（親、祖父母等）の世話や介護をする



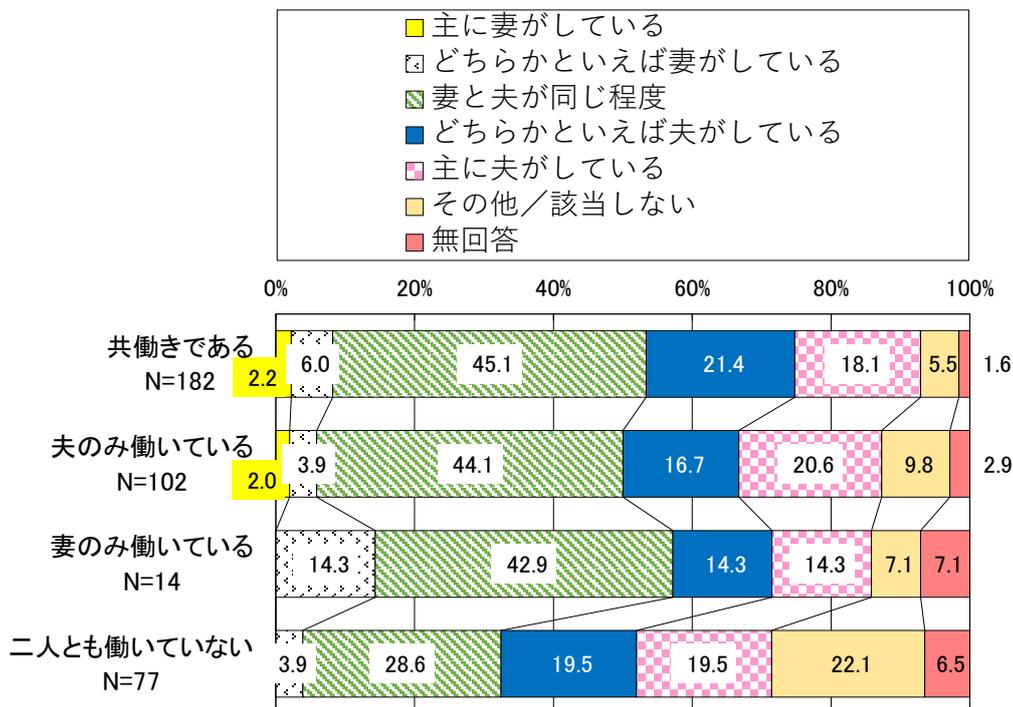
⑦自治会やPTA活動などの地域活動に参加する



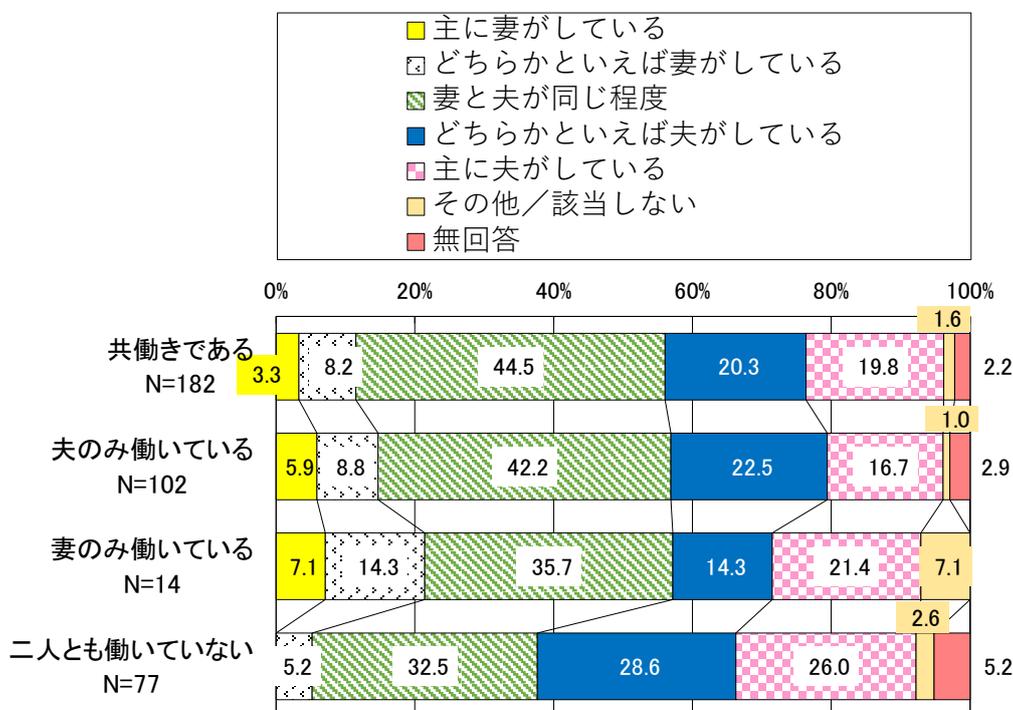
⑧子どもの教育方針や進学目標を決める



⑨高額の商品や土地・家屋の購入を決める



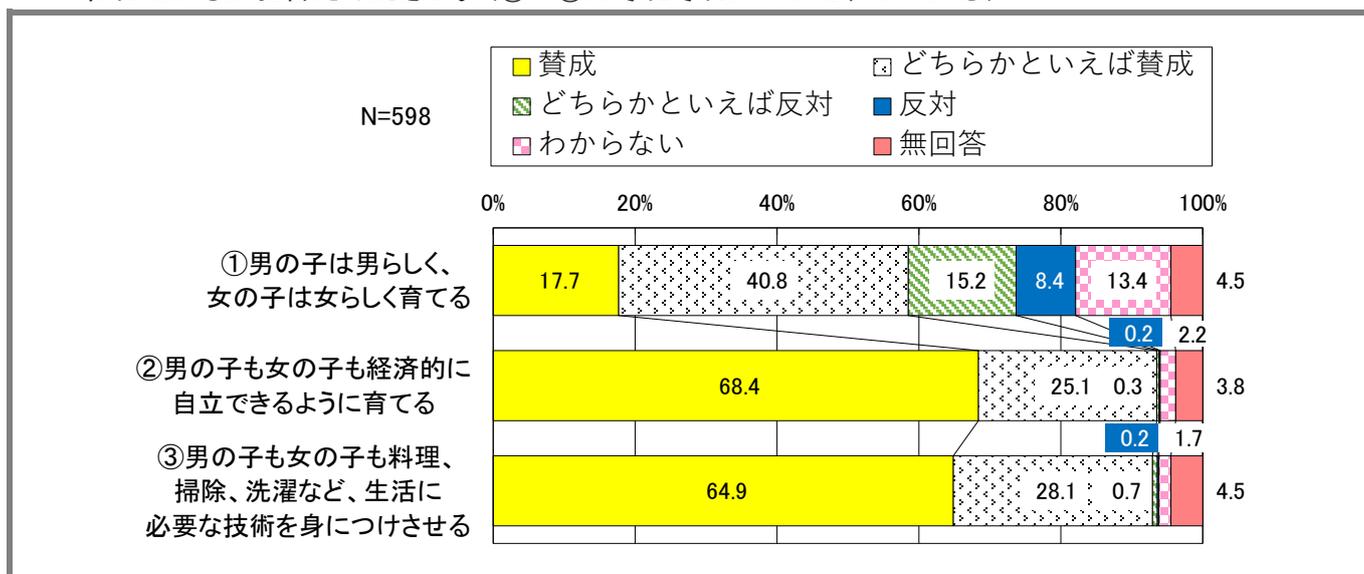
⑩家庭の問題における最終的な決定をする



- 夫婦の働き方別にみると、「家計を支える（生活費を稼ぐ）」ことについて「妻と夫が同じ程度」と回答したのは、共働き世帯でも30.8%に留まっており、「主に夫がしている」または「どちらかといえば夫がしている」の割合が61.5%となっている。一方、「料理や食事の支度、片付けなどの家事をする」については、共働き世帯の51.1%が「主に妻がしている」と回答しており、「どちらかといえば妻がしている」を合わせると78.6%と極めて高い割合となっている。また、「育児、子どものしつけをする」については、「主に妻がしている」「どちらかといえば妻がしている」と回答した人の割合は、むしろ共働き世帯の方が夫のみ働いている世帯よりも高い割合となっており、共働き世帯においても家事、育児の負担が女性に偏っていることがうかがえる。
- なお、「高額の商品や土地・家屋の購入を決める」「家庭の問題における最終的な決定をする」など家庭における決定権について、夫のみ働いている世帯と共働き世帯とで比較してもあまり差異はなく、今回の調査結果においては、経済的な役割を担うことと家庭における決定権との間の相関関係は認められなかった。

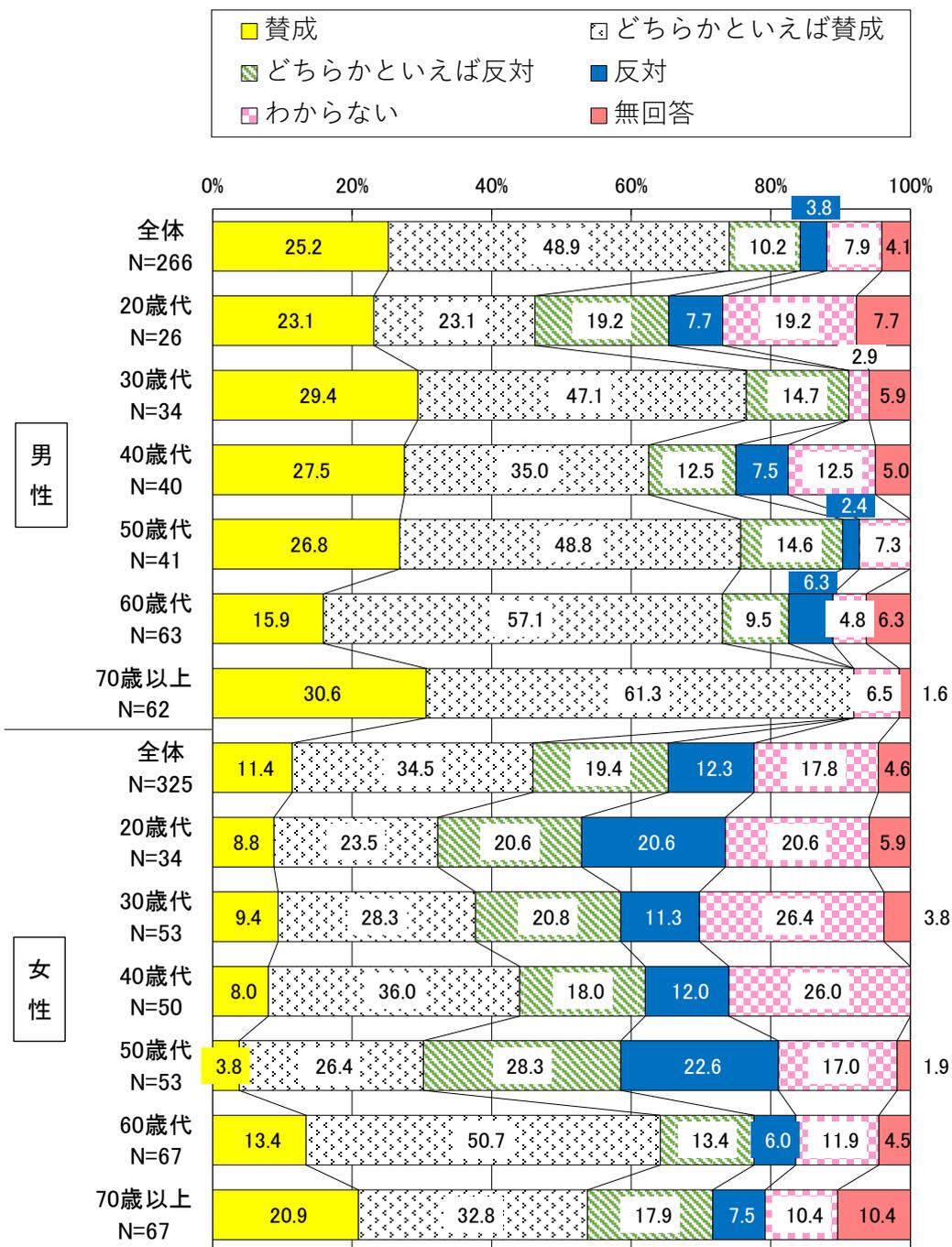
問4 あなたは、子どもの育て方についてどのような考え方を持っていますか。

次の項目について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。子どものいない方もどう思われているかお答えください。(①～③のそれぞれについて、1つに○)



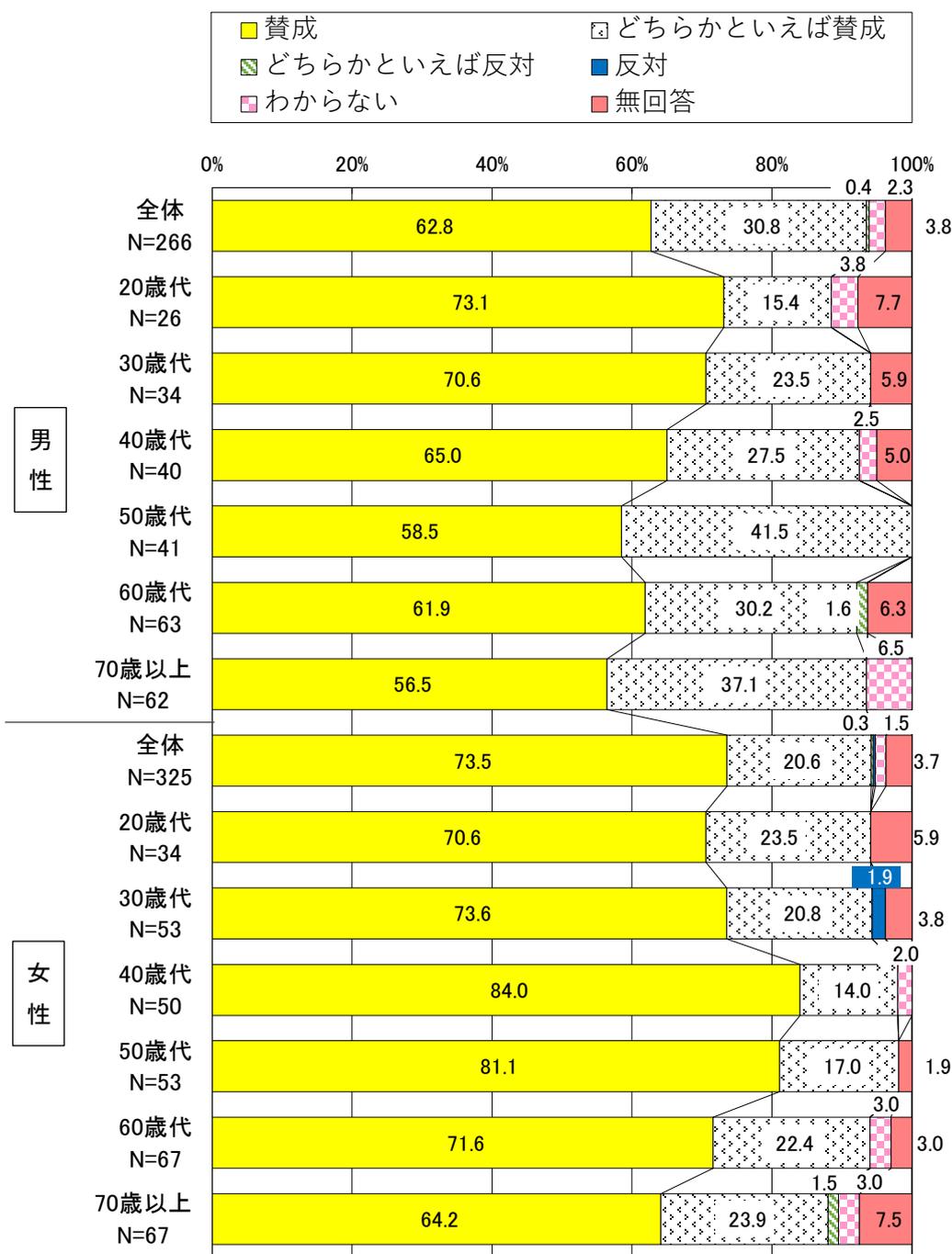
- 子どもの育て方に関する3つの考え方に対する考えをたずねたところ、「賛成」と回答した割合が最も高かったのは「男の子も女の子も経済的に自立できるように育てる」(68.4%)という考え方で、「男の子も女の子も料理、掃除、洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる」という考え方についても64.9%が「賛成」と回答しており、これらはいずれも男女を区別なく育てるべきであるという考え方である。
- しかし、一方で、男女を区別して「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」という考え方に對しても17.7%が「賛成」と回答し、「どちらかといえば賛成」(40.8%)を加えると58.5%を占めていることからわかるように、同じ子育てについても場面によって男女を区別する考え方と区別しない考え方とが混在している様子が見られる。

①男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



- 「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」という考え方については、男女とも賛成派が反対派を大きく上回っているが、賛成派の割合は女性（45.9%）に比べ男性（74.1%）の方が 28.2 ポイント高くなっている。
- また、女性の「20歳代」と「50歳代」を除く全ての男女別・年齢階層において賛成派が反対派を上回っているが、反対派の割合が高かったのは、男性では「20歳代」（26.9%）、女性では「50歳代」（50.9%）であった。

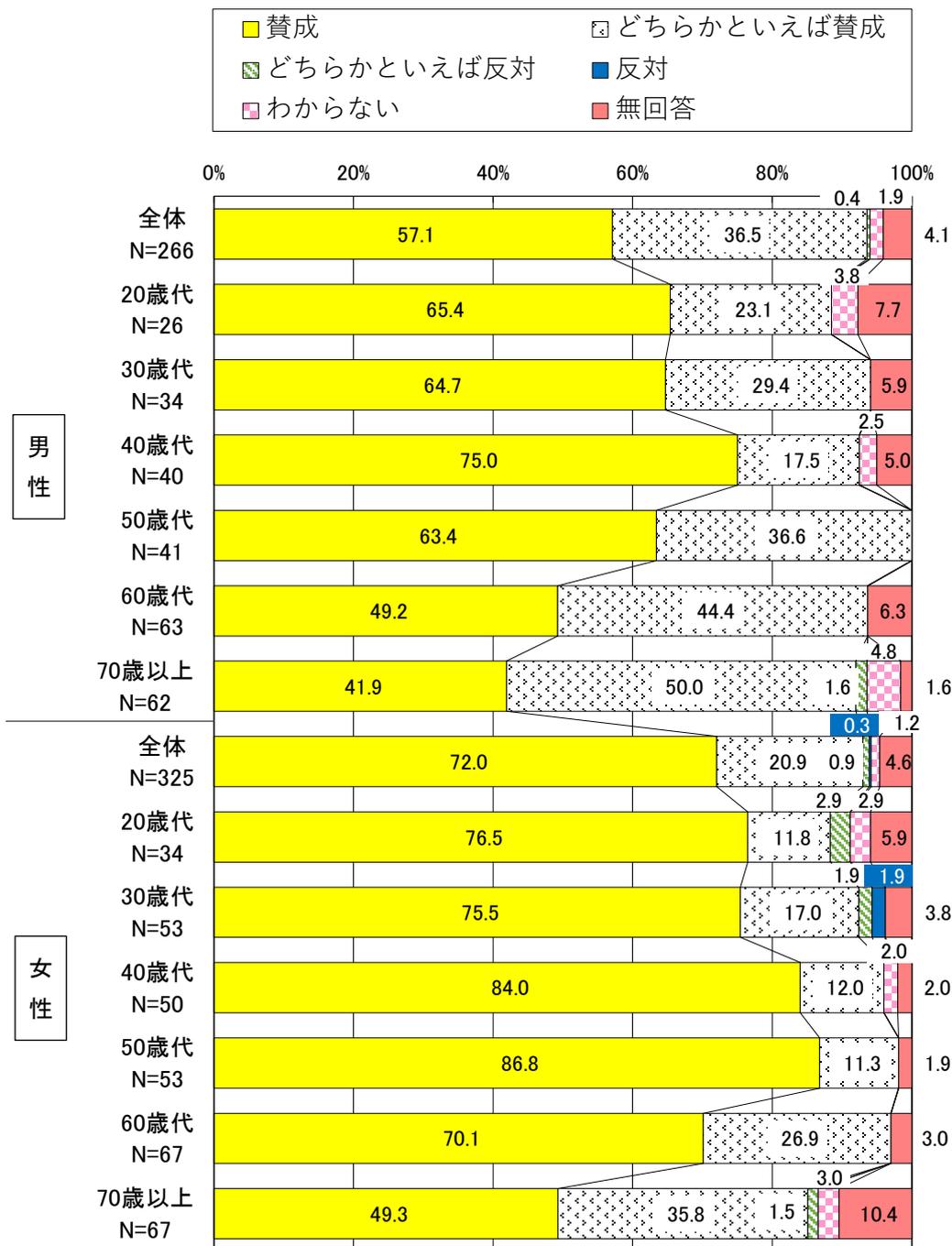
② 男の子も女の子も経済的に自立できるように育てる《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



● 「男の子も女の子も経済的に自立できるように育てる」という考え方については、男女とも賛成派がほとんどで、反対派は男性で0.4%、女性で0.3%であった。

③男の子も女の子も料理、掃除、洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる

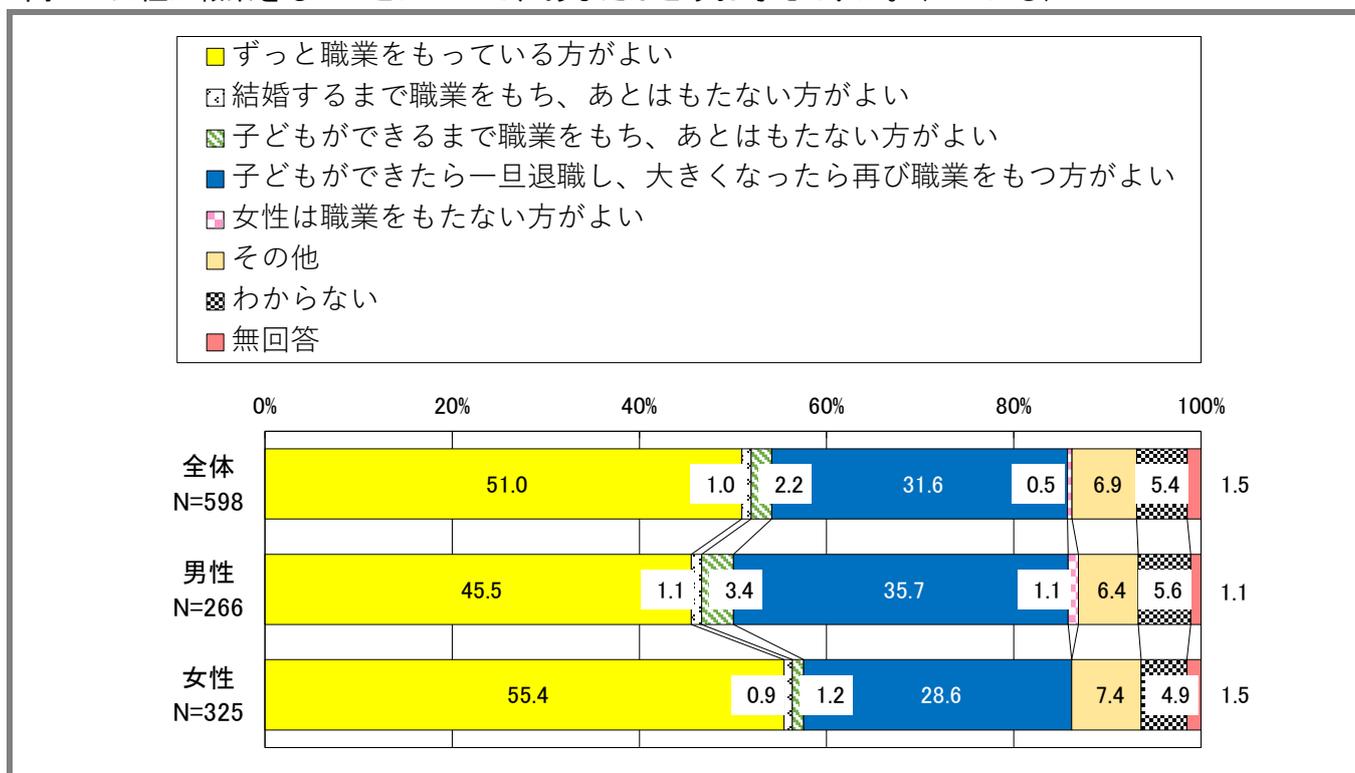
《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



- 「男の子も女の子も料理、掃除、洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる」という考え方についても、男女とも賛成派がほとんどで、反対派は男性で0.4%、女性で0.3%であった。

IV. 就労・働き方について

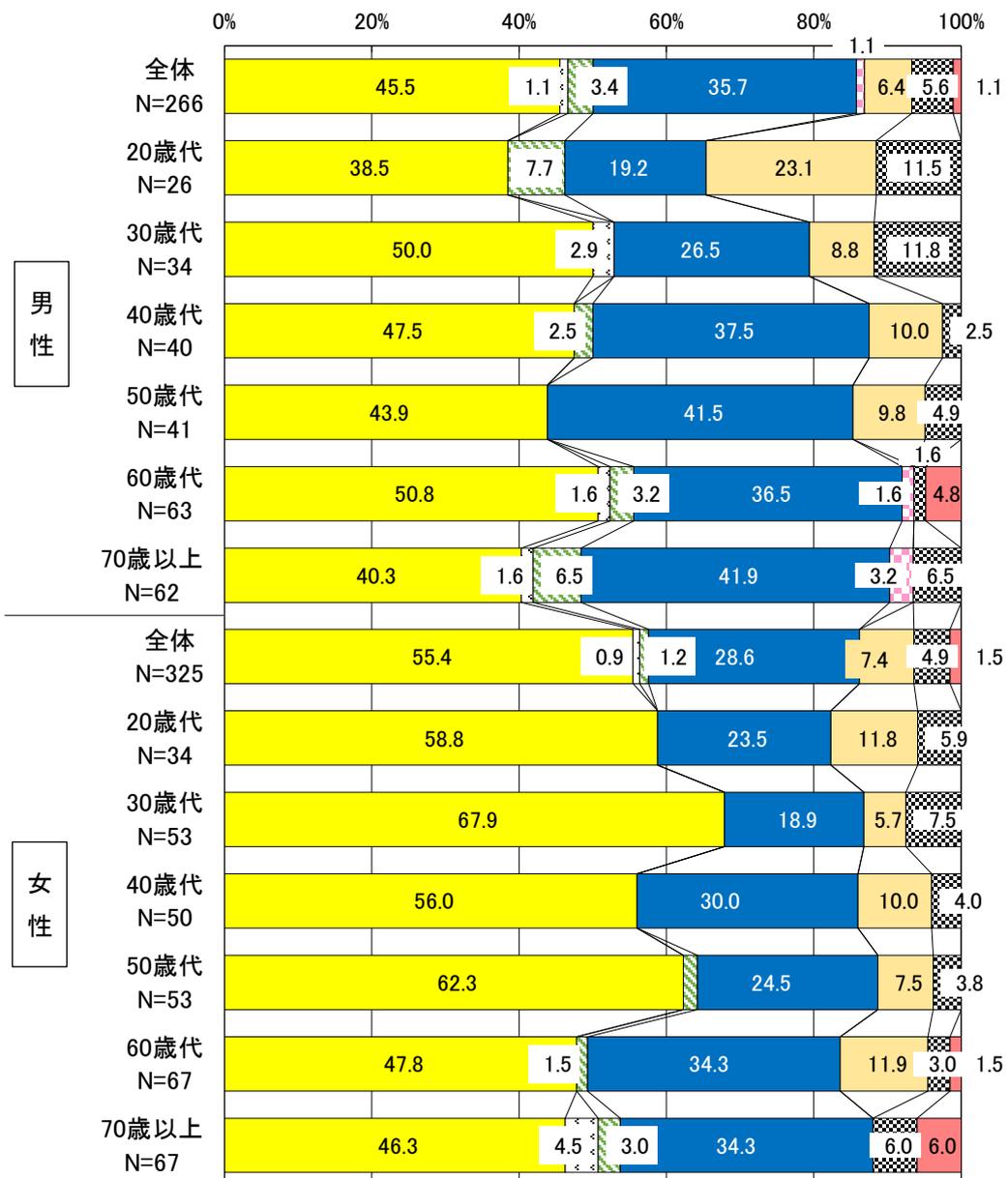
問5 女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。(1つに〇)



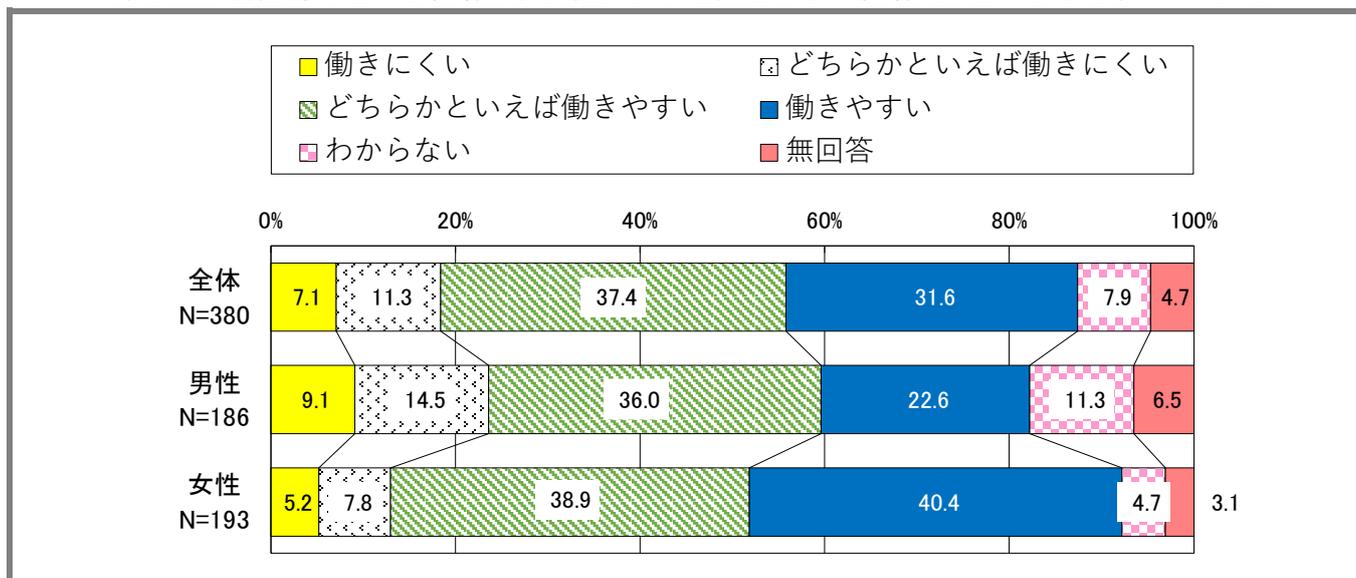
- 「女性が職業を持つこと」について、どのように考えているかをたずねたところ、「ずっと職業をもっている方がよい」という回答割合が51.0%と最も高く、「子どもができたら一旦退職し、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が31.6%で、それに続いており、この傾向は男女別に見てもあまり差異が見られなかった。
- 男女別・年齢階層別に見ると、「ずっと職業をもっている方がよい」よりも「子どもができたら一旦退職し、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と回答した人の割合が高かったのは、「70歳以上の男性」のみという結果となっている（次ページの男女別・年齢階層別クロス集計結果参照）。

《男女別・年齢階層別クロス集計結果》

- ずっと職業をもっている方がよい
- 結婚するまで職業をもち、あとはもたない方がよい
- ▨ 子どもができるまで職業をもち、あとはもたない方がよい
- 子どもができたら一旦退職し、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 女性は職業をもたない方がよい
- その他
- ▨ わからない
- 無回答

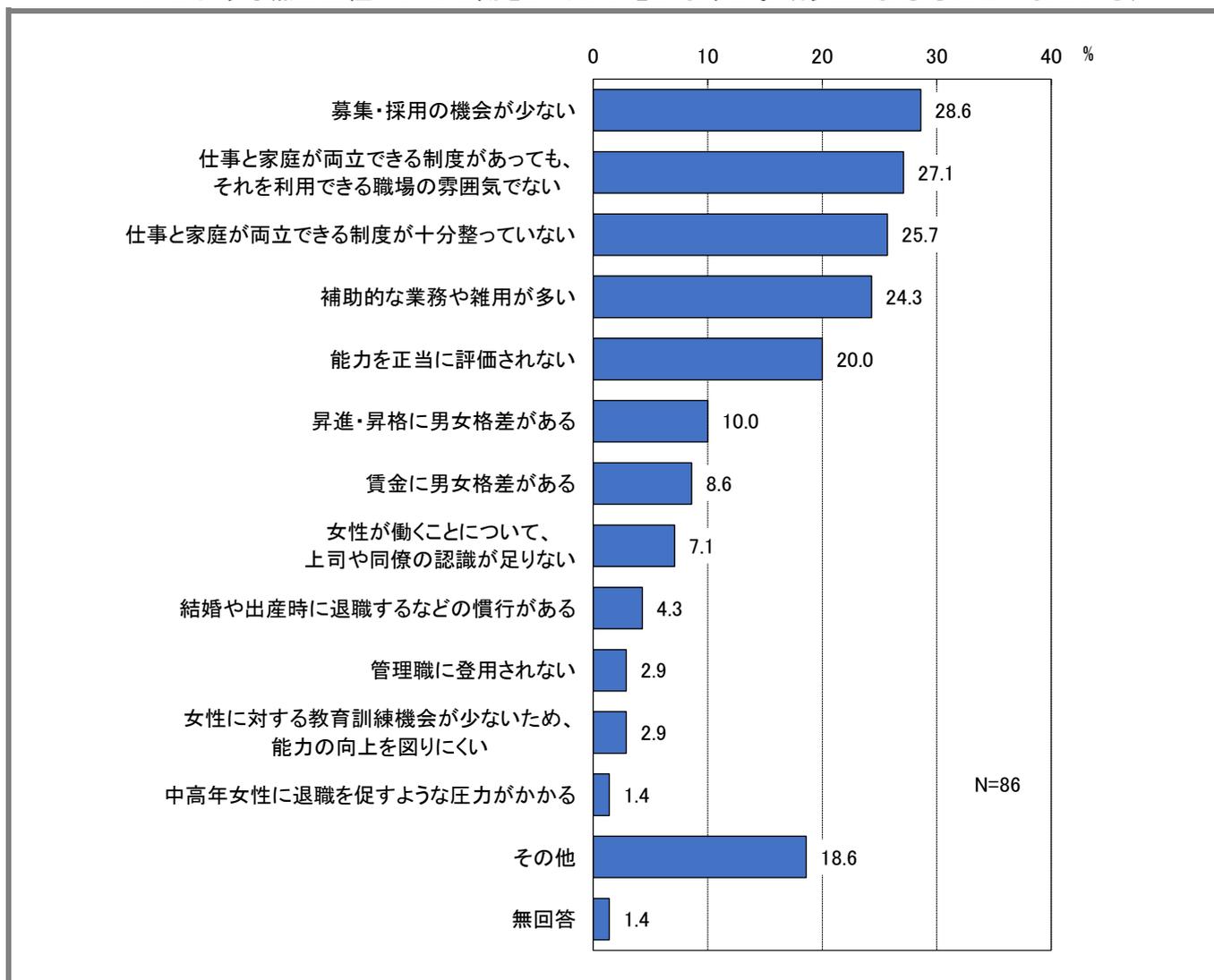


問6 現在職業をもっている方におたずねします。(職業をもっていない方は、問7へ)
 あなたが現在勤めている職場は、女性にとって働きやすい職場だと思いますか。(1つに○)



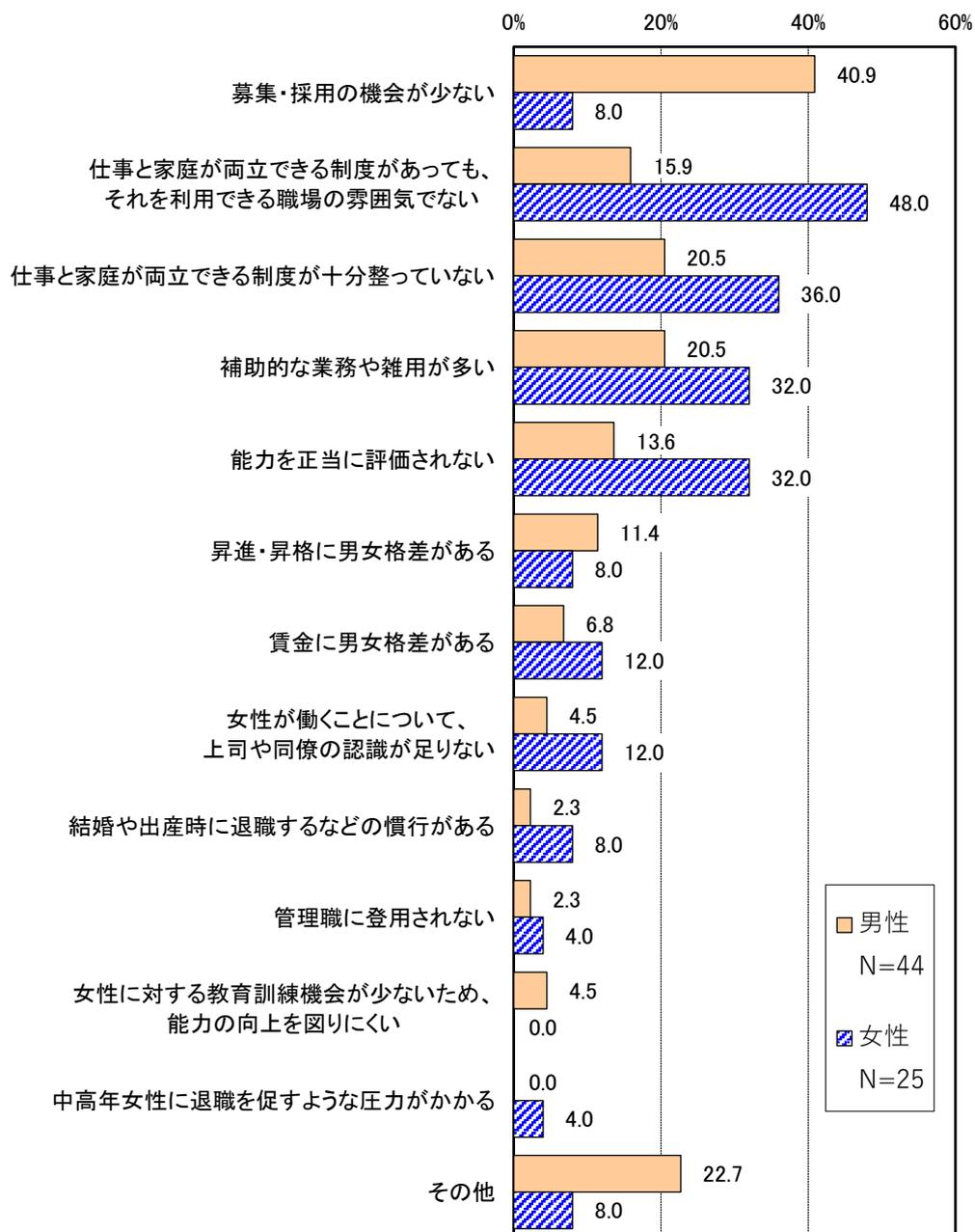
- 現在勤めている職場が女性にとって「働きにくい」と回答した人の割合は7.1%、「どちらかといえば働きにくい」(11.3%)と合わせ18.4%の人が「働きにくい」と回答している。
- 男女別に見ると、「働きにくい」「どちらかといえば働きにくい」と回答した人の割合は、女性(13.0%)よりも男性(23.6%)の方が10.6ポイント高い割合となっている。

問6-1 (問6で「1. 働きにくい」「2. どちらかといえば働きにくい」と答えた方へ)
 どのような点が女性にとって働きにくいと思いますか。(あてはまるもの3つまでに○)

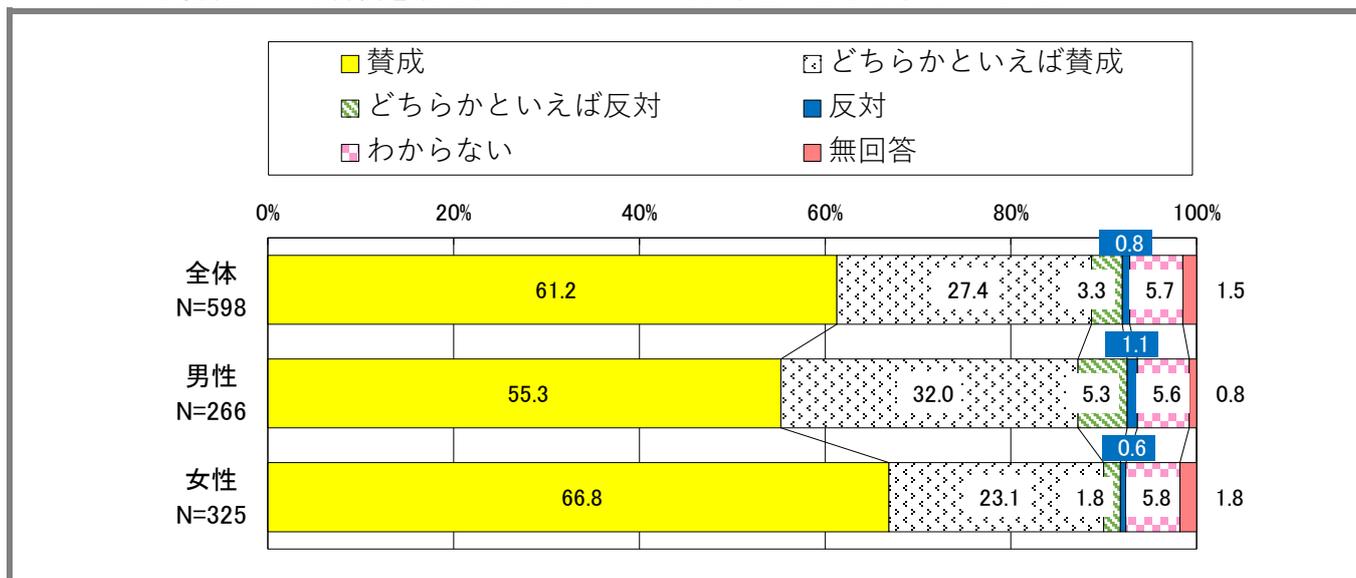


- 女性にとって働きにくいと考えた理由については、「募集・採用の機会が少ない」が28.6%と最も多く、以下、「仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でない」(27.1%)「仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない」(25.7%)、「補助的な業務や雑用が多い」(24.3%)と続いている。
- 男女別に見ると、女性に比べ男性の回答割合が特に高かったのは「募集・採用の機会が少ない」(男性：40.9%、女性：8.0%)、逆に男性に比べ女性の回答割合が特に高かったのは「仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でない」(男性：15.9%、女性：48.0%)や「能力を正當に評価されない」(男性：13.6%、女性：32.0%)、「仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない」(男性：20.5%、女性：36.0%)となっている(次ページの男女別クロス集計結果参照)。

《男女別クロス集計結果》

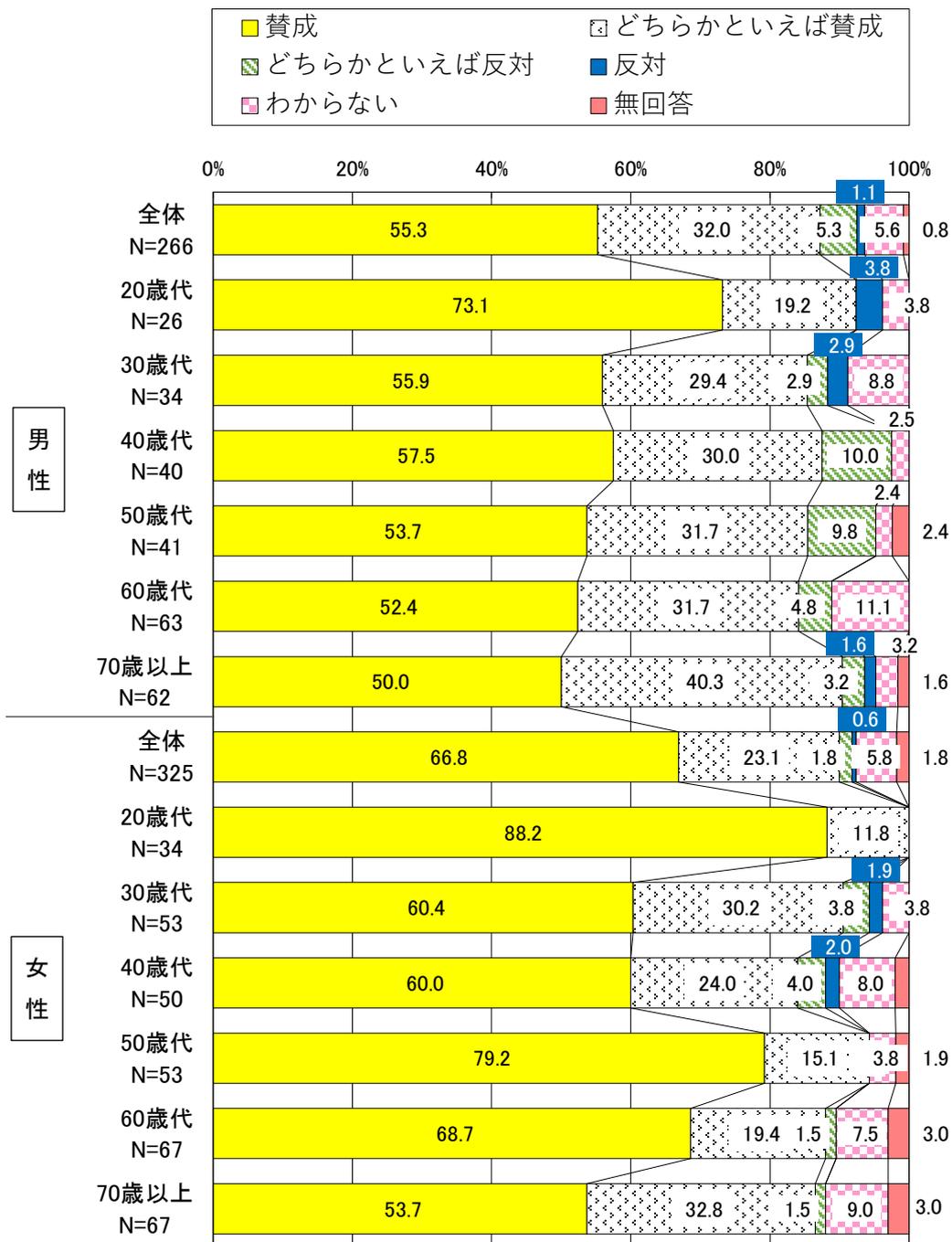


問7 育児や介護を行うために、法律に基づき育児休業・介護休業を取得できる制度があります。あなたは、男性がこの制度を活用することについてどう思いますか。(1つに○)

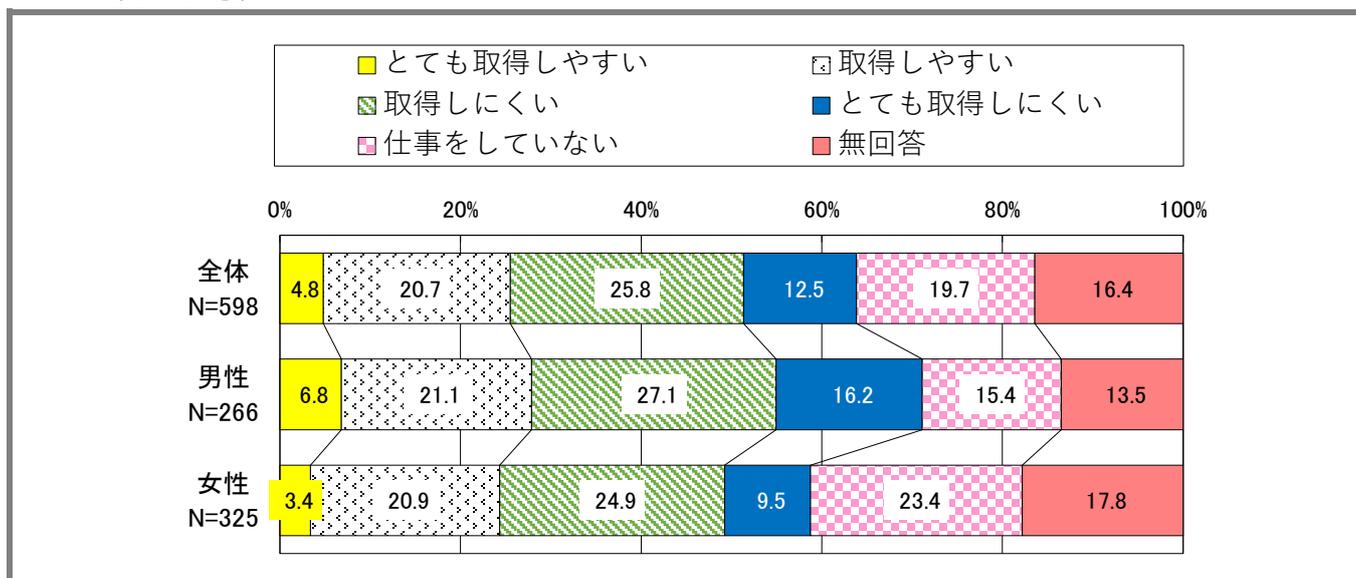


- 男性が育児休業・介護休業を活用することに「賛成」と回答した人の割合は61.2%で、「どちらかといえば賛成」(27.4%)を合わせ、いわゆる賛成派が88.6%を占めている。
- 年齢階層別に見ると、「賛成」の割合が最も高かったのは男女とも「20歳代」で、逆に「賛成」の割合が最も低かったのは男女とも「70歳以上」であった(次ページの男女別・年齢階層別クロス集計結果参照)。

《男女別・年齢階層別クロス集計結果》

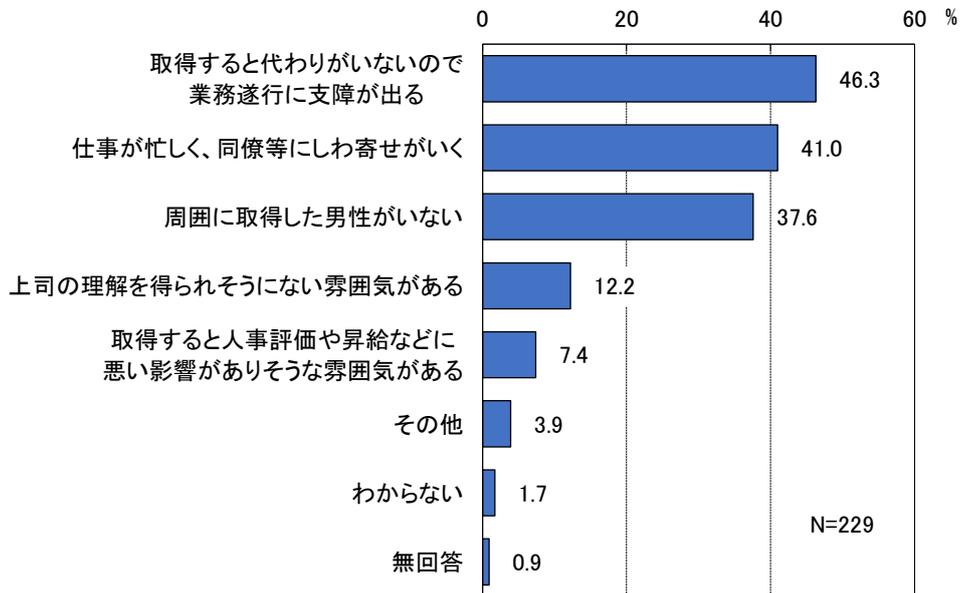


問8 あなたの職場では、男性が育児休業・介護休業を取得しようと思えば容易に取得が可能ですか。
(1つに○)

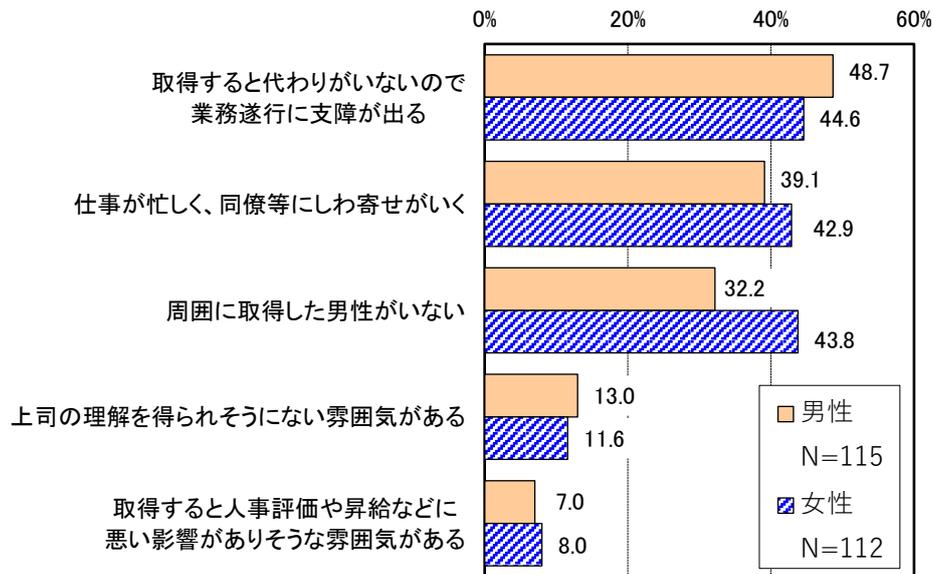


- 現在の職場について、男性が育児休業・介護休業を「とても取得しやすい」(4.8%)、「取得しやすい」(20.7%)と回答した人の割合は25.5%で、「取得しにくい」(25.8%)、「とても取得しにくい」(12.5%)と回答した人の割合(38.3%)を12.8ポイント下回っている。

問8-1 (問8で「3. 取得しにくい」「4. とても取得しにくい」と答えた方へ)
その理由は何だと思えますか。(あてはまるもの2つまでに○)



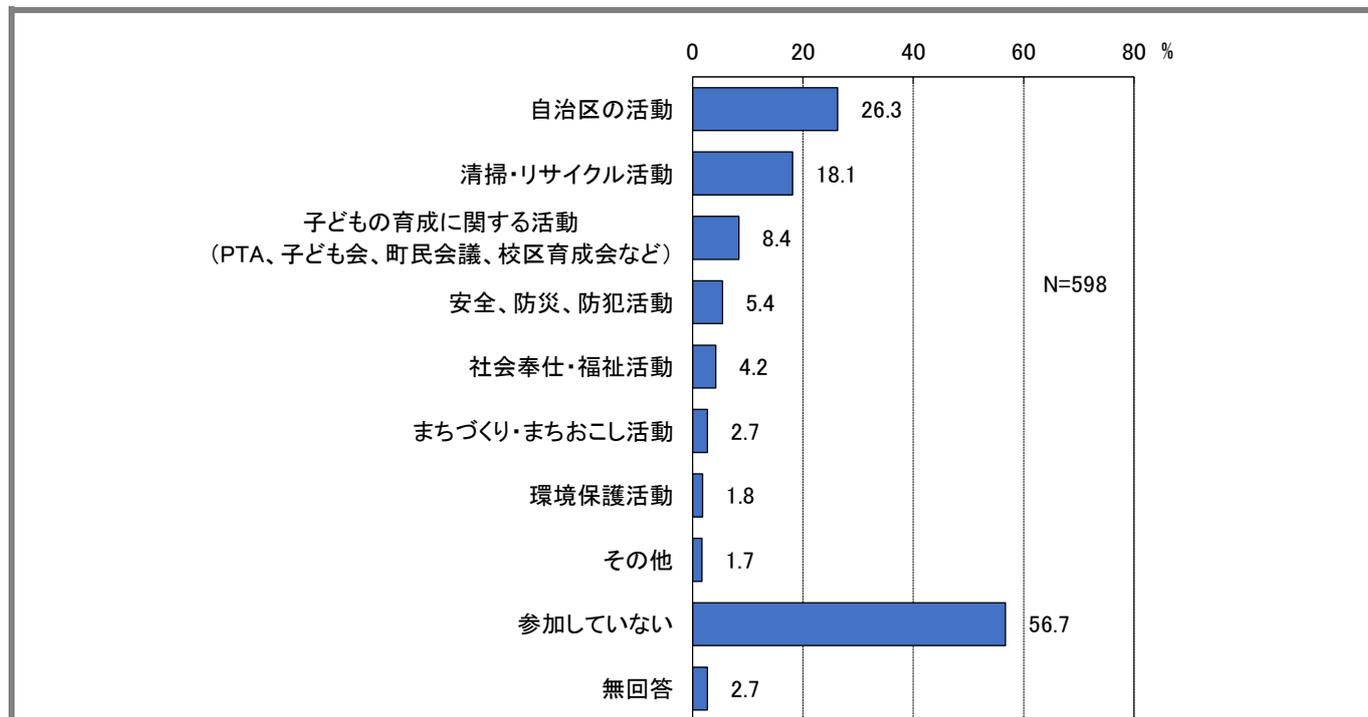
《男女別クロス集計結果》



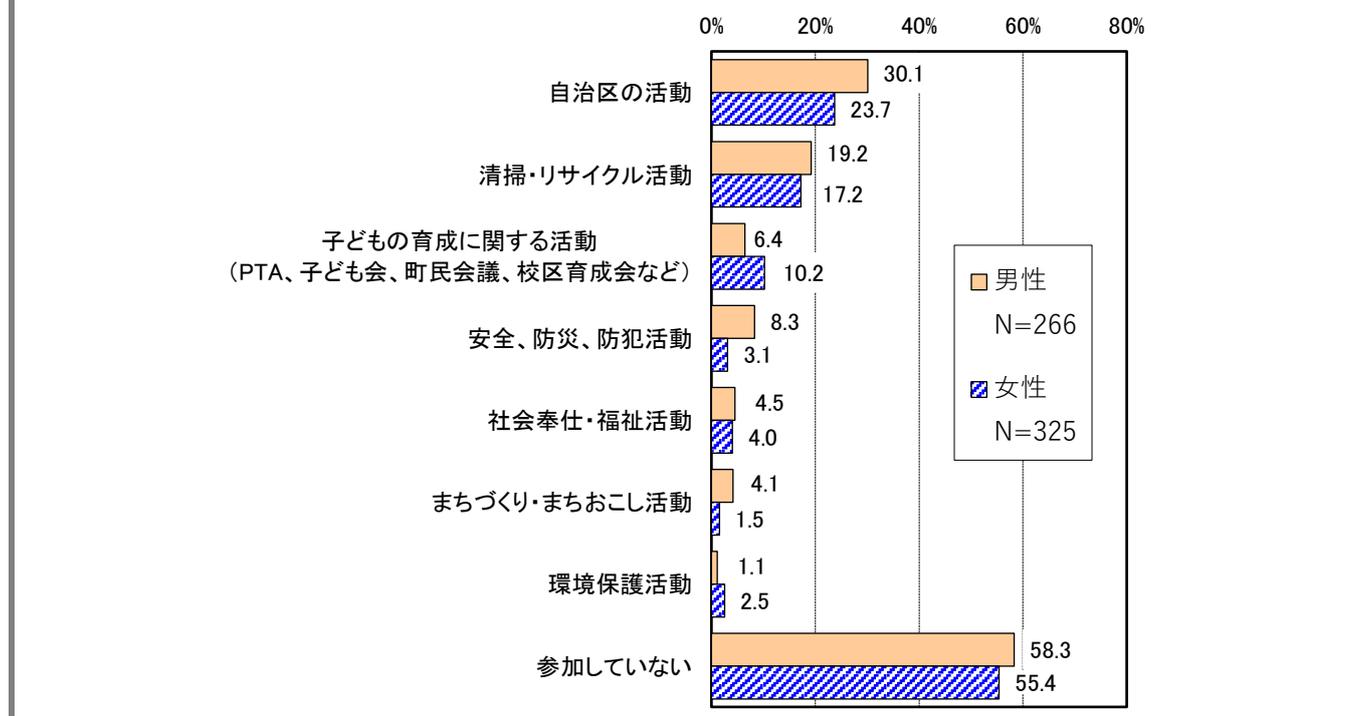
- 男性が育児休業・介護休業を取得しにくい理由については、「取得すると代わりがないので業務遂行に支障が出る」と回答した人の割合が 46.3%と最も高く、以下、「仕事が忙しく、同僚等にしわ寄せがいく」(41.0%)、「周囲に取得した男性がない」(37.6%)と続いている。

V. 地域活動や社会活動への参加について

問9 あなたは現在、地域づくりに関わる活動に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)



《男女別クロス集計結果》



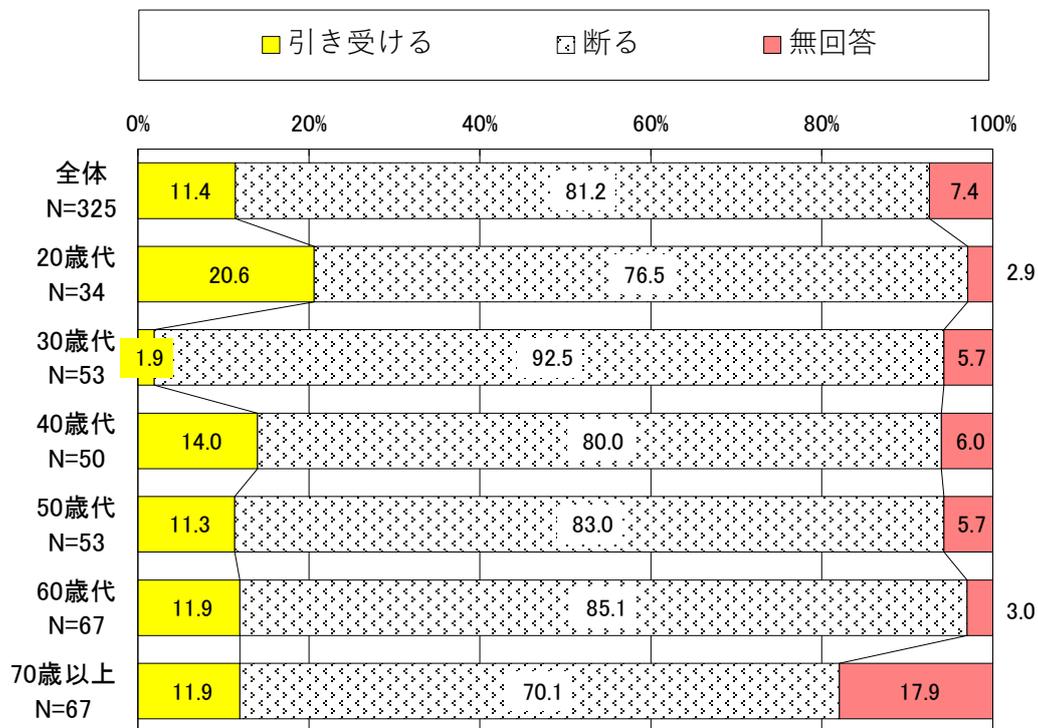
- 地域づくりに関わる活動への参加状況については、「参加していない」と回答した人が56.7%と半数以上を占めており、これと無回答を除く他の40.6%が何らかの活動に参加しているという結果となっている。
- 参加していると回答した割合が最も高かったのは、「自治区の活動」(26.3%)であった。

問10 自治区長や公民館長、PTA会長などの地域の役職についておたずねします。

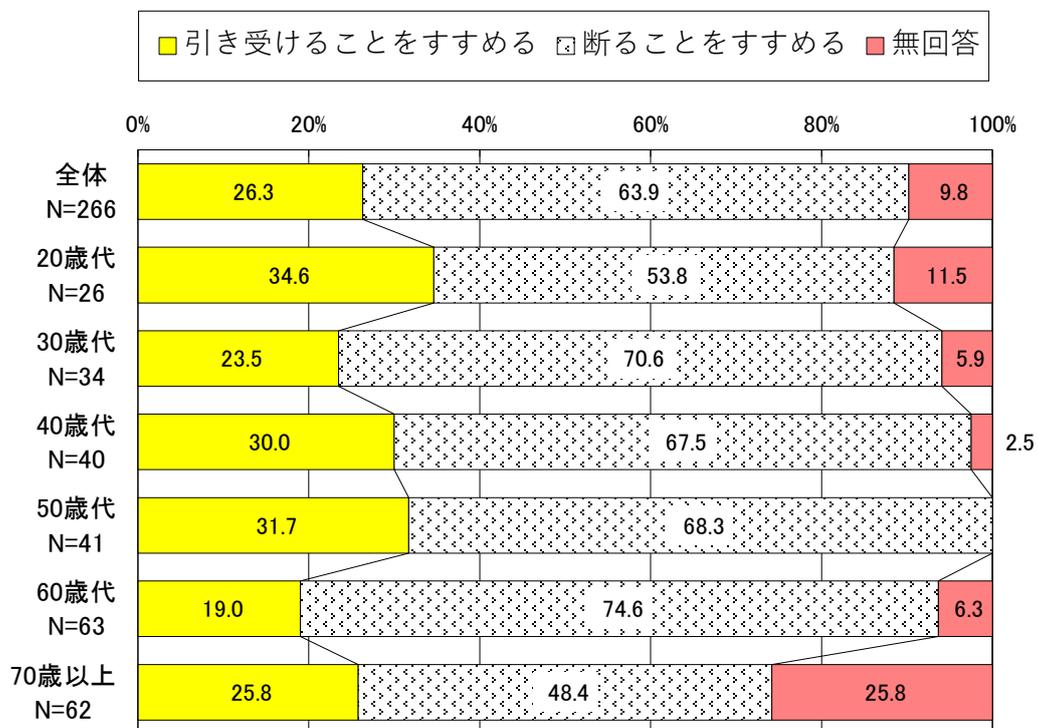
【女性の方】 あなたが推薦されたらどうしますか。

【その他の方】 妻などの身近な女性が推薦されたらどうしますか。(1つに○)

《女性》

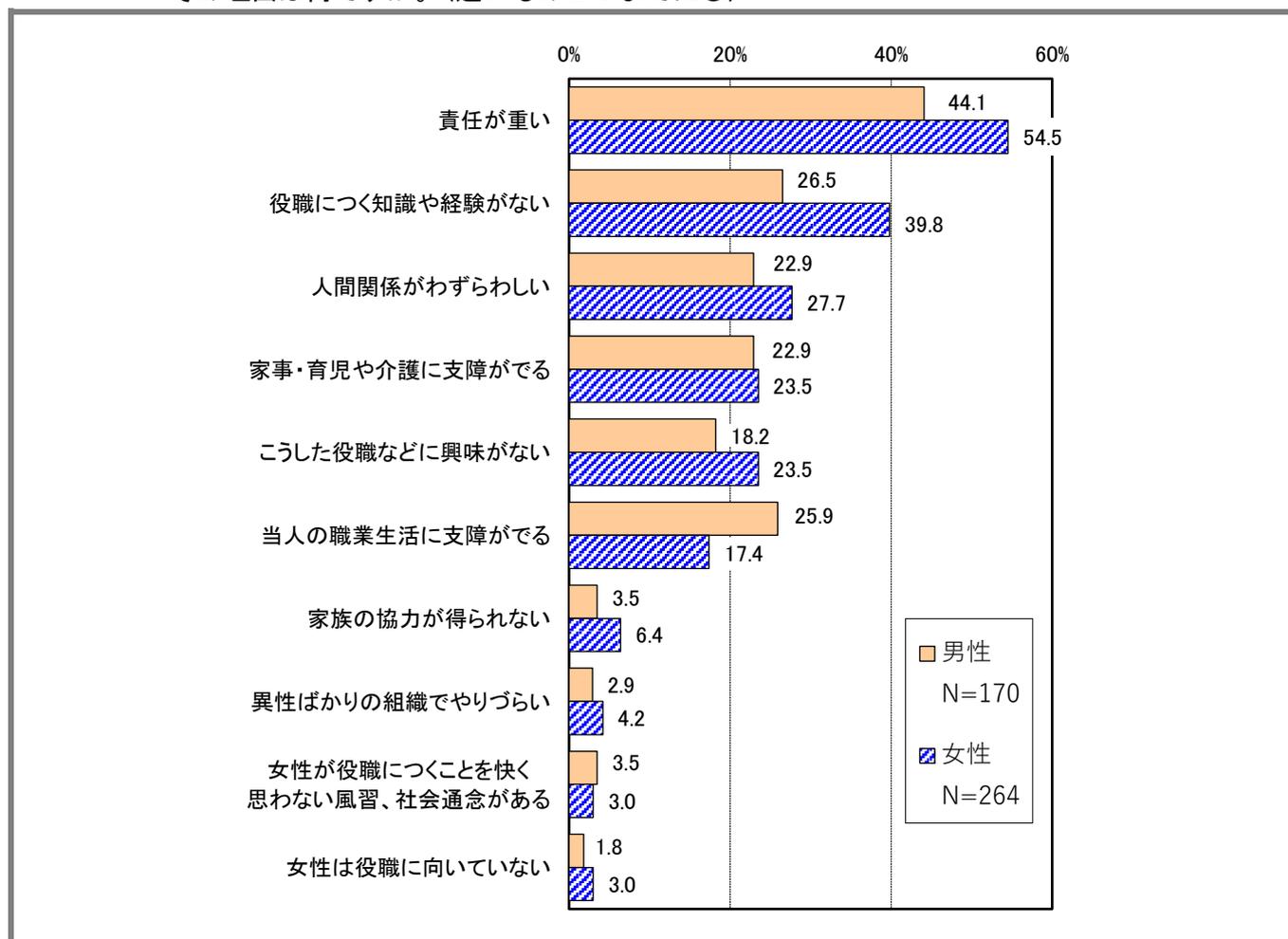


《男性》



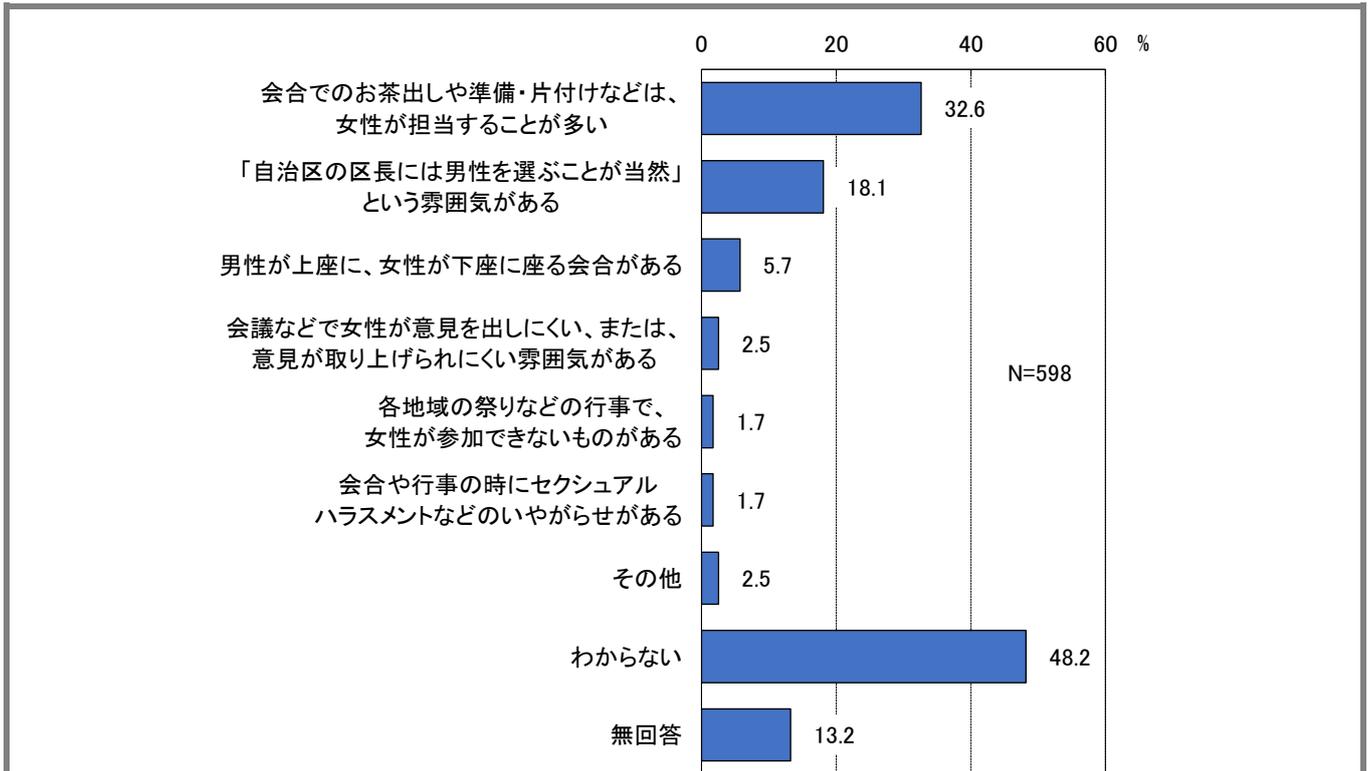
- 女性については、地域の役職に推薦されたら「引き受ける」と回答した人の割合は 11.4%で、年齢階層別に見ると、「20 歳代」が 20.6%とやや高く、「30 歳代」は 1.9%と特に低くなっている
- 一方、男性については、妻などの身近な女性が推薦されたら「引き受けることをすすめる」と回答した人の割合は 26.3%となっており、年齢階層別に見ると、「20 歳代」が 34.6%と最も高い割合となっている。

問10-1 (問10で「2. 断る(断ることをすすめる)」と答えた方へ)
その理由は何ですか。(近いもの3つまでに○)

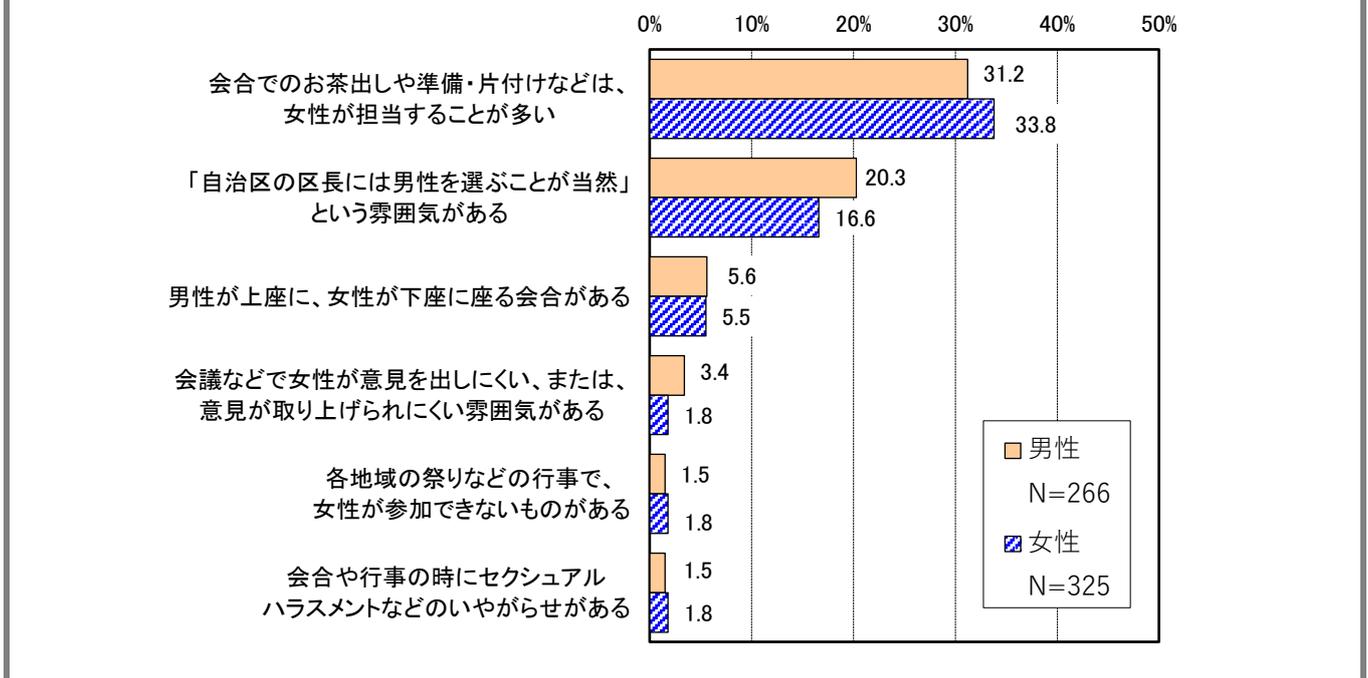


- 「断る(断ることをすすめる)」と回答した理由については、男女とも「責任が重い」や「役職につく知識や経験がない」が上位にあがっている。
- 男女の回答割合を比較すると、「責任が重い」や「役職につく知識や経験がない」は女性の方が、「当人の職業生活に支障が出る」は男性の方がそれぞれ回答割合が高くなっている。

問11 あなたの住んでいる地域において、以下のようなことがありますか。(〇はいくつでも)



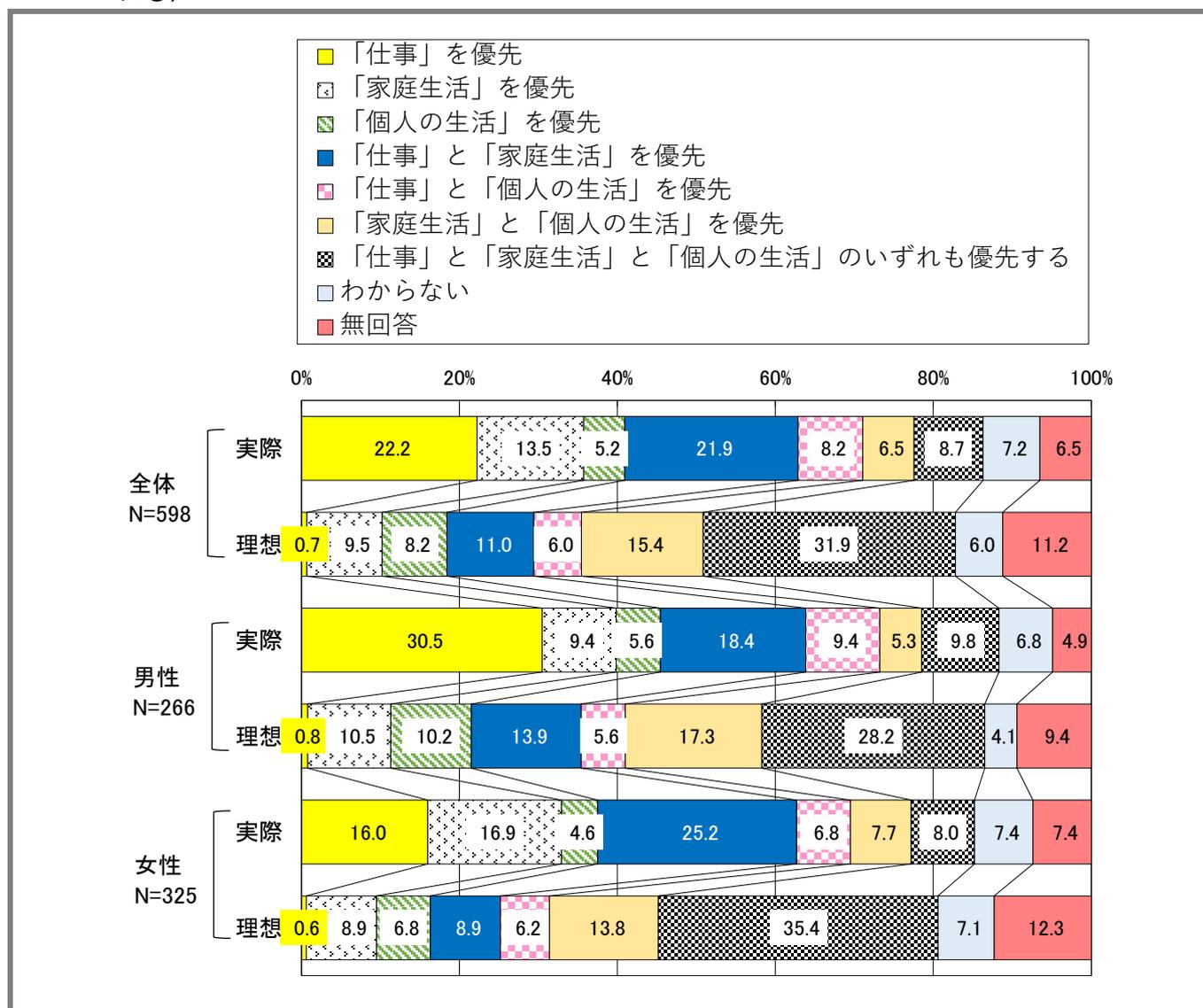
《男女別クロス集計結果》



- 住んでいる地域に存在する男女を巡る状況について尋ねたところ、「会合でのお茶出しや準備・片付けなどは、女性が担当することが多い」が 32.6%、『「自治区の区長には男性を選ぶことが当然」という雰囲気がある』が 18.1%で上位にあがっている。

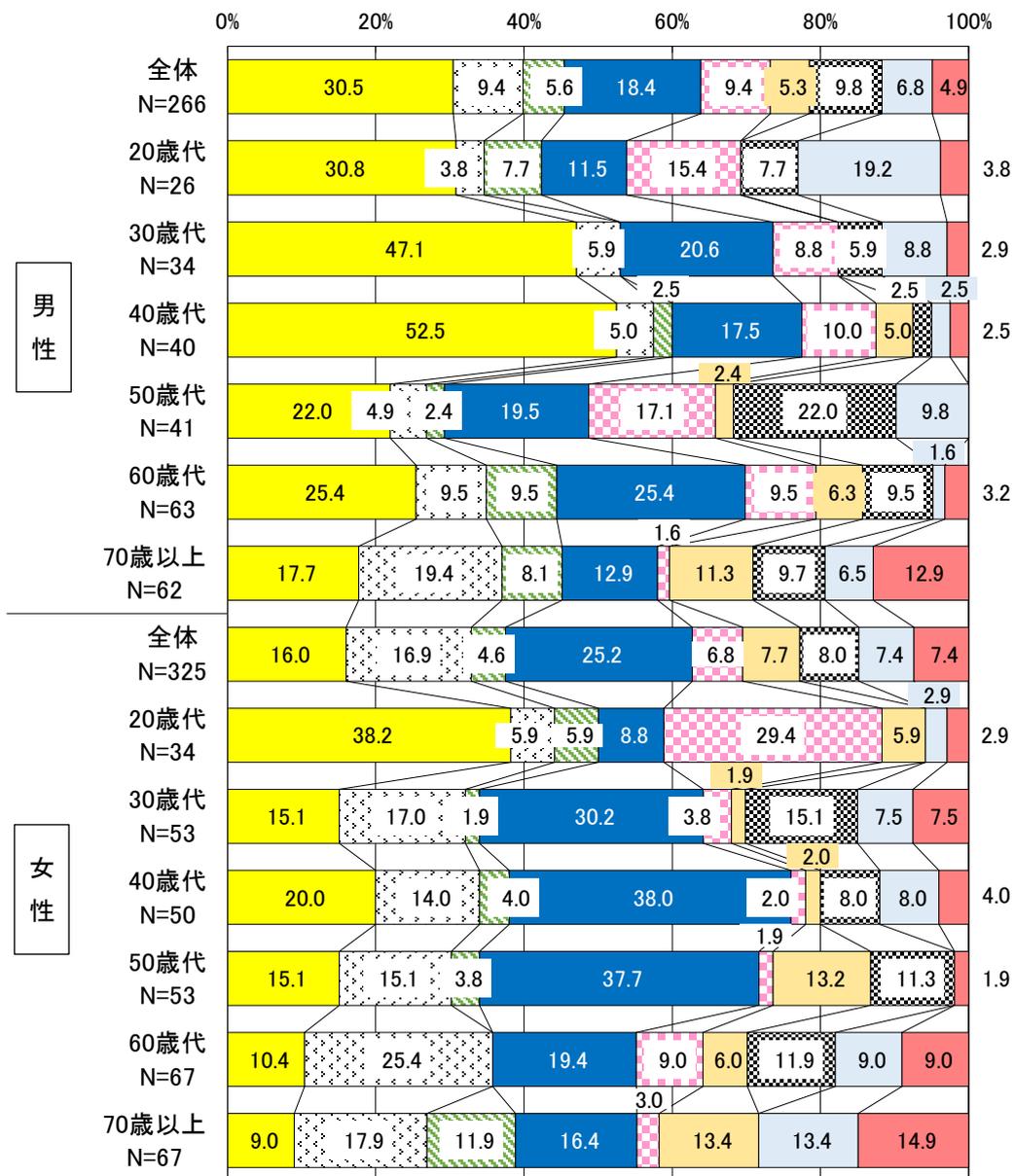
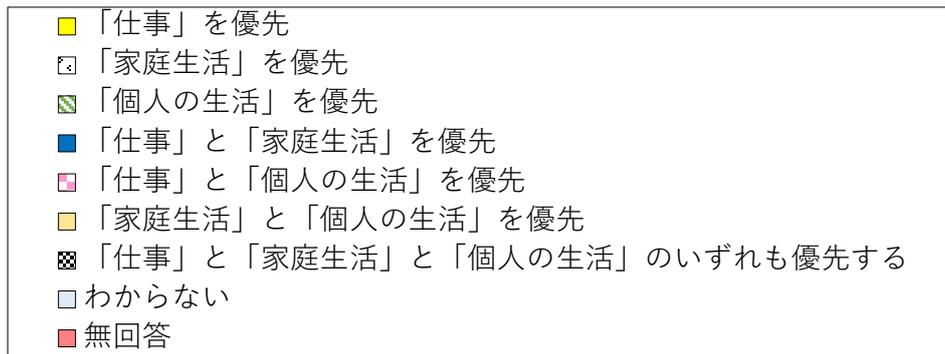
Ⅵ. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

問9 あなたの生活の中での、「仕事」「家庭生活」「個人の生活」の優先度についておたずねします。
あなたの生活は、次のどれにあてはまりますか。(①実際の生活、②理想の生活のそれぞれについて、
1つに○)



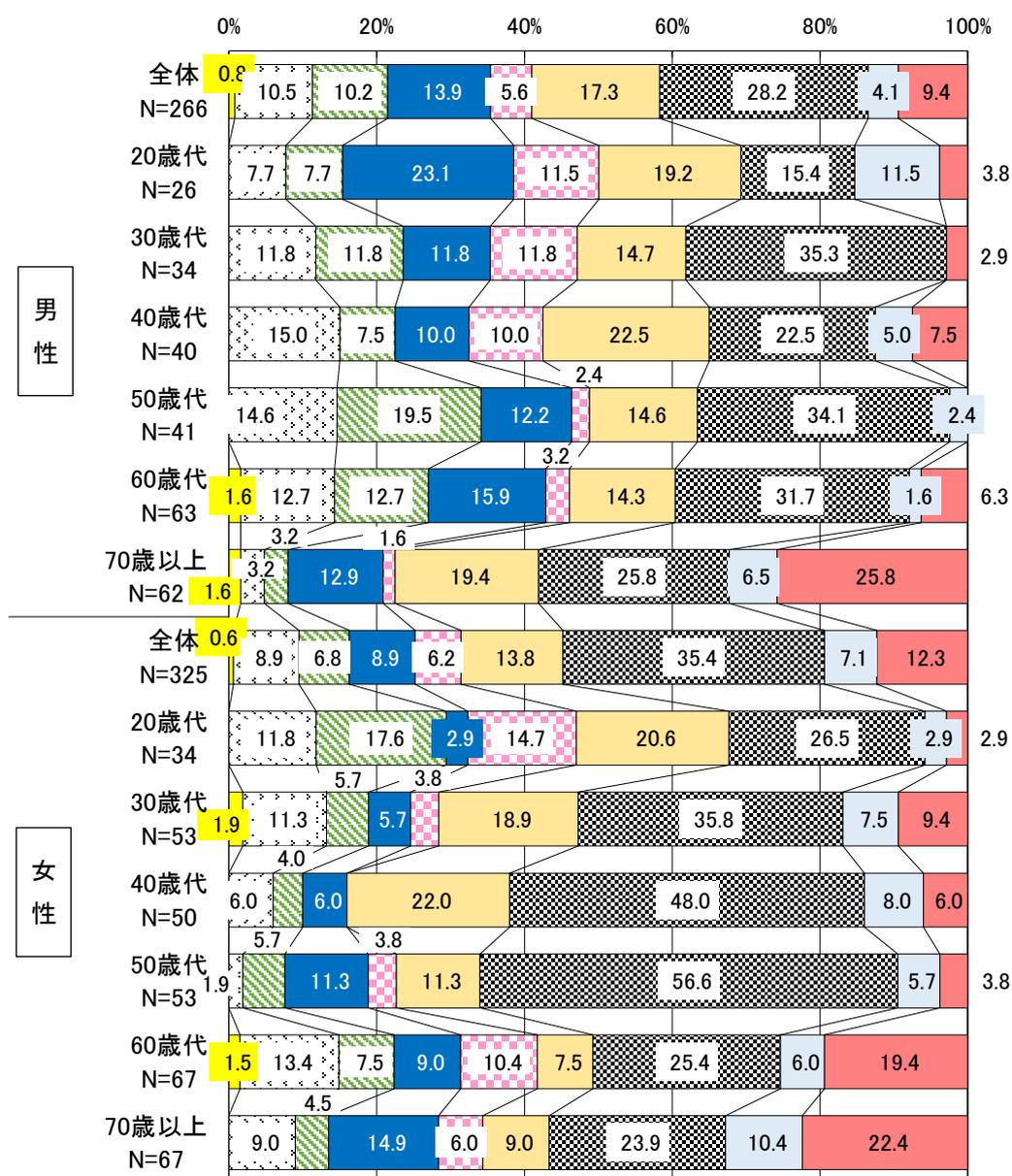
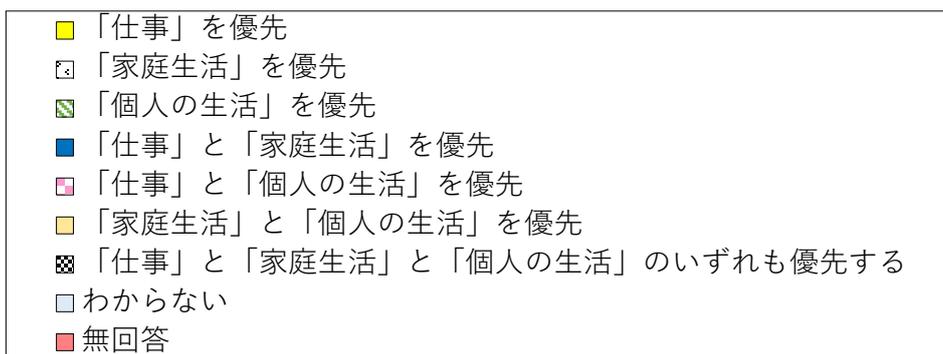
- 男女ともに、『「仕事」を優先』することを理想と考えている人は少なく、『「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」のいずれも優先する』ことを理想と考える人の割合が最も高くなっている。しかし、実際にそうできている人の割合は少なく、男性では『「仕事」を優先』、女性では『「仕事」と「家庭生活」を優先』していると回答した人の割合が最も高くなっている。
- また、『「家庭生活」と「個人の生活」を優先』することを理想と考えている人は男女とも2番目に多くなっているが、実際には少なくなっている。
- 『「個人の生活」を優先』するという回答や『「仕事」と「個人の生活」を優先』という回答は理想、実際ともに低い割合となっている。

①実際の生活《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



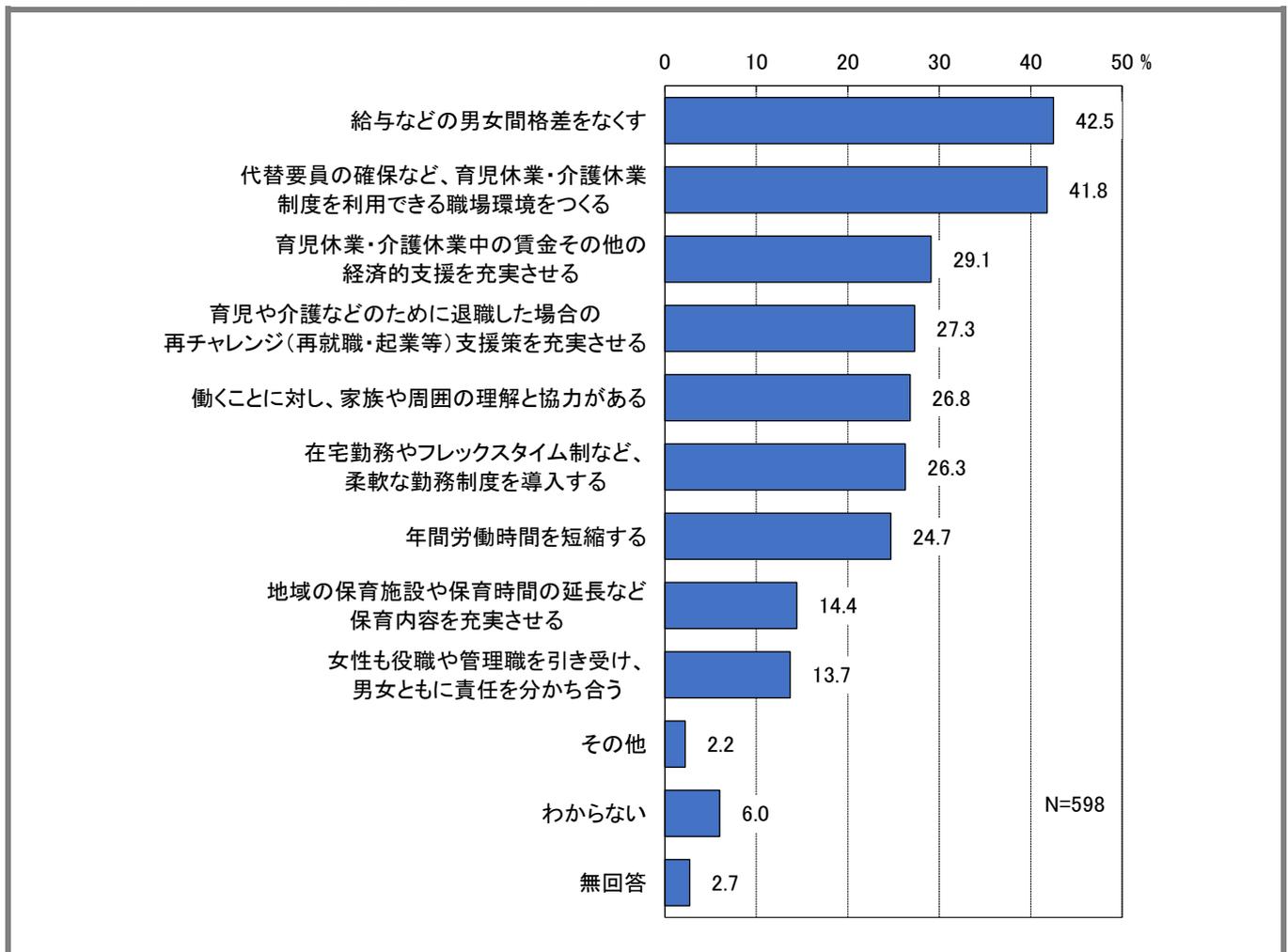
● 実際の生活を見ると、男性は「仕事」、女性は「家庭生活」に軸足を置いている人が多い様子が見られる結果となっている。

②理想の生活《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



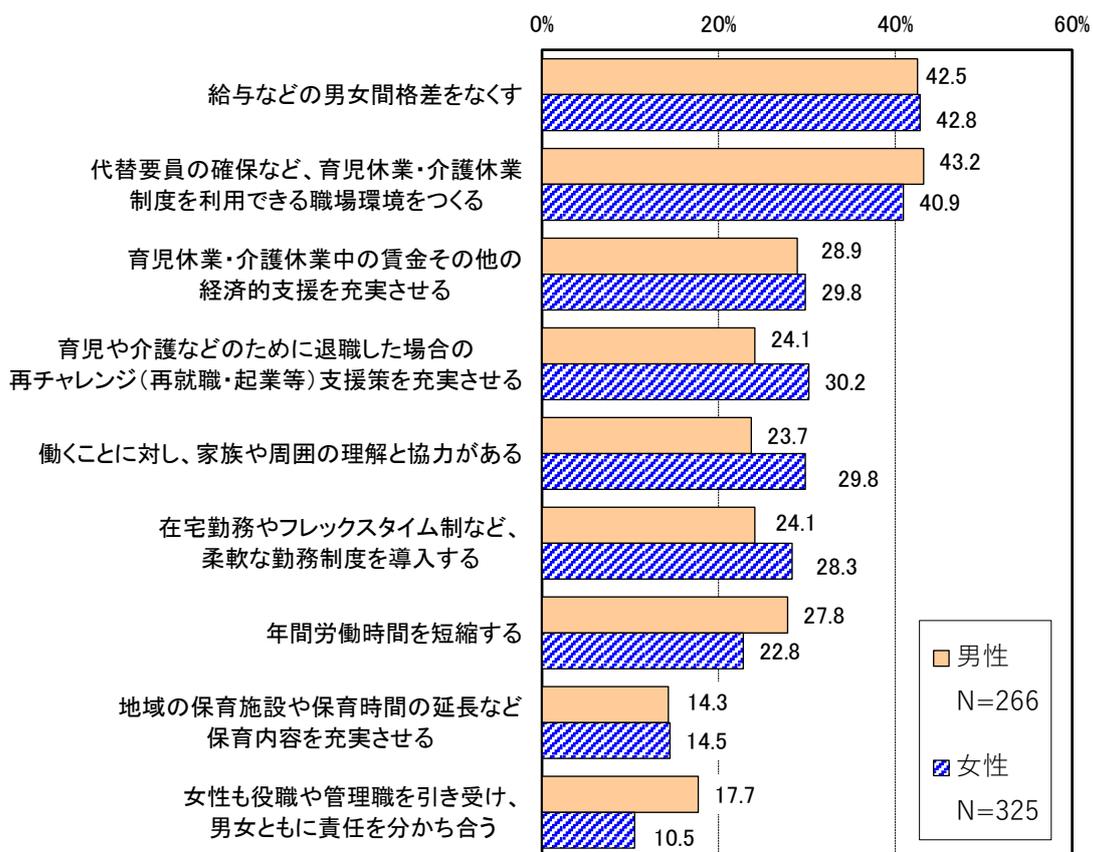
● 理想の生活については、「20歳代の男性」を除き、男女ともほぼ全ての年齢階層で『「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」のいずれも優先する』の回答割合が最も高くなっている。

問13 あなたは、男女がともに仕事と家庭の両立をしていくためには、どのような条件が必要だと思いますか。(あてはまるもの3つまでに○)



- 男女がともに仕事と家庭の調和のとれた生活をするために必要だと思う条件については、男女ともに「給与などの男女間格差をなくす」「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくる」と回答した人の割合が高く、次いで、男性では「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実させる」、女性では「育児や介護などのために退職した場合の再チャレンジ(再就職・企業等)支援策を充実させる」がそれぞれ3位につけている(次ページの男女別クロス集計結果参照)。
- 男女別・年齢階層別に見ても、概ねほとんどの区分で「給与などの男女間格差をなくす」「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくる」と回答した人の割合が高くなっているが、「40歳代の男性」では「年間労働時間を短縮する」(40.0%)、「20歳代の女性」では「在宅勤務やフレックスタイム制など、柔軟な勤務制度を導入する」(41.2%)が最も高い割合となっている(次々ページの男女別・年齢階層別クロス集計結果参照)。

《男女別クロス集計結果》



《男女別・年齢階層別クロス集計結果》

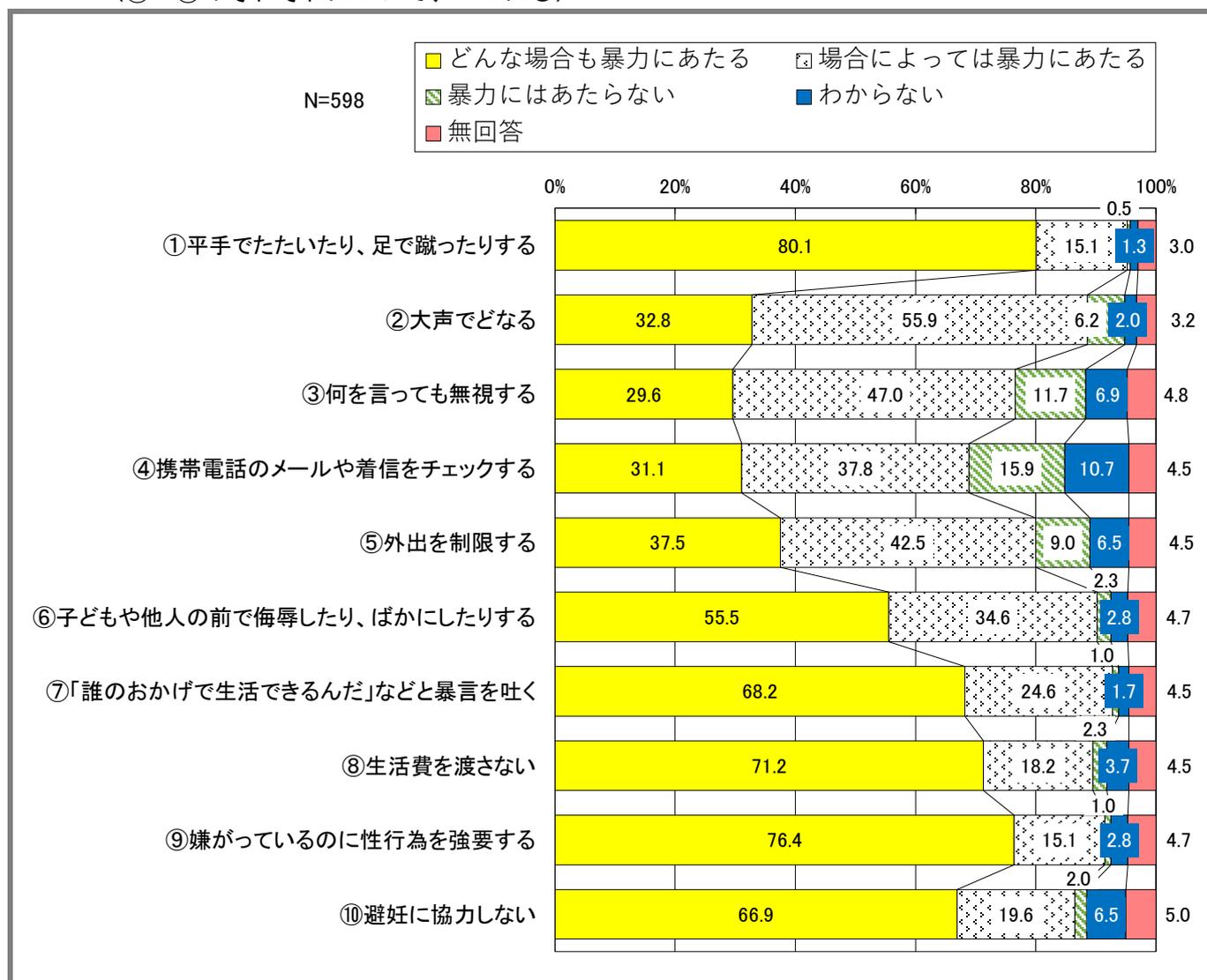
(単位:%)

		男女がともに仕事と家庭の両立をしていくために必要だと思う条件								
		給与などの男女間格差をなくす	代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくる	育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実させる	育児や介護などのために退職した場合は再チャレンジ（再就職・起業等）の支援策を充実させる	働くことに対し、家族や周囲の理解と協力がある	在宅勤務やフレックスタイム制など、柔軟な勤務制度を導入する	年間労働時間を短縮する	地域の保育施設や保育時間の延長など、保育内容を充実させる	女性も役職や管理職を引き受け、男女ともに責任を分かち合う
男性	全体 N=266	42.5	43.2	28.9	24.1	23.7	24.1	27.8	14.3	17.7
	20歳代 N=26	46.2	42.3	42.3	30.8	19.2	34.6	26.9	7.7	19.2
	30歳代 N=34	32.4	44.1	32.4	14.7	35.3	20.6	26.5	17.6	17.6
	40歳代 N=40	35.0	37.5	27.5	17.5	27.5	25.0	40.0	10.0	22.5
	50歳代 N=41	43.9	48.8	34.1	22.0	14.6	26.8	29.3	17.1	14.6
	60歳代 N=63	54.0	49.2	25.4	22.2	22.2	27.0	22.2	15.9	11.1
	70歳以上 N=62	38.7	37.1	22.6	33.9	24.2	16.1	25.8	14.5	22.6
女性	全体 N=325	42.8	40.9	29.8	30.2	29.8	28.3	22.8	14.5	10.5
	20歳代 N=34	38.2	38.2	38.2	35.3	23.5	41.2	35.3	17.6	5.9
	30歳代 N=53	52.8	32.1	32.1	20.8	24.5	30.2	34.0	11.3	9.4
	40歳代 N=50	46.0	36.0	34.0	22.0	30.0	26.0	20.0	14.0	10.0
	50歳代 N=53	45.3	49.1	34.0	35.8	22.6	32.1	15.1	15.1	11.3
	60歳代 N=67	37.3	50.7	26.9	34.3	38.8	28.4	19.4	13.4	7.5
	70歳以上 N=67	38.8	37.3	20.9	32.8	34.3	19.4	19.4	16.4	16.4

Ⅶ. 暴力などの人権侵害について

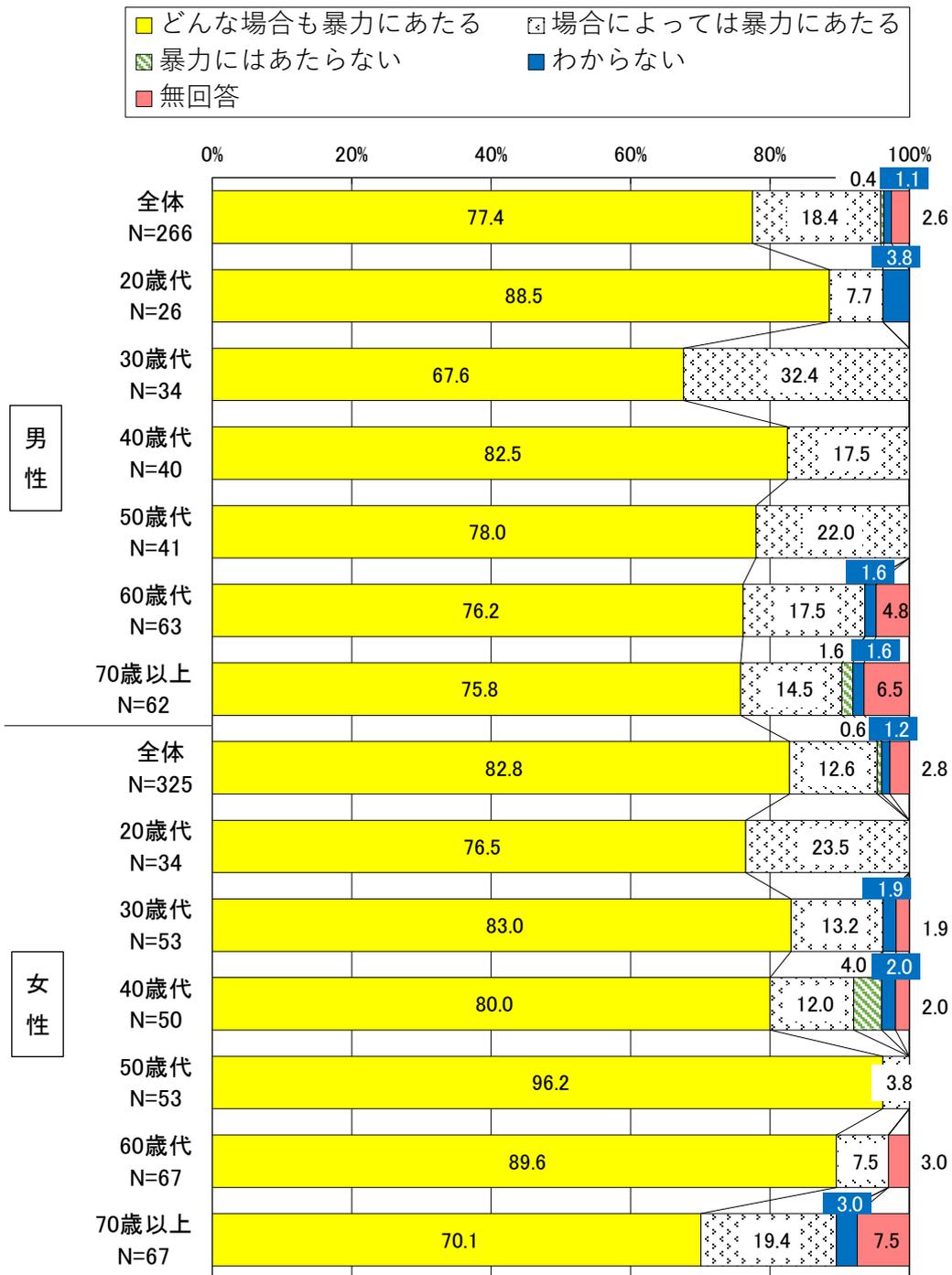
問14 あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーや恋人との間で行われた場合、それは暴力だと思いますか。各項目について、それぞれあてはまるものを選んでください。

(①～⑩のそれぞれについて、1つに○)

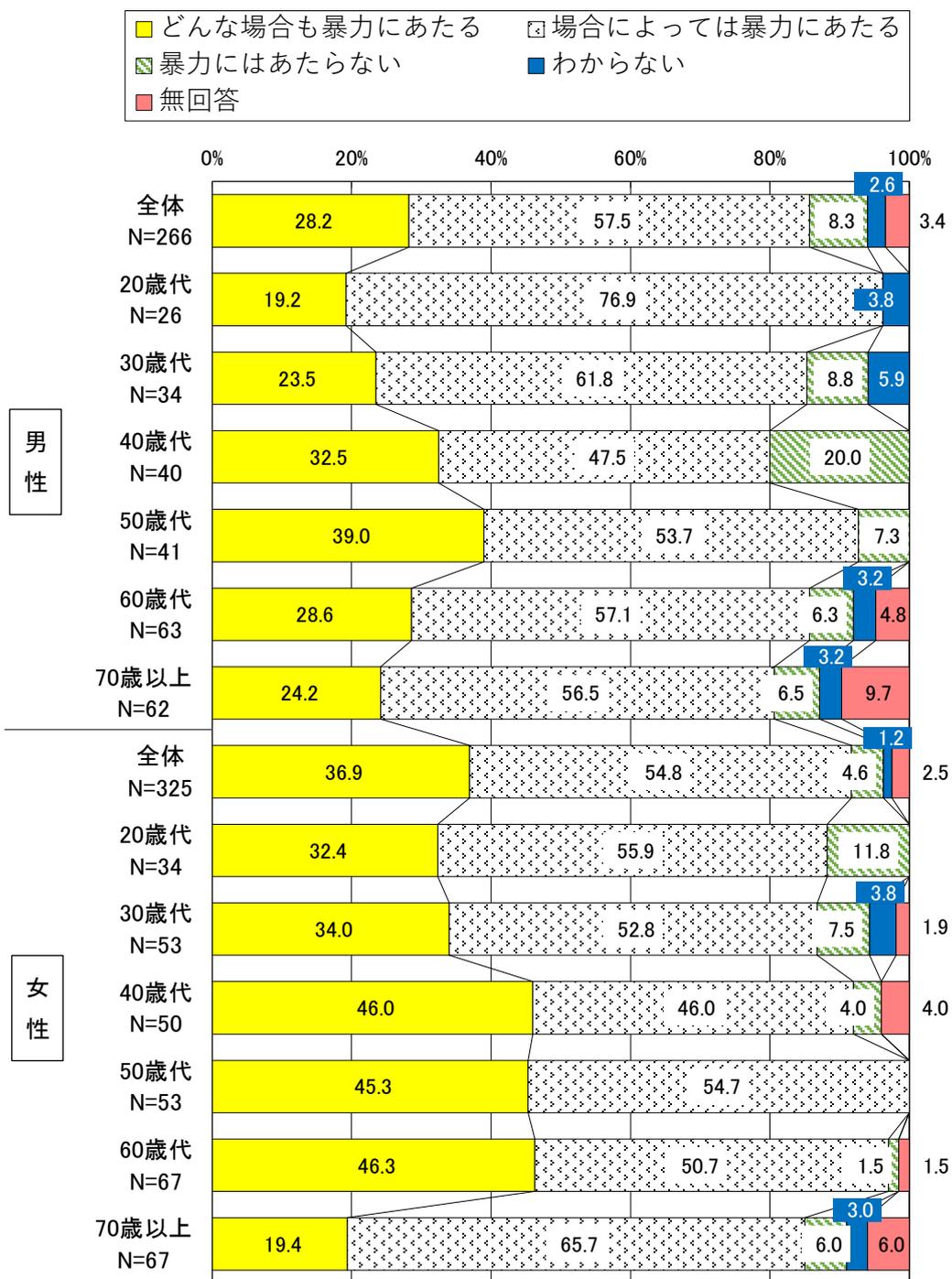


- ドメスティック・バイオレンスの認知度に関する上の調査結果を見ると、身体的暴力(①)や経済的な暴力(⑧)、性的暴力(⑨⑩)については、それに該当するという認識はかなり広がっているが、精神的な暴力(②～⑦)、中でも「何を言っても無視する」「携帯電話のメールや着信をチェックする」「外出を制限する」については、男女ともまだ理解が十分とは言えない状況がうかがえ、特に女性に比べ男性の認識が甘いという結果となっている(P54～63の男女別・年齢階層別クロス集計結果参照)。

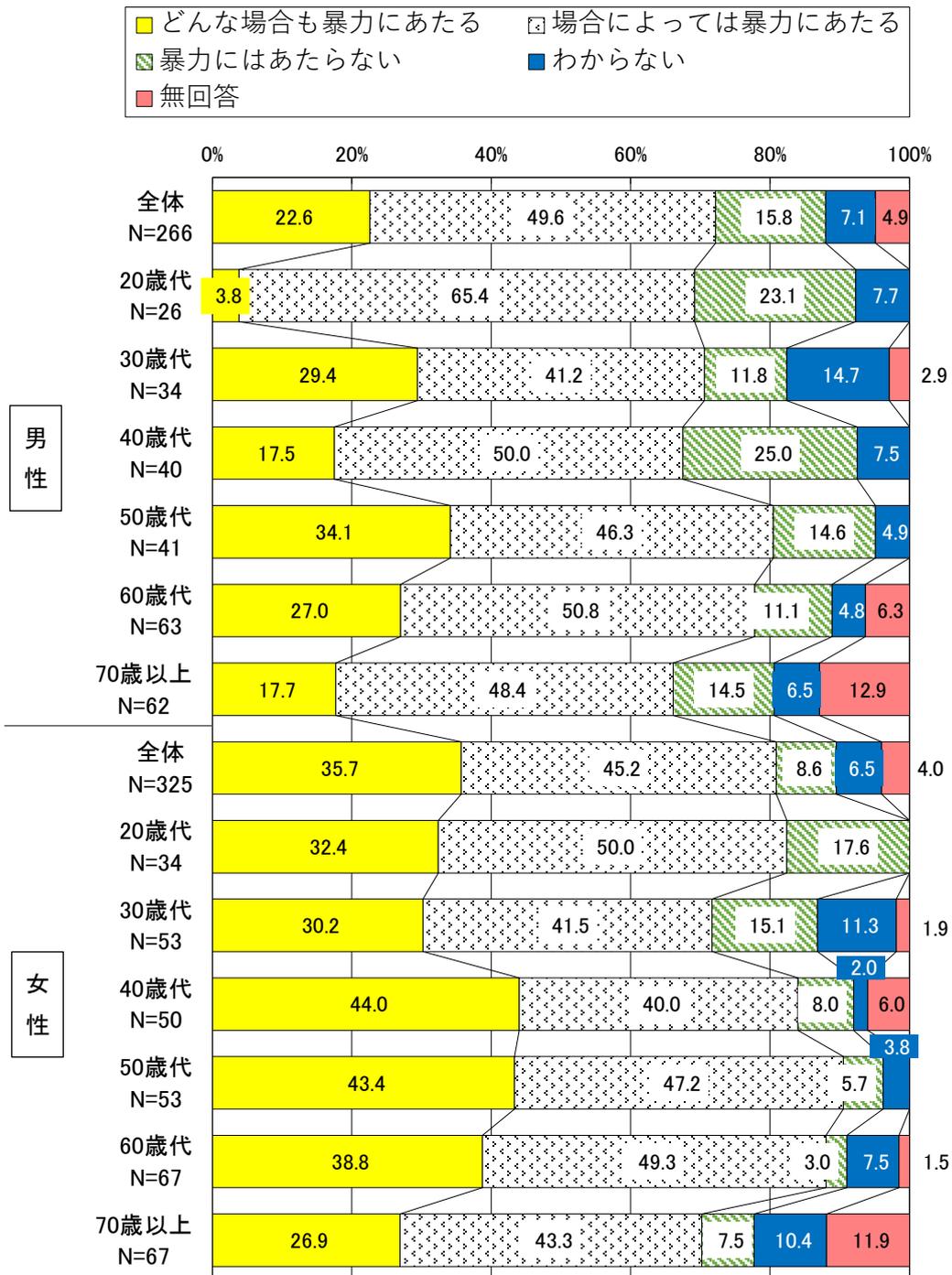
①平手でたたいたり、足で蹴ったりする《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



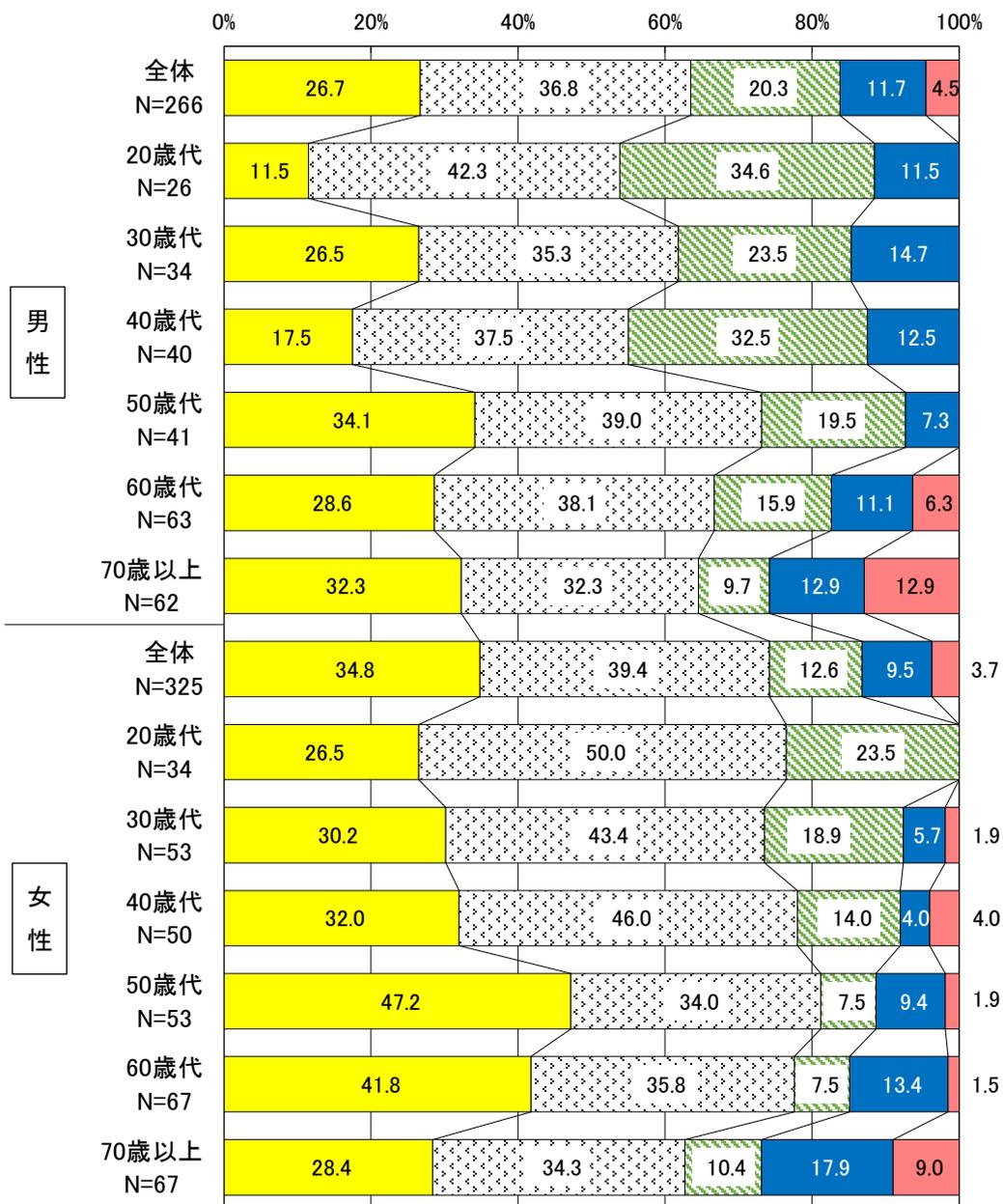
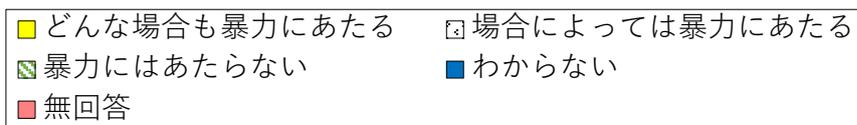
②大声でどなる《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



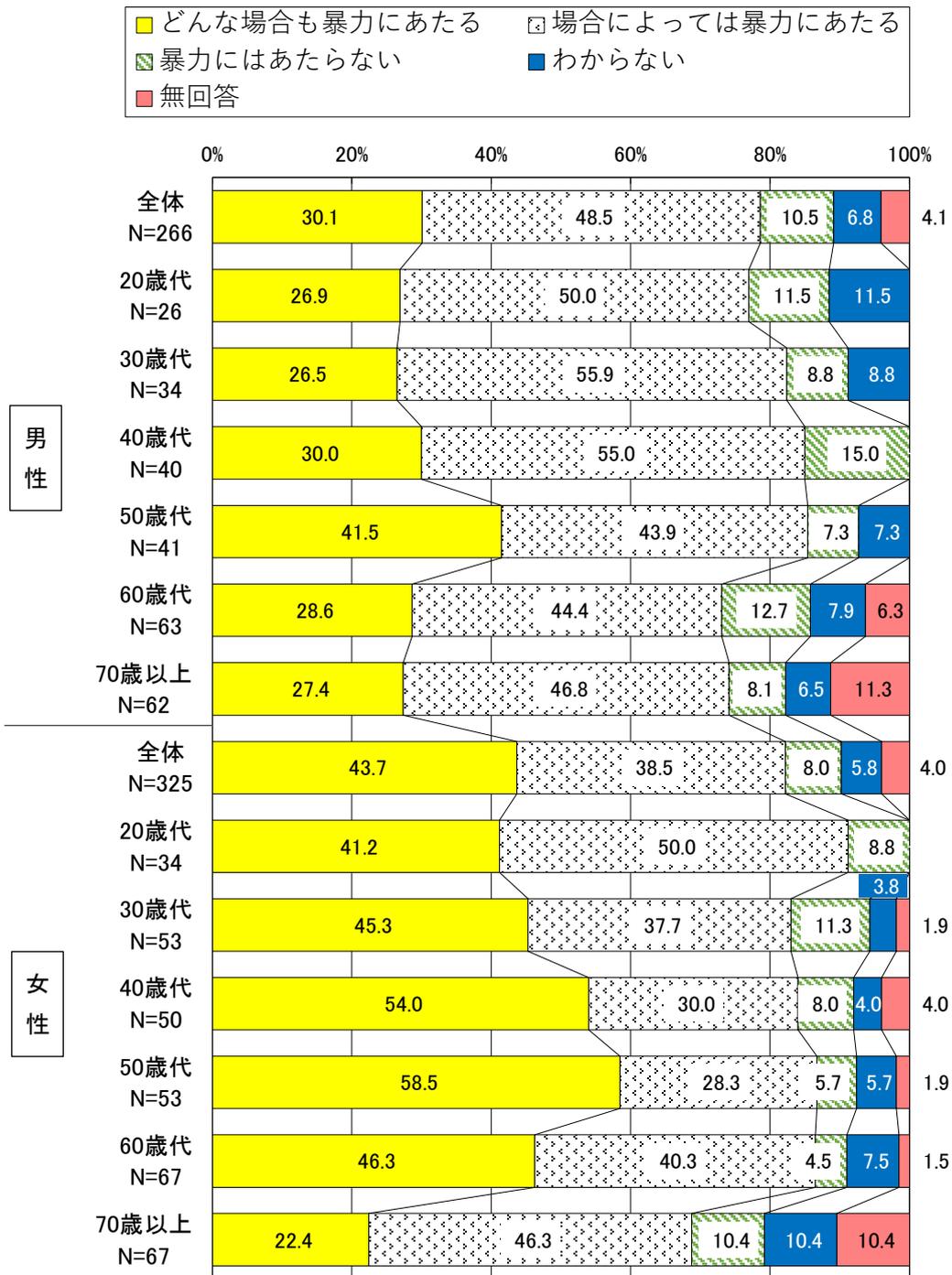
③何を言っても無視する《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



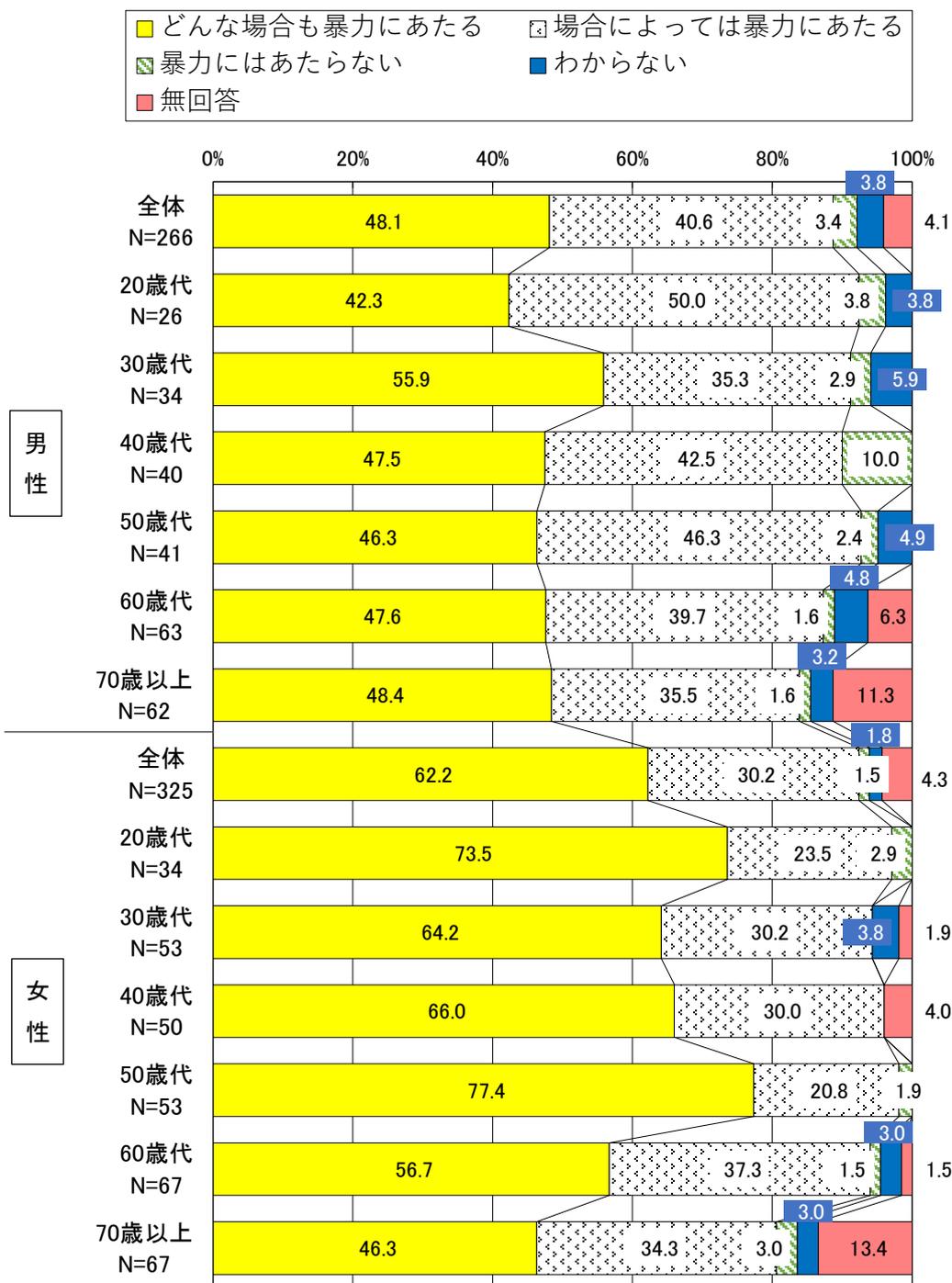
④携帯電話のメールや着信をチェックする《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



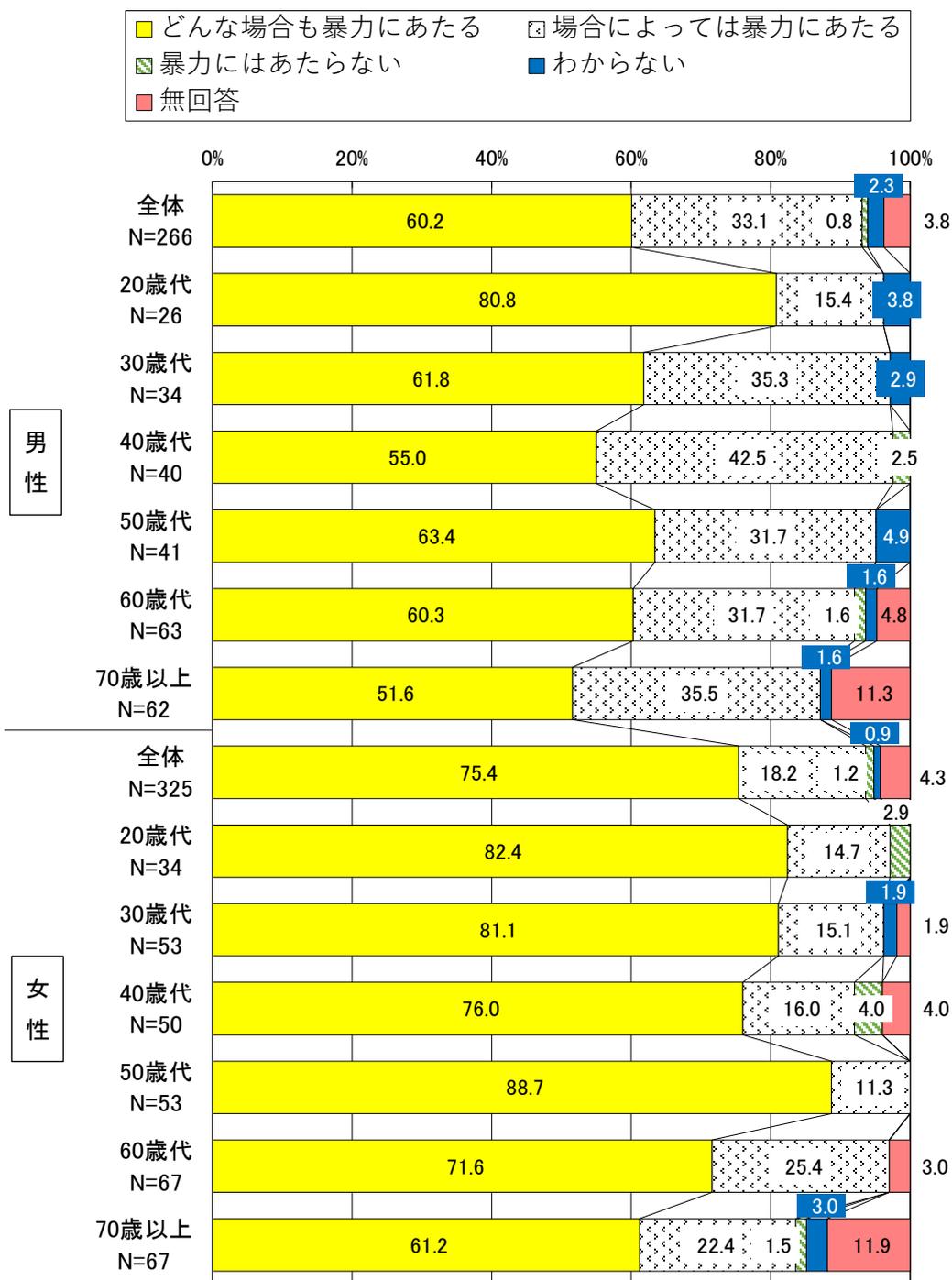
⑤外出を制限する《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



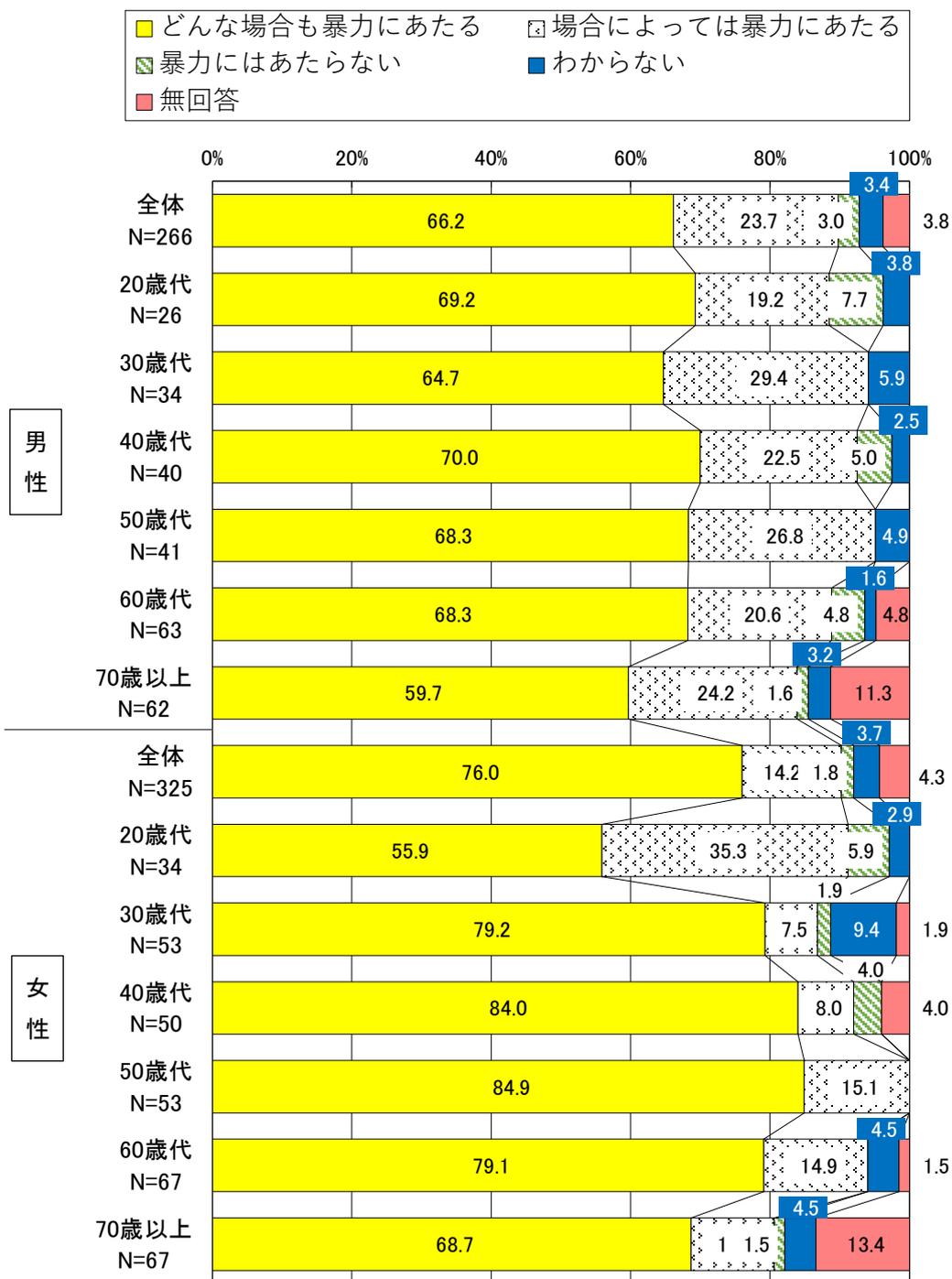
⑥子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



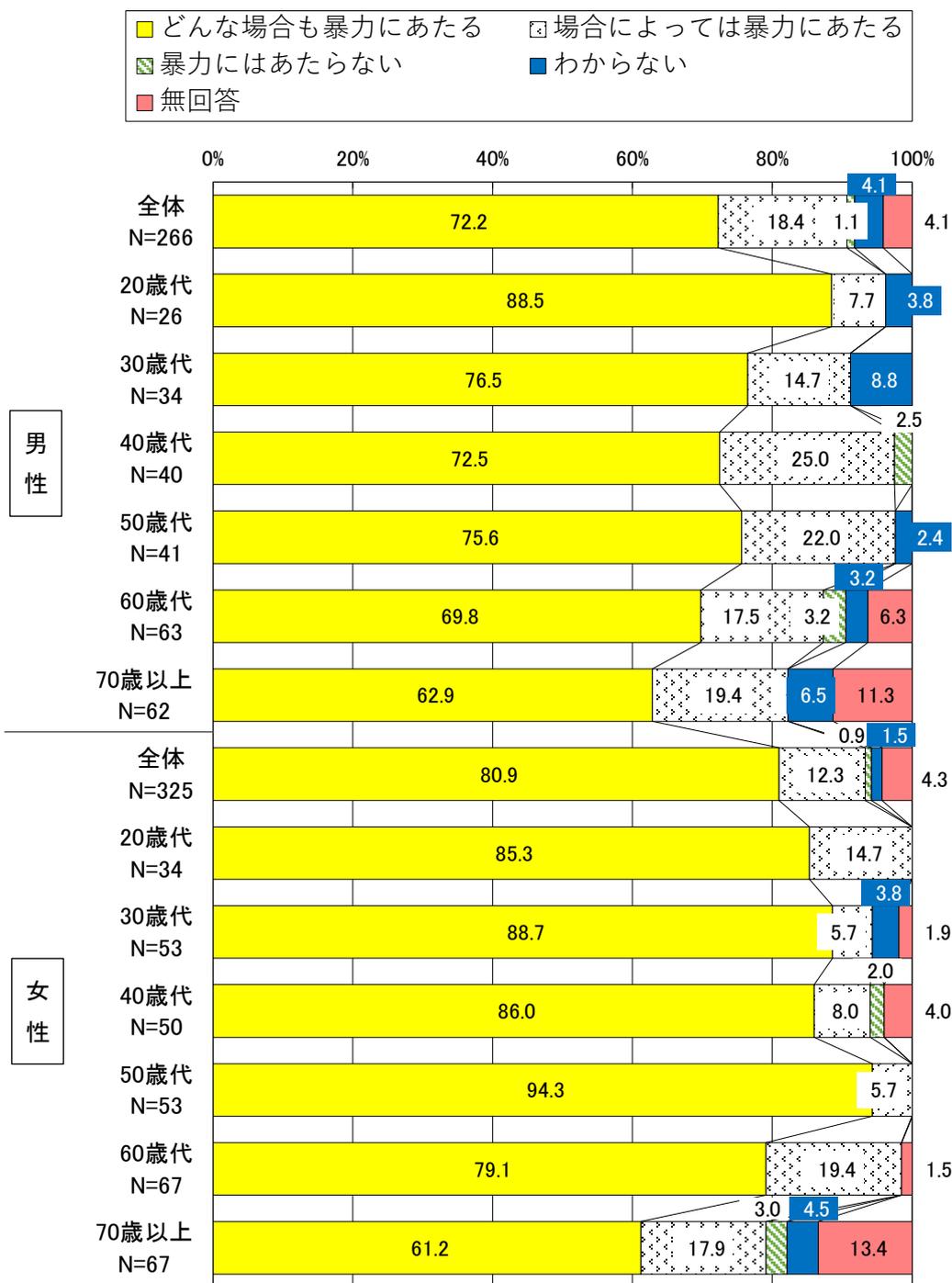
⑦ 「だれのおかげで生活できるんだ」などと暴言を吐く《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



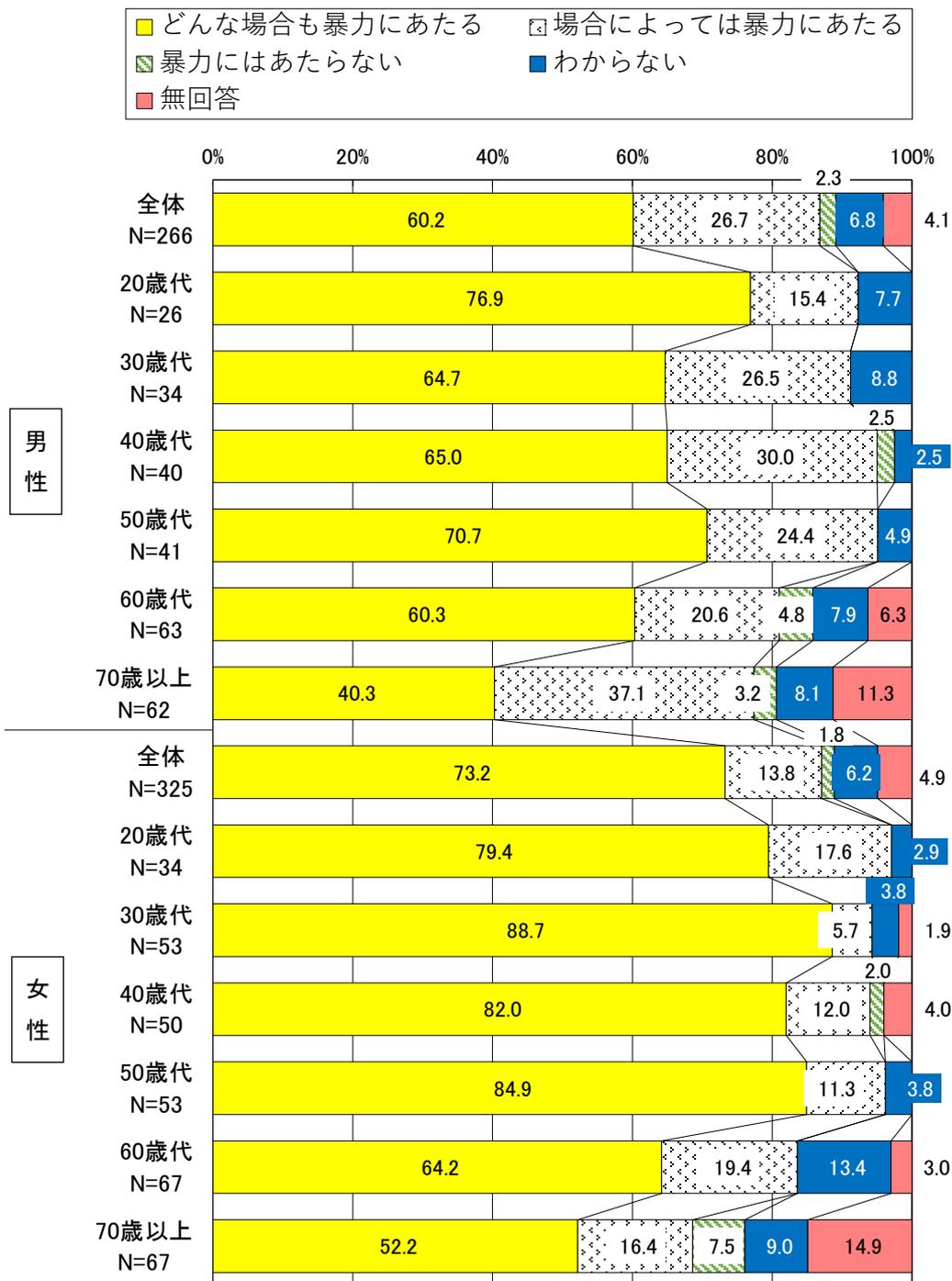
⑧生活費を渡さない《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



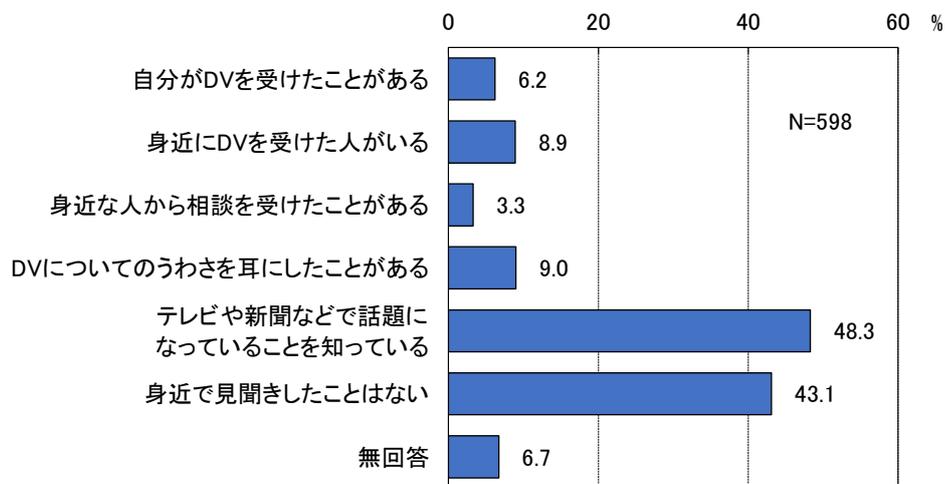
⑨嫌がっているのに性行為を強要する《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



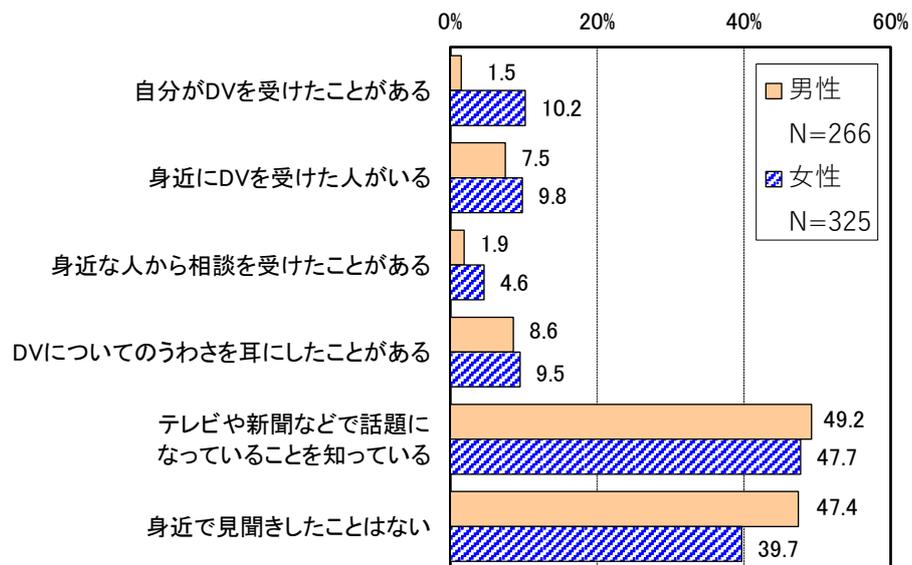
⑩避妊に協力しない《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



問15 あなたは、「DV（ドメスティック・バイオレンス：配偶者やパートナーからの暴力）」を実際に受けたり、身近で見聞きしたりしたことがありますか。（〇はいくつでも）

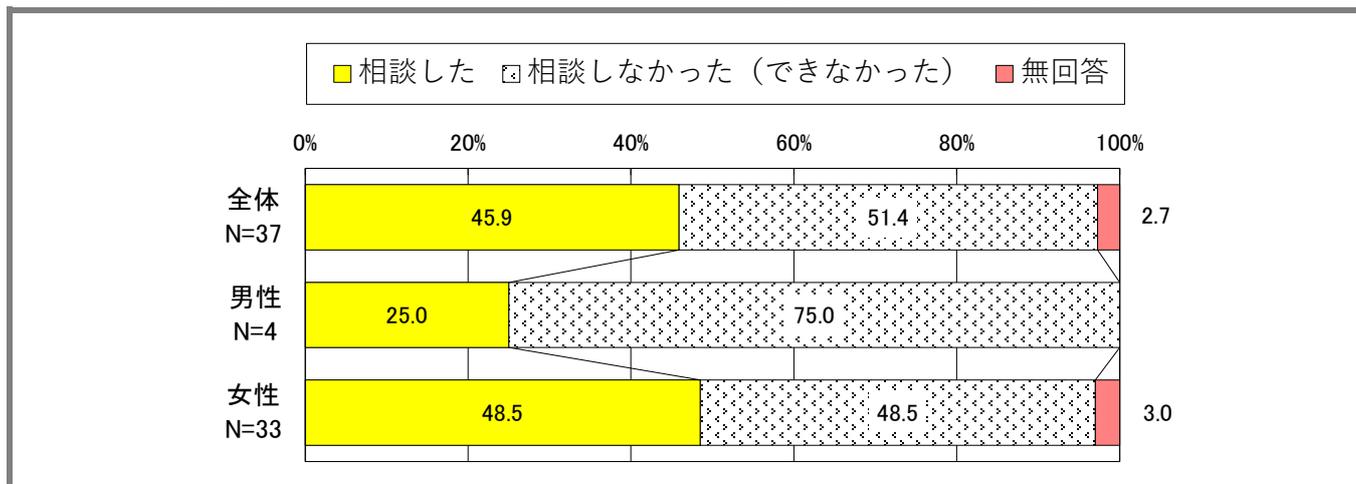


《男女別クロス集計結果》



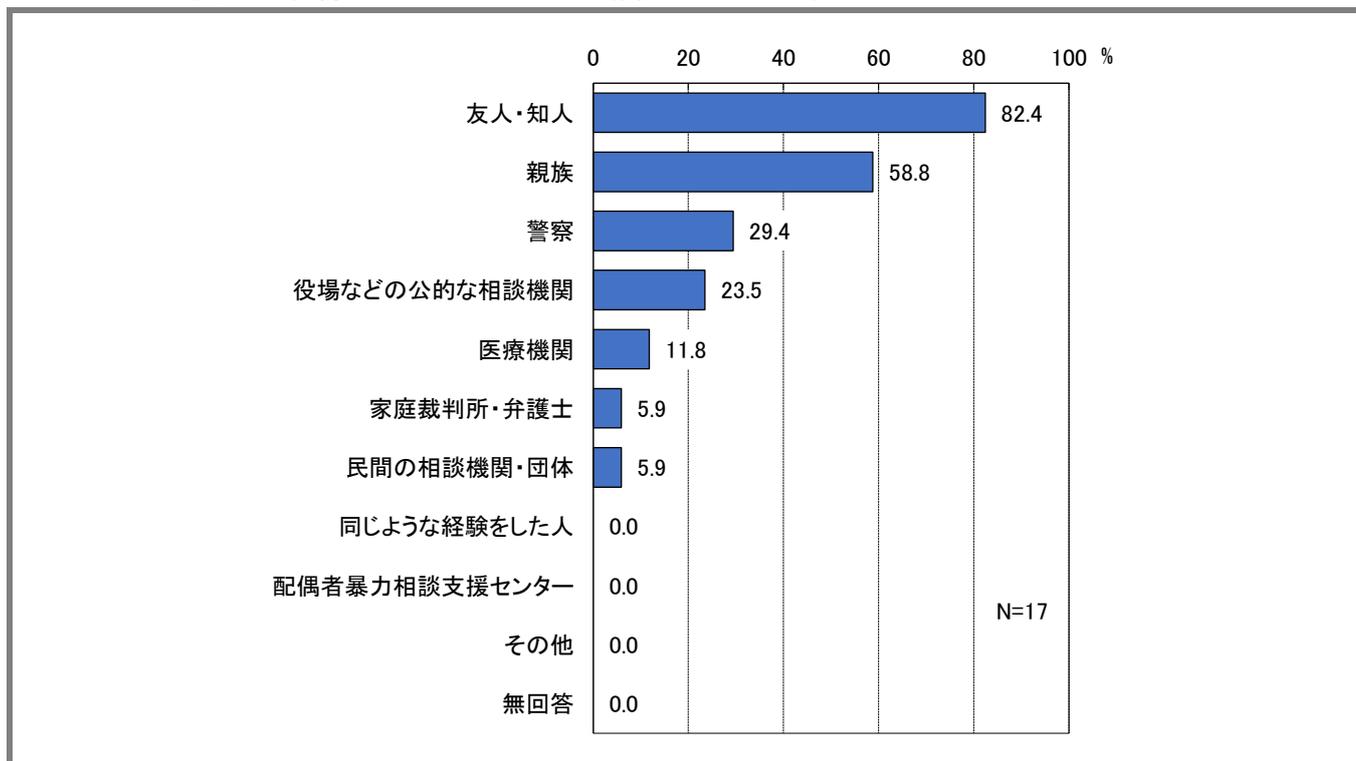
- 「自分がDVを受けたことがある」と回答した人の割合は、男性1.5%、女性10.2%となっており、「身近にDVを受けた人がある」と回答した人の割合は、男性7.5%、女性9.8%となっている。

問15-1 (問15で「1. 自分がDVを受けたことがある」と答えた方へ)
 あなたはだれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(1つに○)



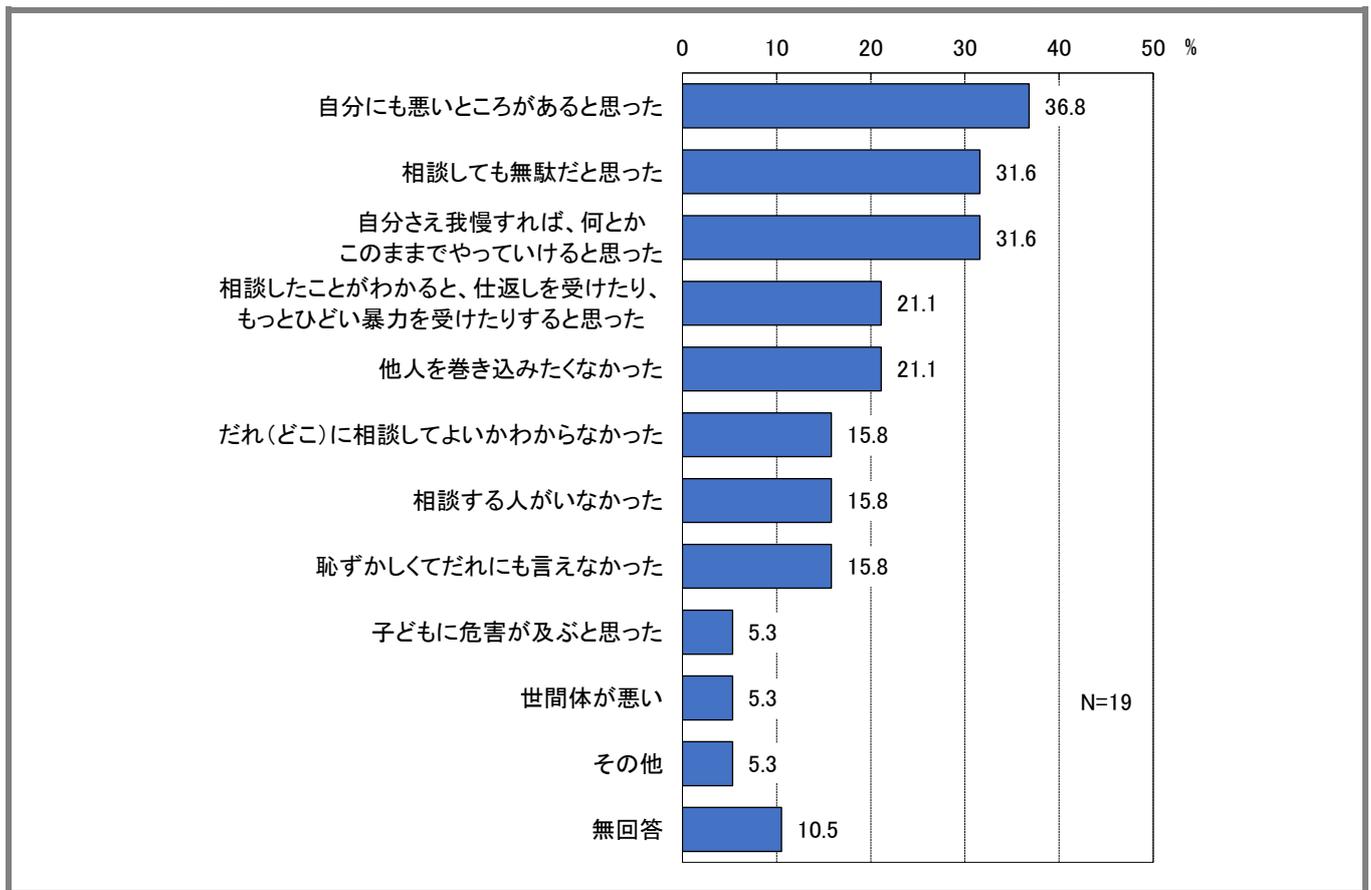
- 「自分がDVを受けたことがある」と回答した人のうち、だれかに「相談した」と回答した人の割合は、男性 25.0%、女性 48.5%となっており、「相談しなかった (できなかった)」と回答した人の割合 (男性 : 75.0%、女性 : 48.5%) の方が高くなっている。

問15-2 (問15-1で「1. 相談した」と答えた方へ)
 あなたは実際に、だれ(どこ)に相談しましたか。(○はいくつでも)



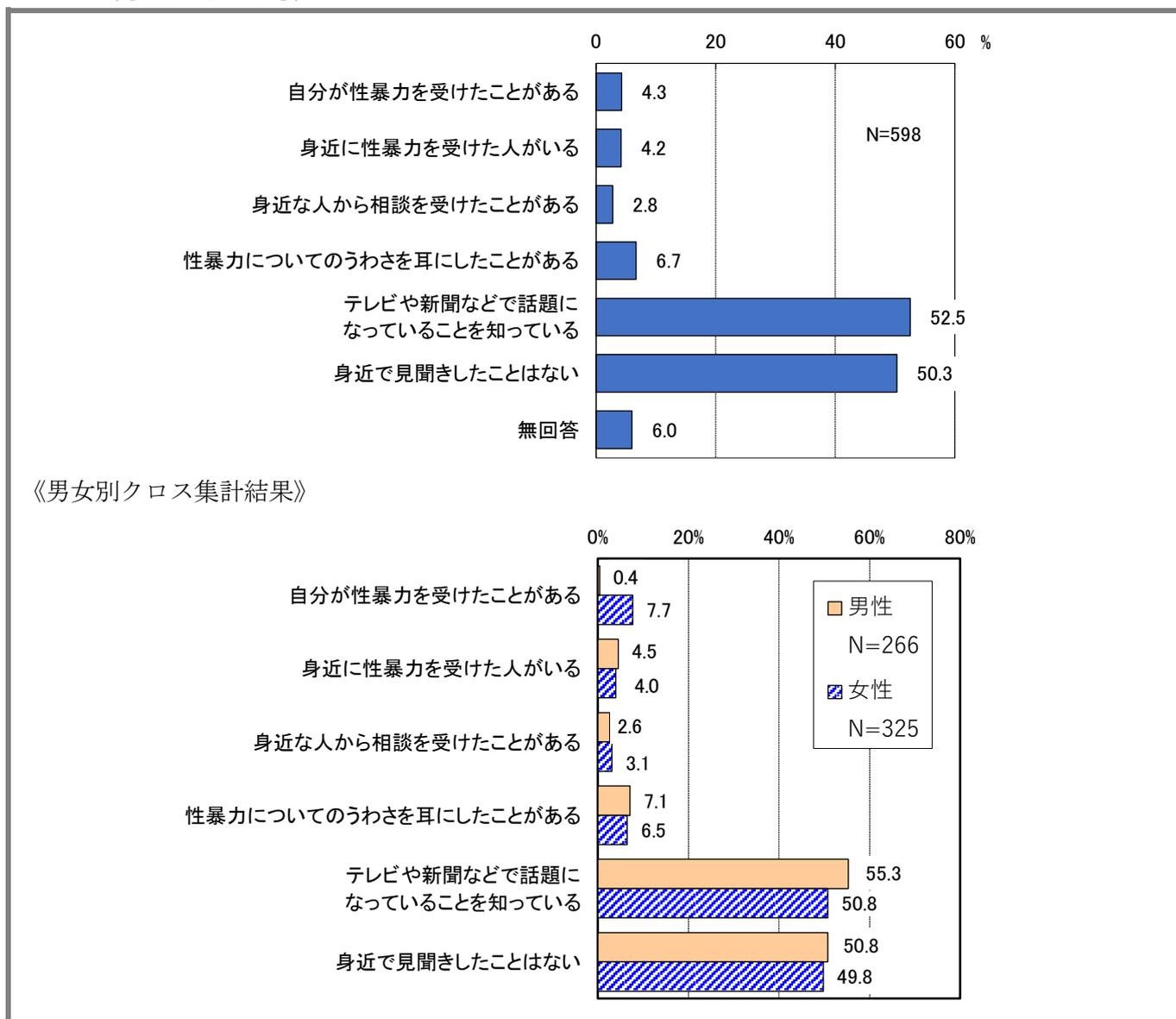
- 前問で「相談した」と回答した人にその相手を探ねたところ、「友人・知人」(82.4%) や「親族」(58.8%) が大半を占めており、専門の機関や公的な窓口への相談は少なくなっている。

問15-3 (問15-1で「2. 相談しなかった(できなかった)」と答えた方へ)
 あなたが、だれ(どこ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(〇はいくつでも)



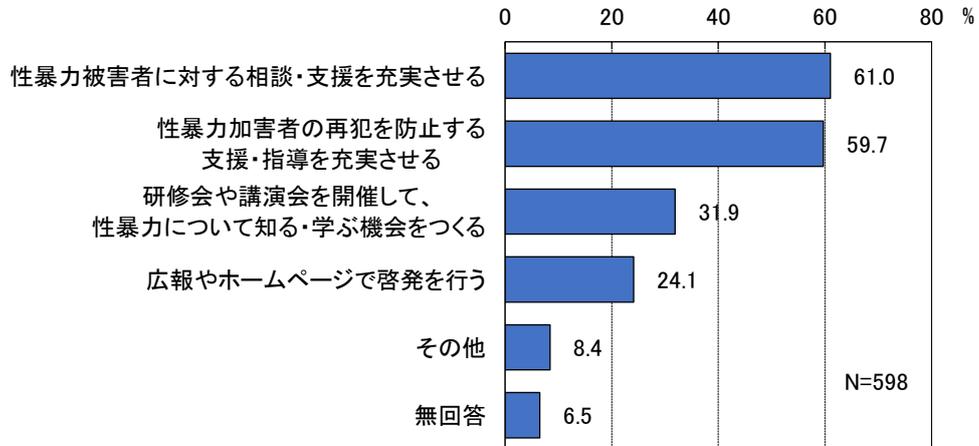
- DVについてだれにも「相談しなかった(できなかった)」と回答した人にその理由をたずねたところ、「自分にも悪いところがあったと思った」が36.8%と最も多く、「相談しても無駄だと思った」「自分さえ我慢すれば、何とかこのままでやっていけると思った」がともに31.6%で、それに続いている。

問16 あなたは、性暴力を実際に受けたり、身近で見聞きしたりしたことがありますか。
(〇はいくつでも)

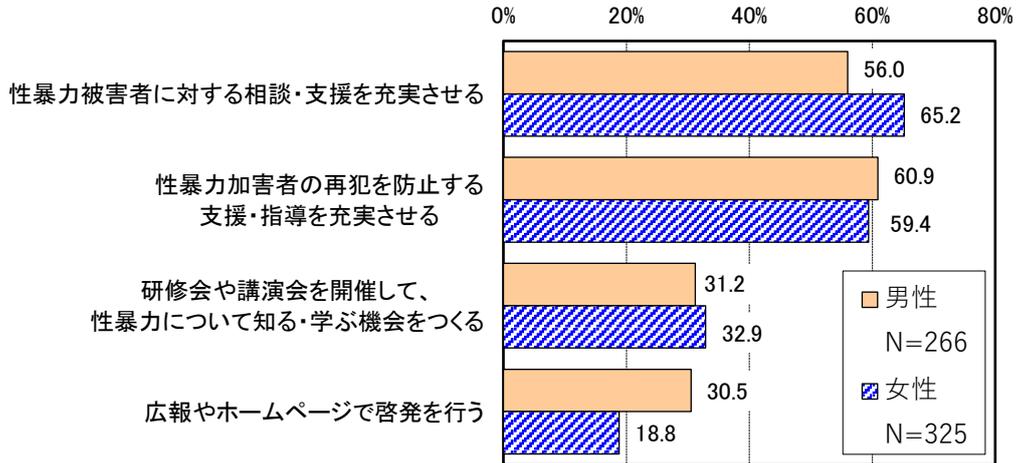


- 「自分が性暴力を受けたことがある」と回答した人の割合は、男性0.4%、女性7.7%となっており、「身近に性暴力を受けた人がある」と回答した人の割合は、男性4.5%、女性4.0%となっている。

問17 あなたは、性暴力のない社会づくりを実現するために、どのような施策を望みますか。
(〇はいくつでも)



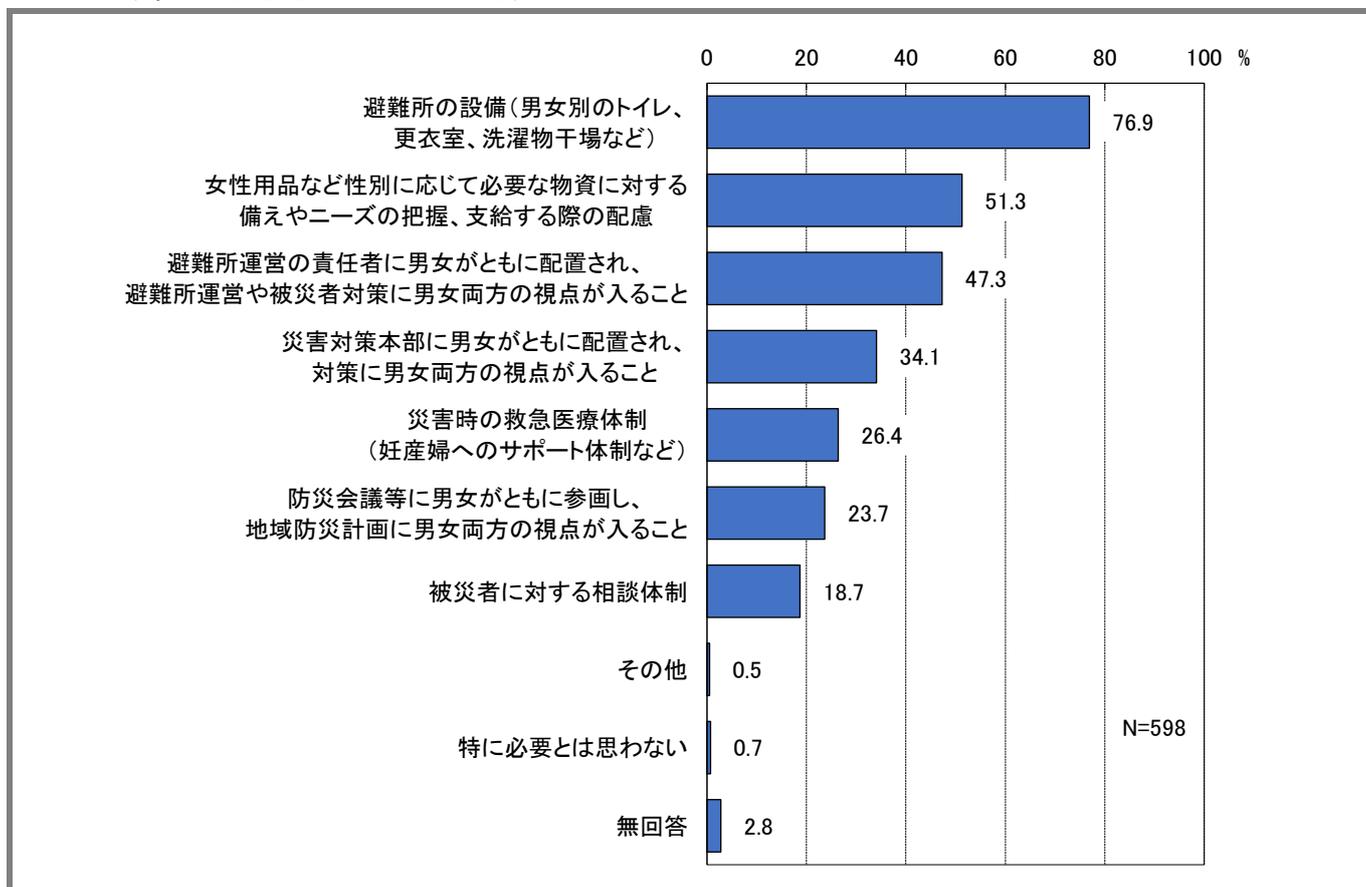
《男女別クロス集計結果》



- 性暴力のない社会づくりを実現するための施策としては、「性暴力被害者に対する相談・支援を充実させる」(61.0%)、「性暴力加害者の再犯を防止する支援・指導を充実させる」(59.7%)を望む人の割合が高くなっている。

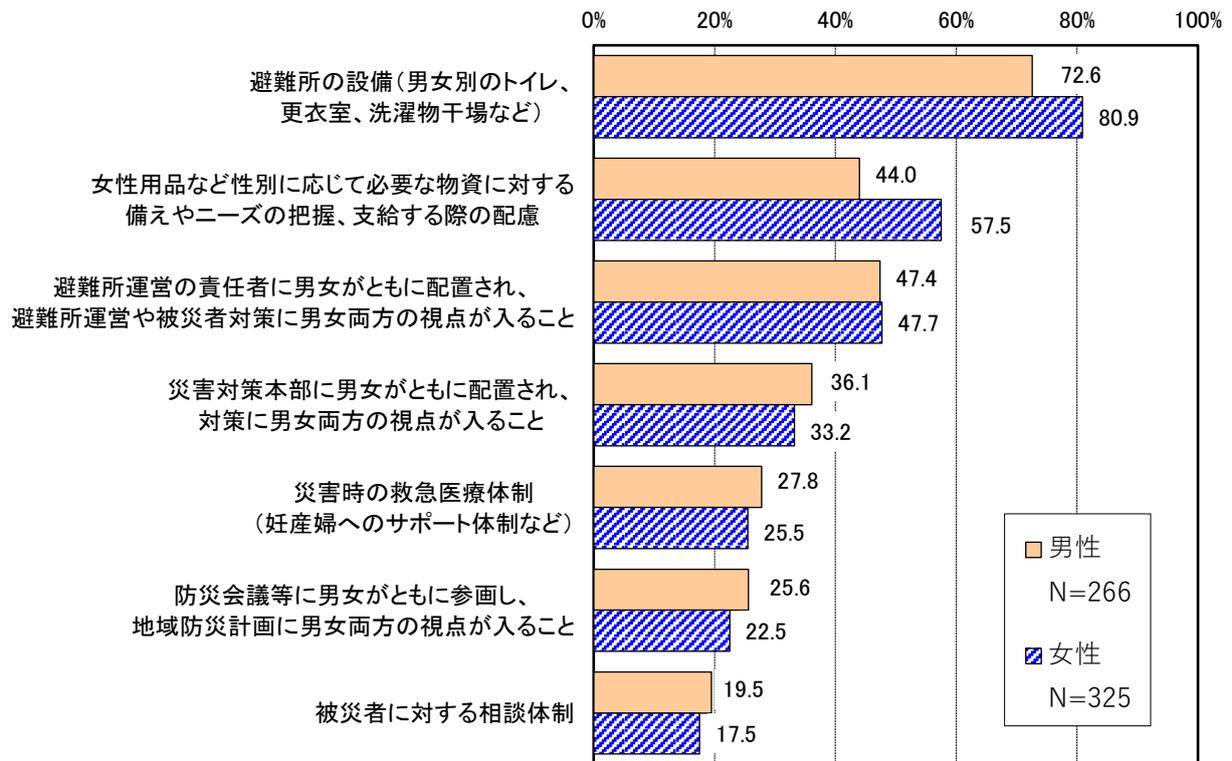
Ⅷ. 防災・災害復興について

問16 あなたが、防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要だと思うことは何ですか。
(あてはまるもの3つまでに○)



- 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要だと思うことについては、「避難所の整備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯物干場など）」という回答割合が76.9%と最も高く、以下「女性用品など性別に応じて必要な物資に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」（51.3%）、「避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対策に男女両方の視点が入ること」（47.3%）、「災害対策本部に男女がともに配置され、対策に男女両方の視点が入ること」（34.1%）と続いている。
- 男女別に見ると、男性では「女性用品など性別に応じて必要な物資に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」（44.0%）よりも「避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対策に男女両方の視点が入ること」（47.4%）の方が回答割合が高いなど、やや順位に違いはあるが、大きな差異は見られない（次ページの男女別クロス集計結果参照）。

《男女別クロス集計結果》



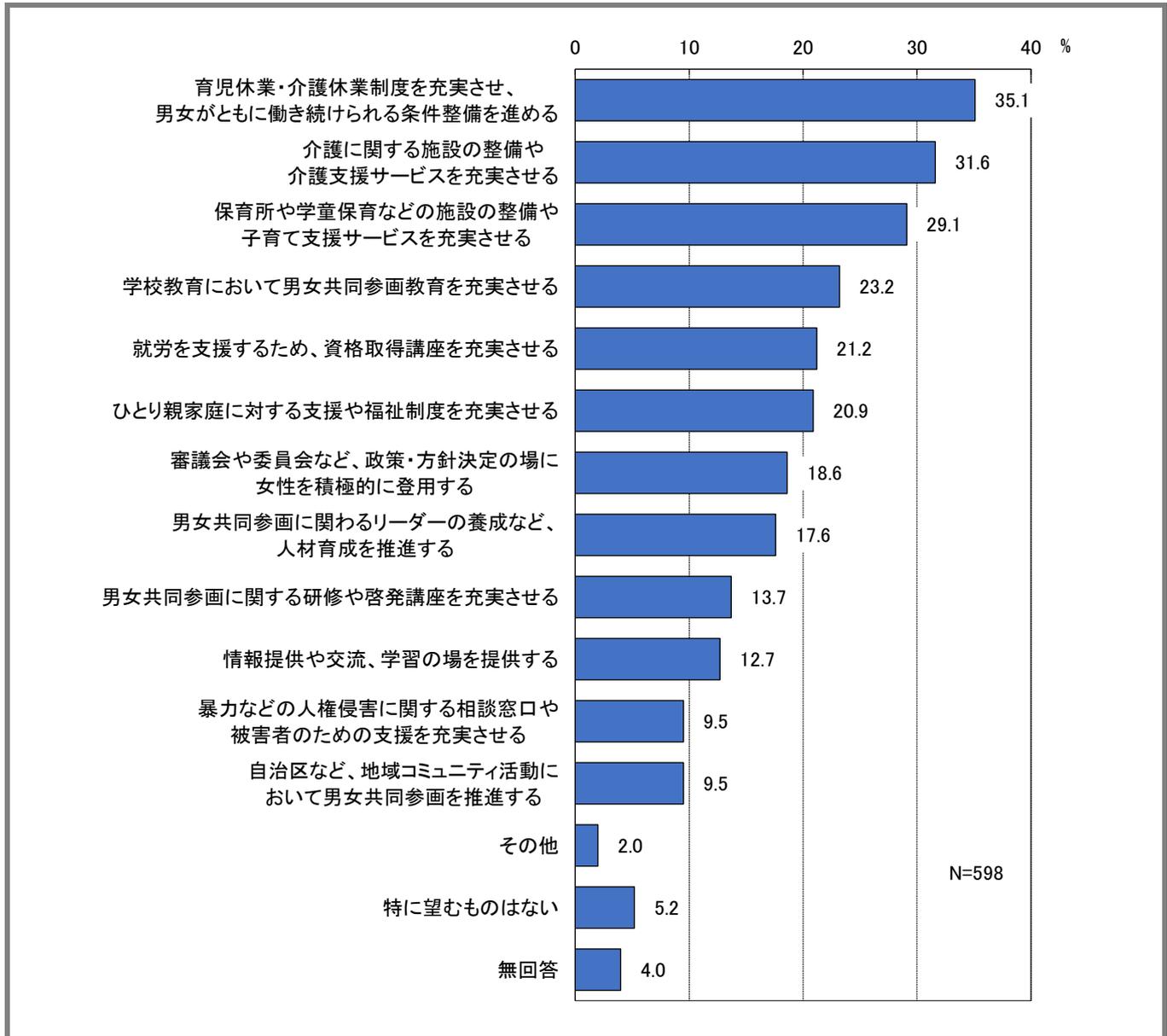
《男女別・年齢階層別クロス集計結果》

(単位:%)

		防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要だと思うこと						
		室避 、難 洗所 濯の 物設 干備 場(男 女別 のト イレ 、更 衣)	の対女 配す性 慮る用 備品 えな やニ ー性 別 の 把 握 、 必 要 な 物 資 に	方さ避 のれ難 視、所 点避 が難 入運 る所 運 営 者 に 男 女 が と も に 配 置	対災 策に 男 女 両 方 の 視 点 が 入 る こ と	災 害 に 対 策 本 部 に 男 女 が と も に 配 置 さ れ 、	災 害 時 の 救 急 医 療 体 制 (妊 産 婦 へ の サ ポ ー ト 体 制 な ど)	防 災 計 画 に 男 女 両 方 の 視 点 が 入 る こ と
男性	全体 N=266	72.6	44.0	47.4	36.1	27.8	25.6	19.5
	20歳代 N=26	76.9	57.7	42.3	26.9	38.5	11.5	23.1
	30歳代 N=34	73.5	50.0	44.1	29.4	32.4	17.6	5.9
	40歳代 N=40	82.5	50.0	52.5	32.5	20.0	22.5	10.0
	50歳代 N=41	70.7	53.7	41.5	31.7	22.0	19.5	26.8
	60歳代 N=63	74.6	41.3	50.8	39.7	33.3	33.3	27.0
	70歳以上 N=62	62.9	27.4	48.4	45.2	24.2	33.9	19.4
女性	全体 N=325	80.9	57.8	47.7	33.2	25.8	22.5	17.8
	20歳代 N=34	85.3	76.5	35.3	41.2	23.5	17.6	0.0
	30歳代 N=53	75.5	62.3	56.6	26.4	26.4	15.1	15.1
	40歳代 N=50	78.0	62.0	44.0	38.0	32.0	26.0	10.0
	50歳代 N=53	88.7	54.7	52.8	37.7	32.1	20.8	22.6
	60歳代 N=67	85.1	55.2	49.3	37.3	20.9	25.4	17.9
	70歳以上 N=67	76.1	44.8	44.8	23.9	19.4	26.9	28.4

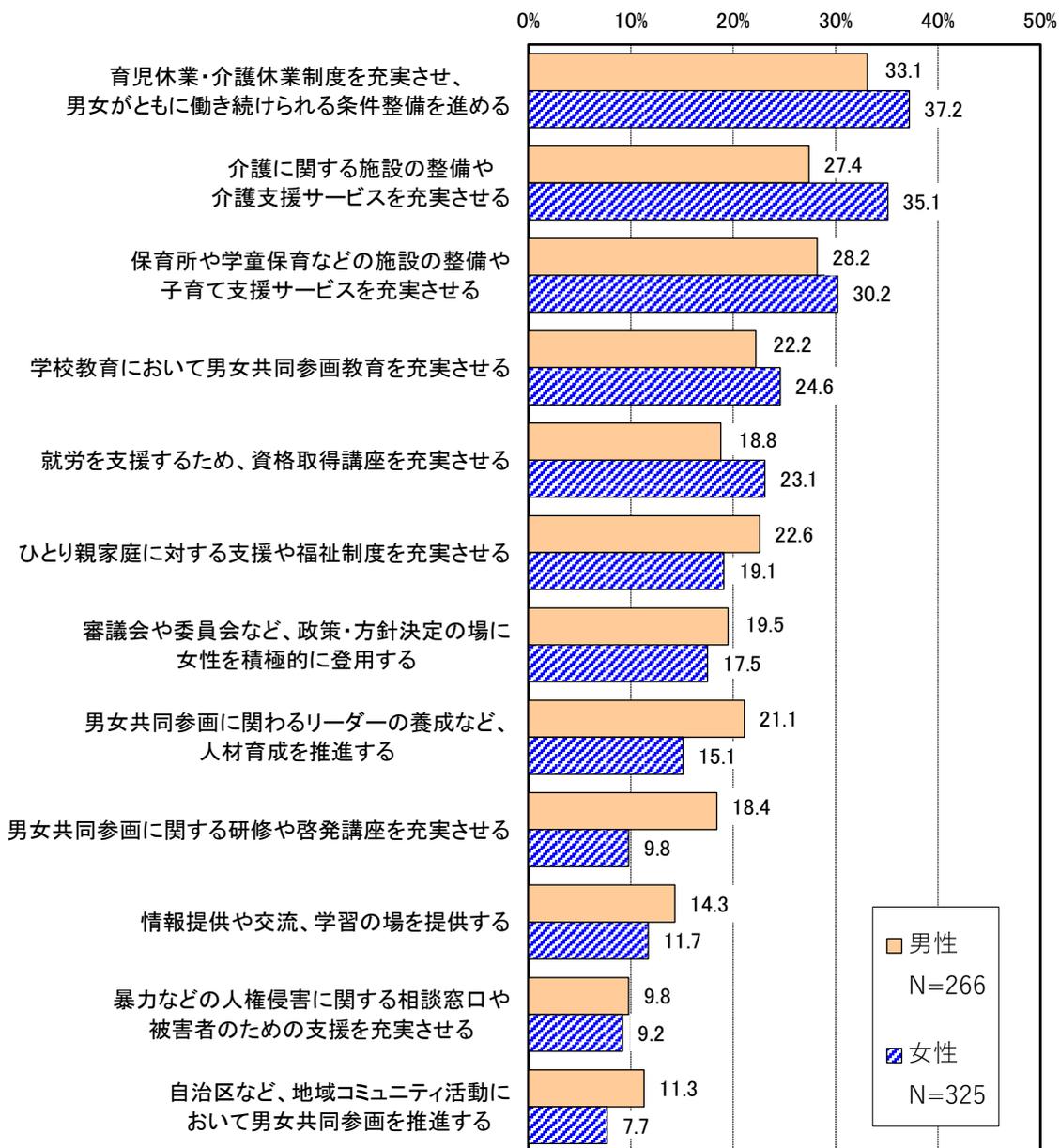
IX. 男女共同参画社会について

問19 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、芦屋町に対してどのような施策を望みますか。
(あてはまるもの3つまでに○)



- 男女共同参画社会実現に向けて町に対してどのような施策を望むか尋ねたところ、「育児休業・介護休業制度を充実させ、男女がともに働き続けられる条件整備を進める」と回答した人の割合が35.1%と最も高く、以下、「介護に関する施設の整備や介護支援サービスを充実させる」(31.6%)、「保育所や学童保育などの施設の整備や子育て支援サービスを充実させる」(29.1%)、「学校教育において男女共同参画教育を充実させる」(23.2%)と続いている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は認められないが、男性では「ひとり親家庭に対する支援や福祉制度を充実させる」が第4位にあがっている(次ページの男女別クロス集計結果参照)。

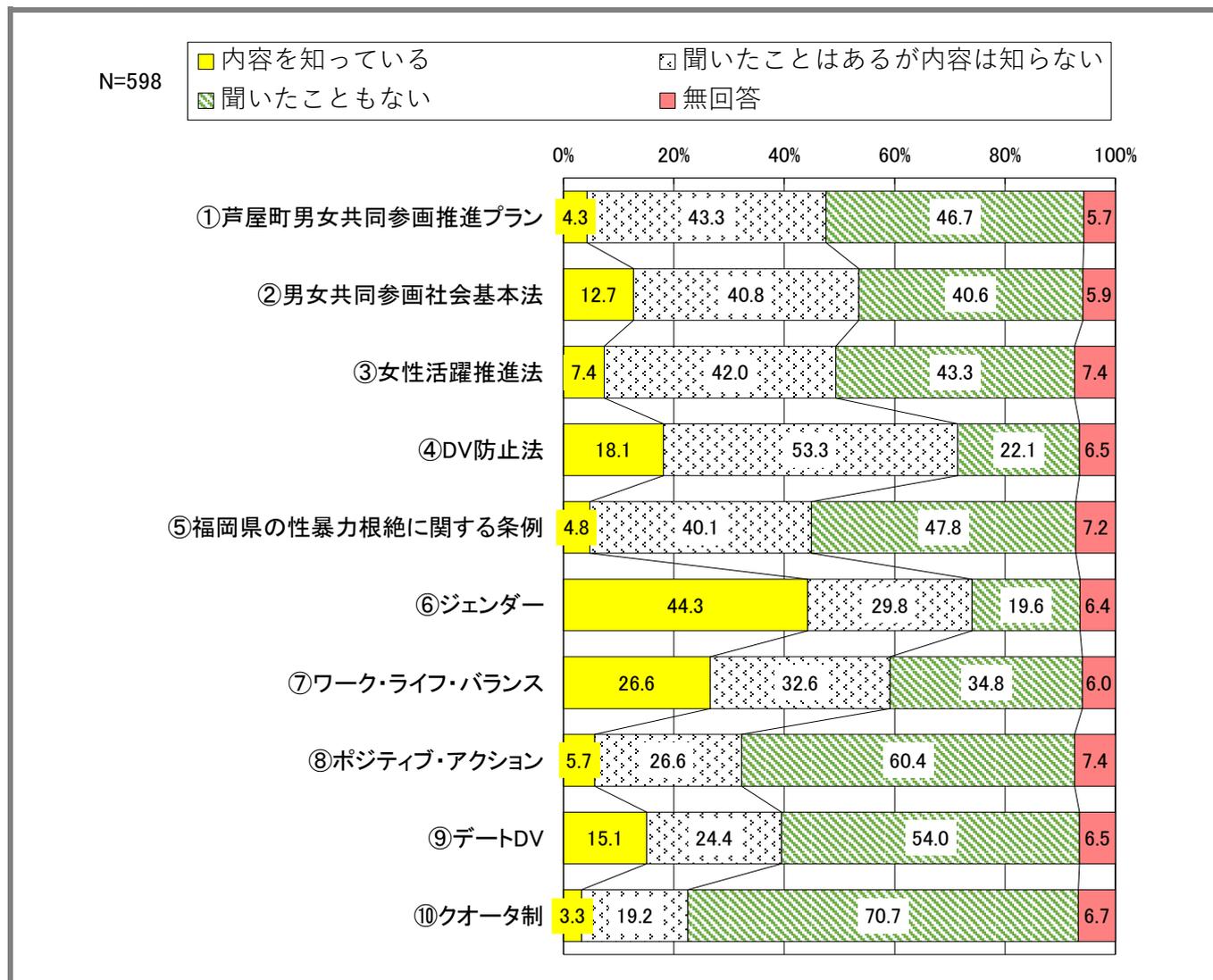
《男女別クロス集計結果》



《男女別・年齢階層別クロス集計結果》

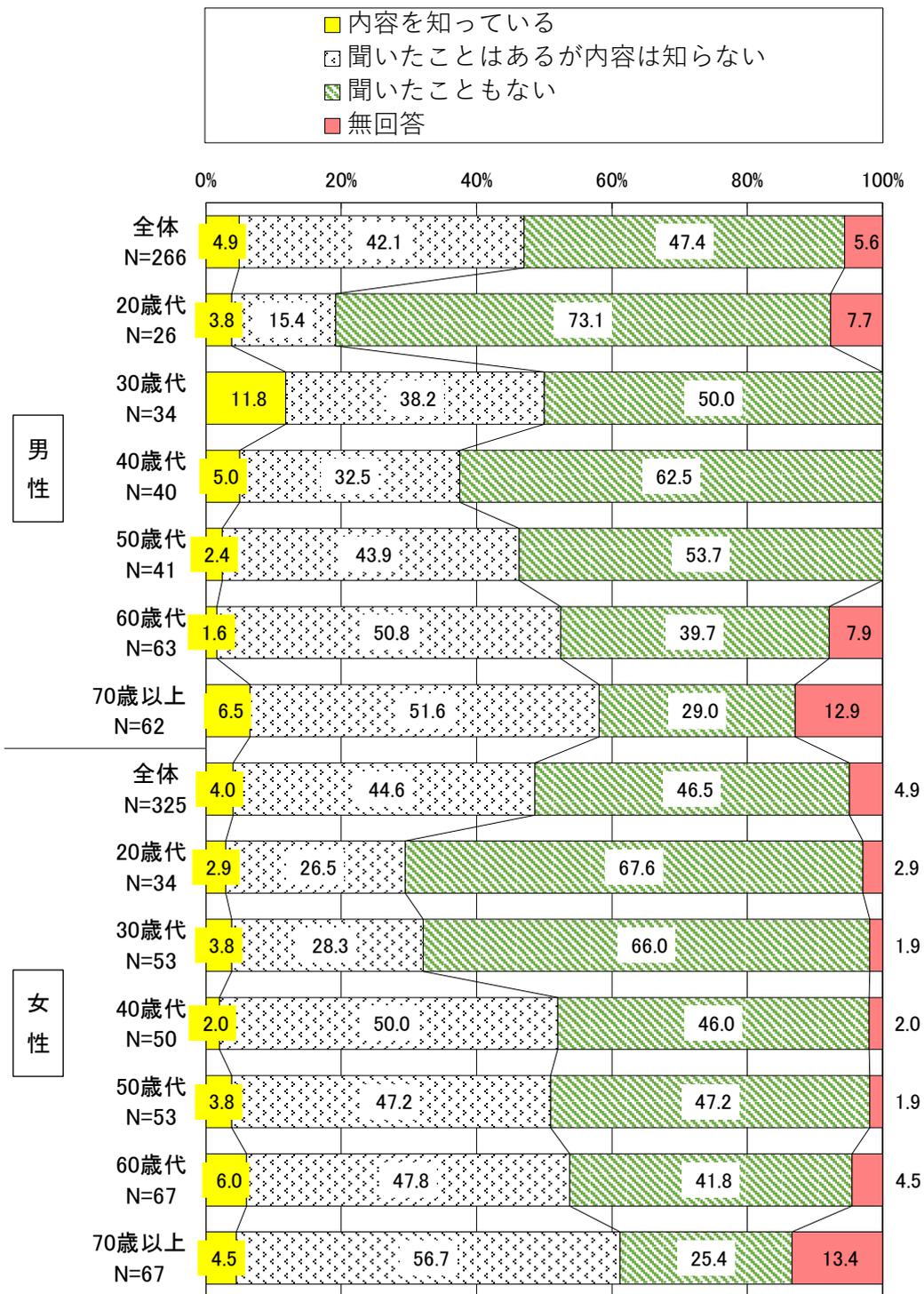
		男女共同参画社会を実現するために、芦屋町に対してどのような施策を望むか												
		と育児休業・介護支援サービスに関する整備や進め、男女が	介護支援サービスを整備や	子育てや児童保育などの施設の整備や	学校共同参画教育を充実させる	資格取得講座を充実させる	福祉制度を充実させる	ひとり親家庭に対する支援や	審議会や委員会などに登用する	養成など、人材育成を推進する	啓発講座を充実させる	情報提供や交流、学習の場を提供する	暴力などの人権侵害に関する相談窓口や	自治区など、地域コミュニティ活動において
男性	全体 N=266	33.1	27.4	28.2	22.2	18.8	22.6	19.5	21.1	18.4	14.3	9.8	11.3	
	20歳代 N=26	34.6	15.4	42.3	11.5	34.6	38.5	7.7	19.2	3.8	3.8	15.4	0.0	
	30歳代 N=34	44.1	17.6	35.3	5.9	23.5	26.5	5.9	23.5	8.8	5.9	2.9	2.9	
	40歳代 N=40	32.5	30.0	30.0	25.0	25.0	27.5	20.0	17.5	12.5	22.5	12.5	2.5	
	50歳代 N=41	34.1	26.8	26.8	29.3	9.8	19.5	24.4	12.2	17.1	19.5	12.2	12.2	
	60歳代 N=63	30.2	31.7	22.2	31.7	22.2	17.5	23.8	22.2	23.8	17.5	9.5	12.7	
	70歳以上 N=62	29.0	32.3	24.2	19.4	8.1	17.7	24.2	27.4	29.0	11.3	8.1	24.2	
女性	全体 N=325	37.2	35.1	30.2	24.9	23.4	19.1	17.5	15.1	9.8	11.7	9.5	7.7	
	20歳代 N=34	55.9	8.8	44.1	32.4	14.7	29.4	17.6	11.8	11.8	5.9	5.9	0.0	
	30歳代 N=53	39.6	18.9	43.4	39.6	24.5	13.2	15.1	9.4	7.5	13.2	5.7	7.5	
	40歳代 N=50	34.0	32.0	36.0	20.0	38.0	22.0	16.0	16.0	2.0	4.0	6.0	10.0	
	50歳代 N=53	35.8	45.3	37.7	26.4	28.3	17.0	24.5	20.8	5.7	9.4	9.4	5.7	
	60歳代 N=67	31.3	46.3	28.4	16.4	16.4	22.4	14.9	14.9	11.9	14.9	17.9	9.0	
	70歳以上 N=67	35.8	44.8	4.5	17.9	16.4	14.9	17.9	16.4	17.9	17.9	6.0	10.4	

問20 男女共同参画に関する次の言葉について、あなたはどの程度知っていますか。①～⑩のそれぞれの項目についてそれぞれあてはまるものを選んでください。(①～⑩のそれぞれについて、1つに○)

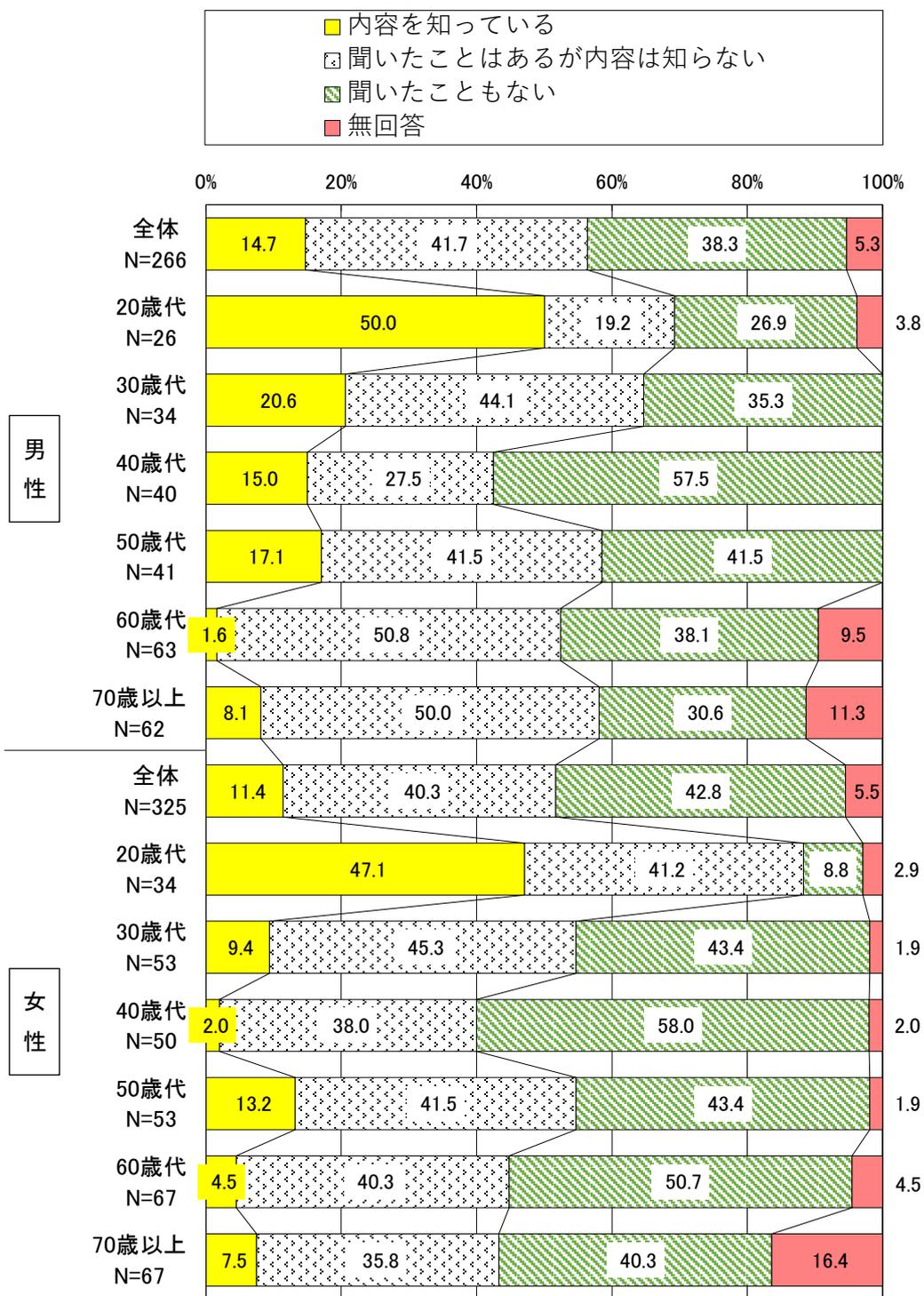


- 男女共同参画推進に関する10の言葉の認知度を尋ねたところ、「内容を知っている」と回答した人の割合が最も高かったのは「ジェンダー」(44.3%)で、以下、「ワーク・ライフ・バランス」(26.6%)、「DV防止法」(18.1%)、「デートDV」(15.1%)、「男女共同参画社会基本法」(12.7%)と続いている。
- 男女別・年齢階層別に見ると、「男女共同参画社会基本法」や「ワーク・ライフ・バランス」「デートDV」について「内容を知っている」と回答した人の割合が高かったのは「20歳代の男女」で、また、「ジェンダー」について認知度が最も高かったのは、女性では「20歳代」(76.5%)、男性では「30歳代」(64.7%)となっている(P76～85の男女別・年齢階層別クロス集計結果参照)。

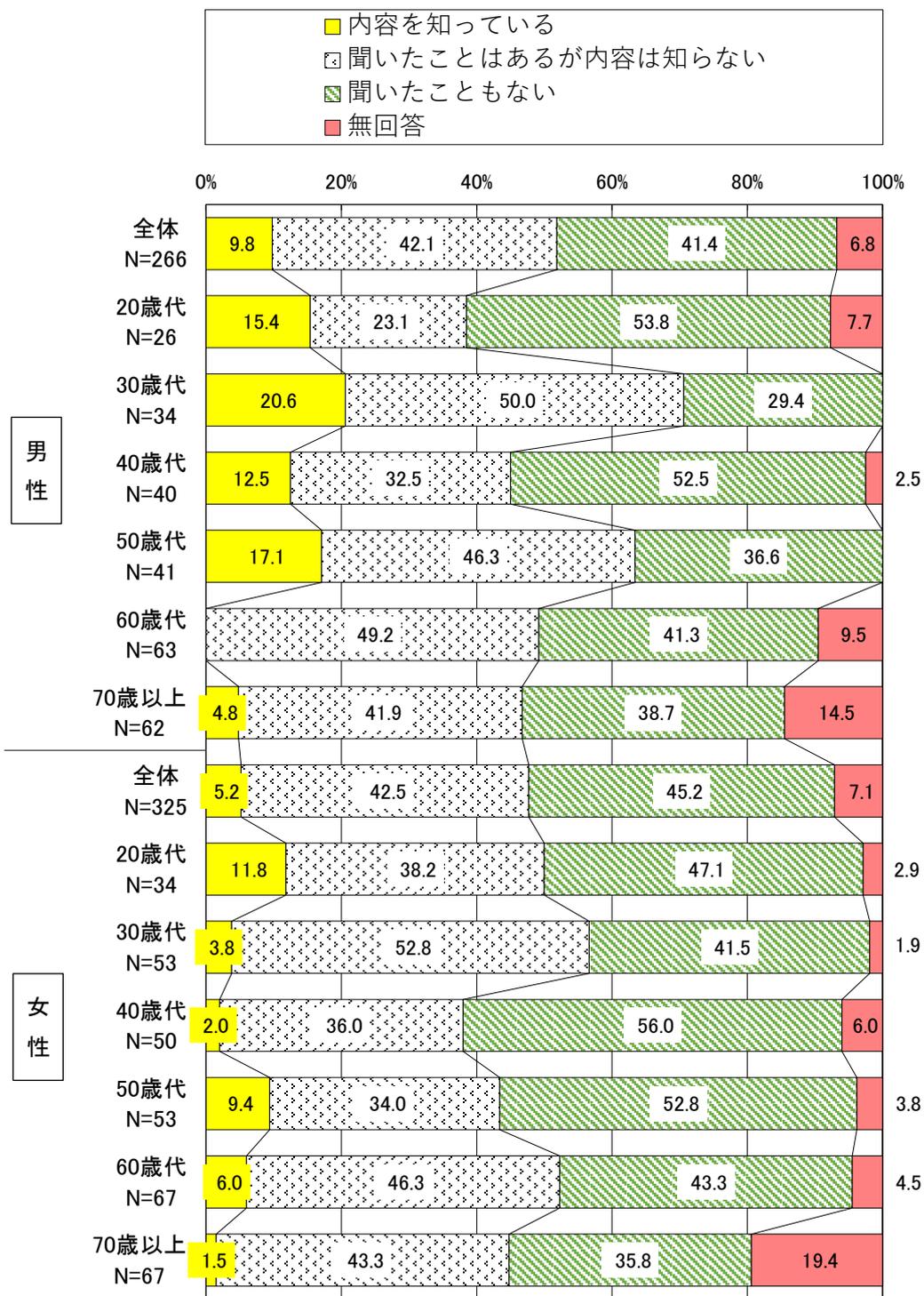
①芦屋町男女共同参画推進プラン《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



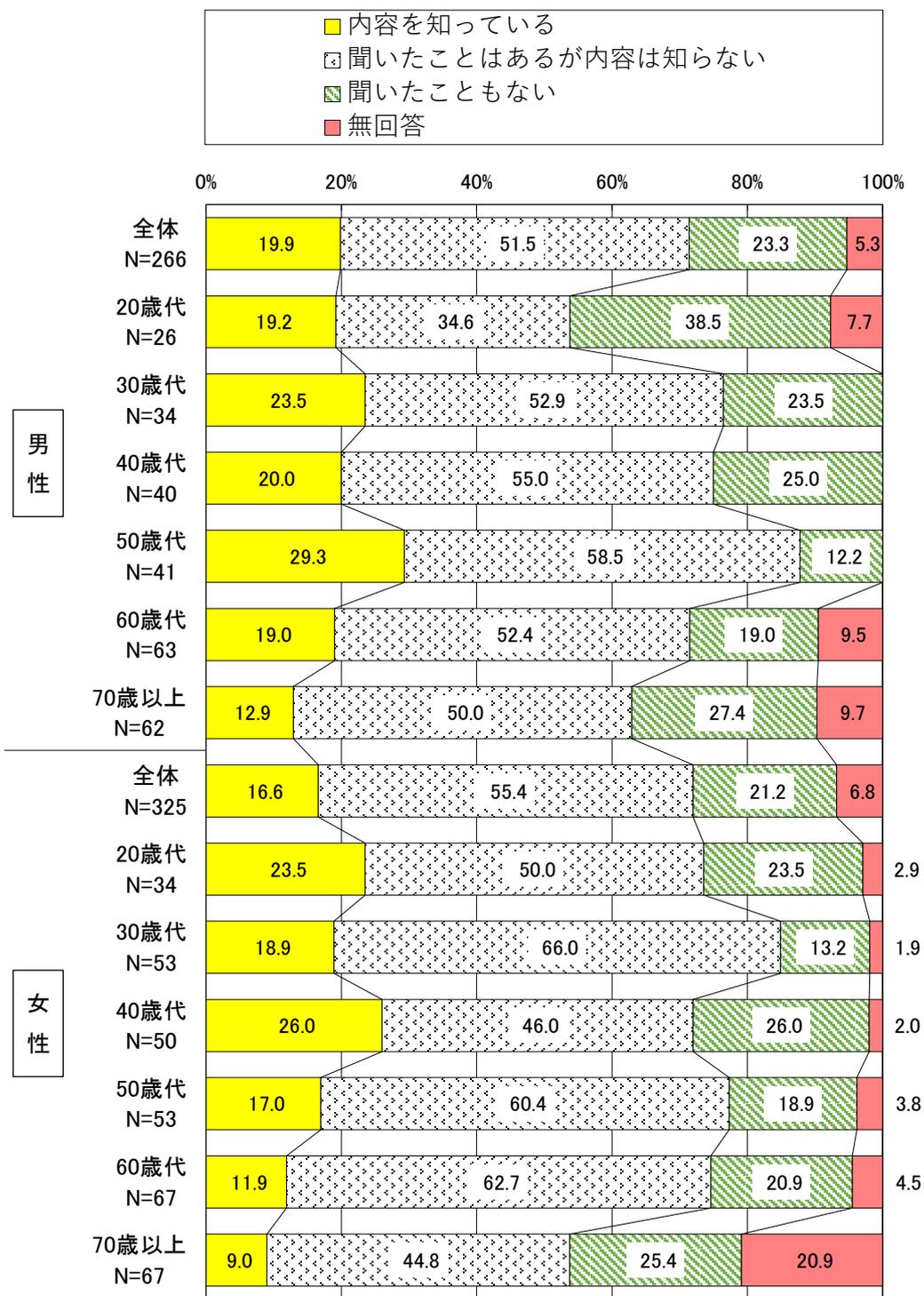
②男女共同参画社会基本法《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



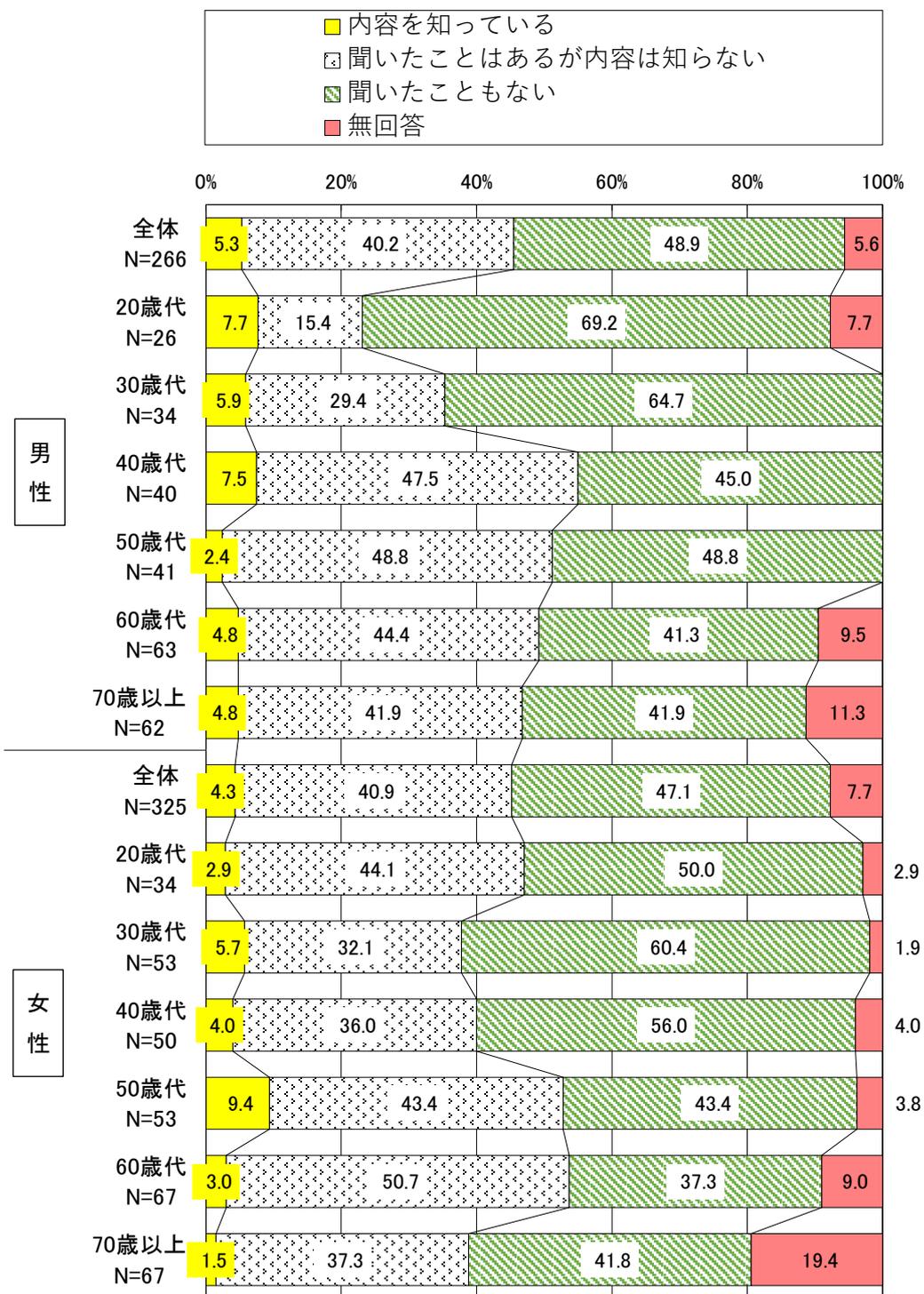
③女性活躍推進法《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



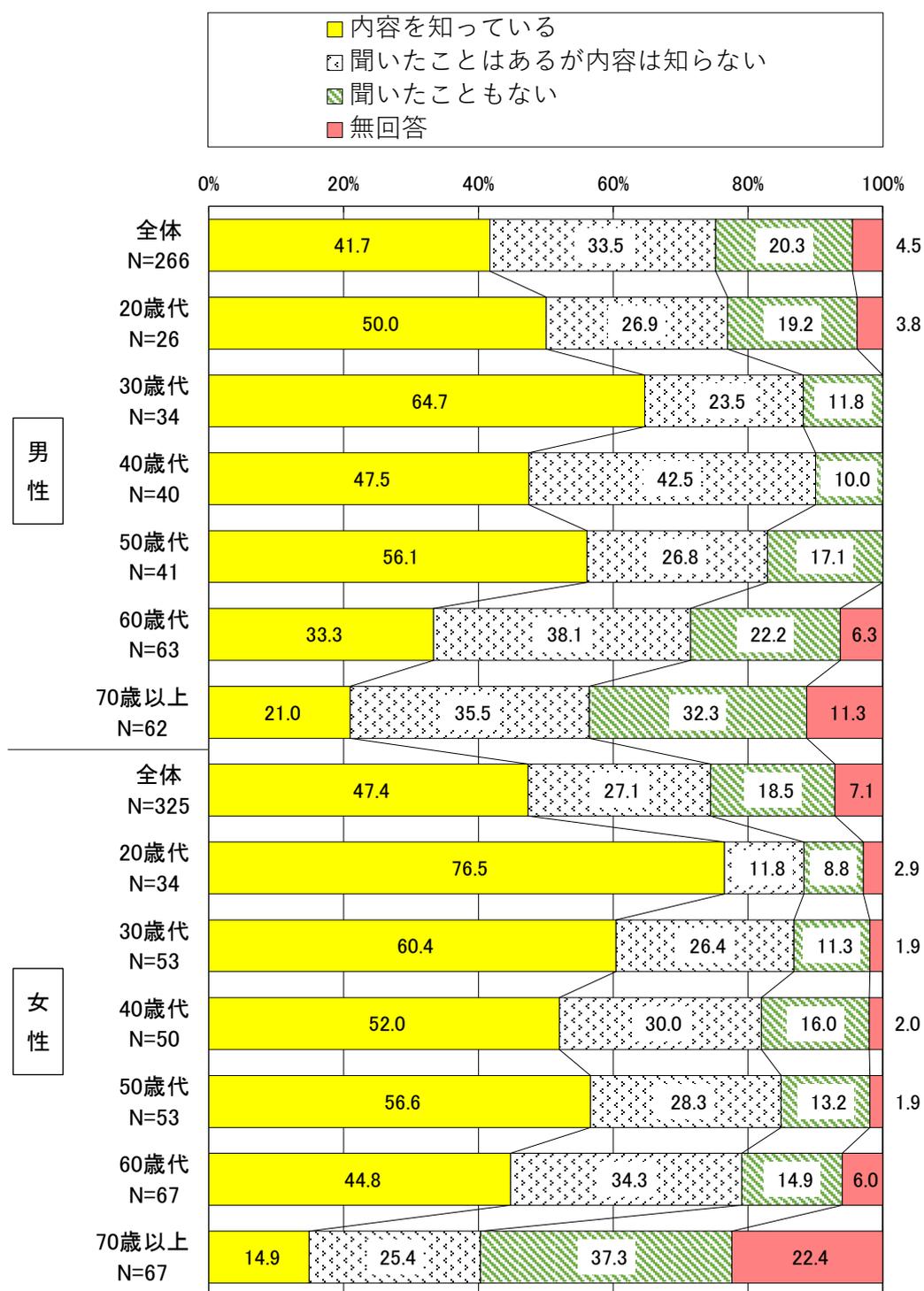
④DV防止法《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



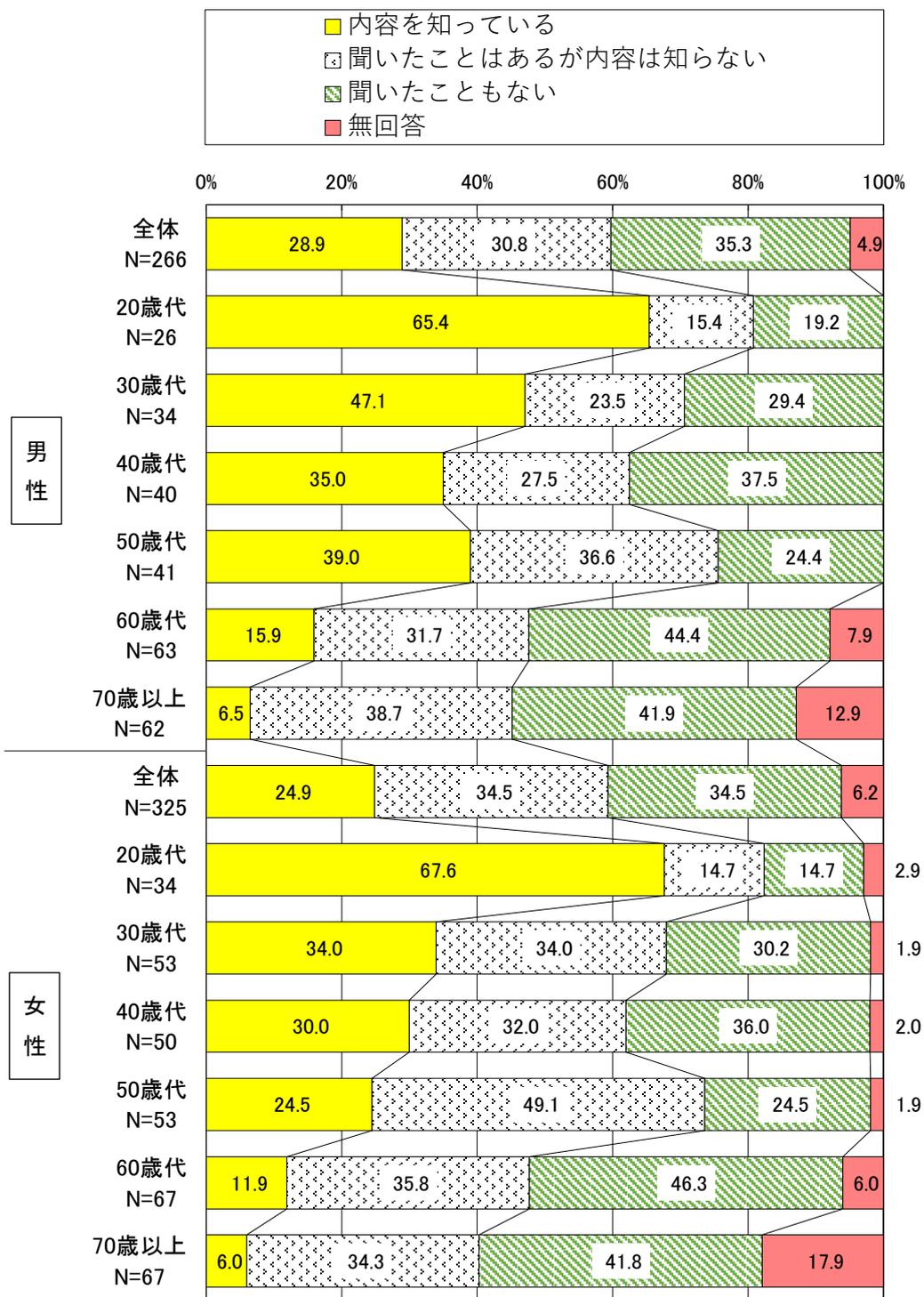
⑤福岡県の性暴力根絶に関する条例《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



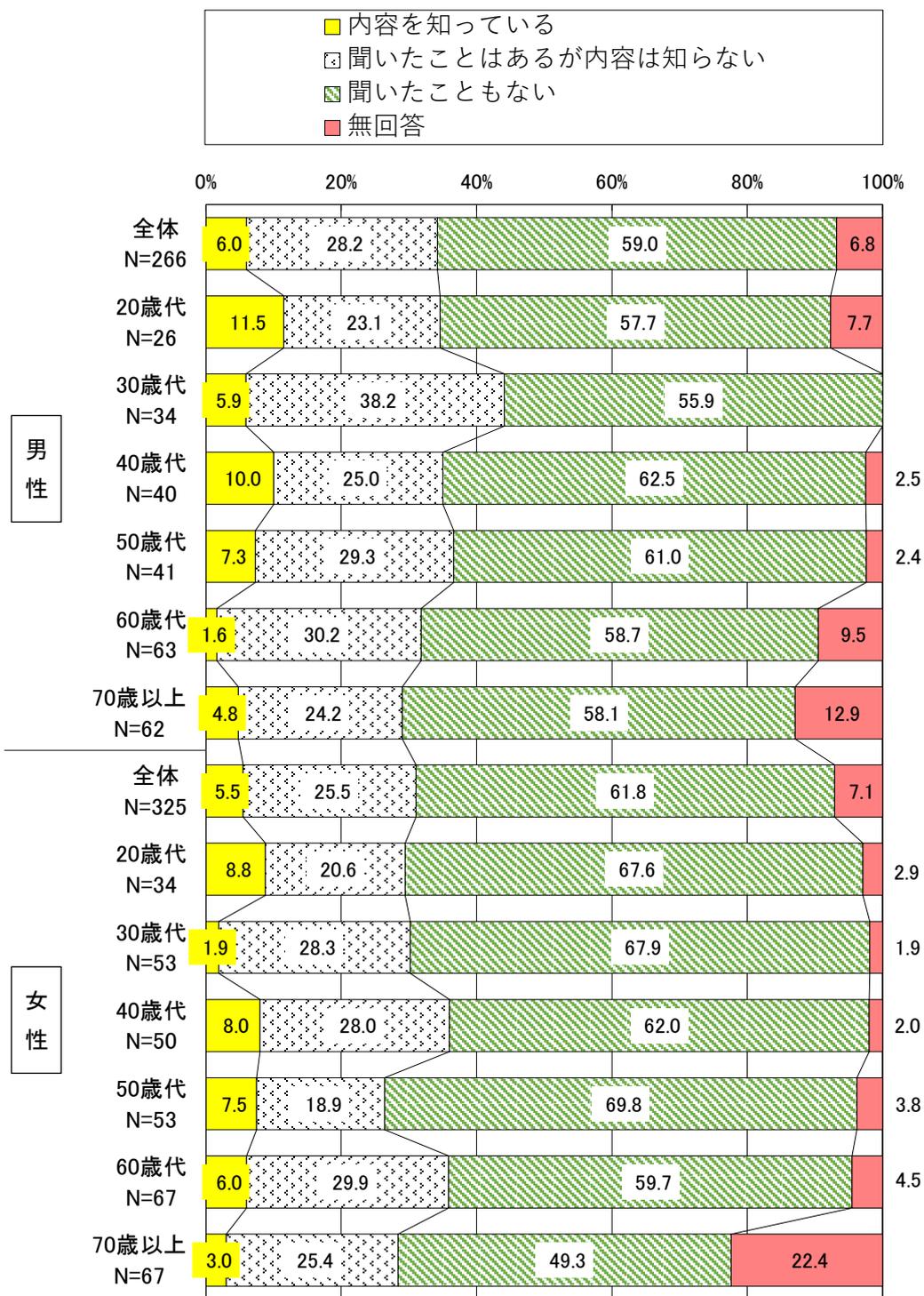
⑥ジェンダー《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



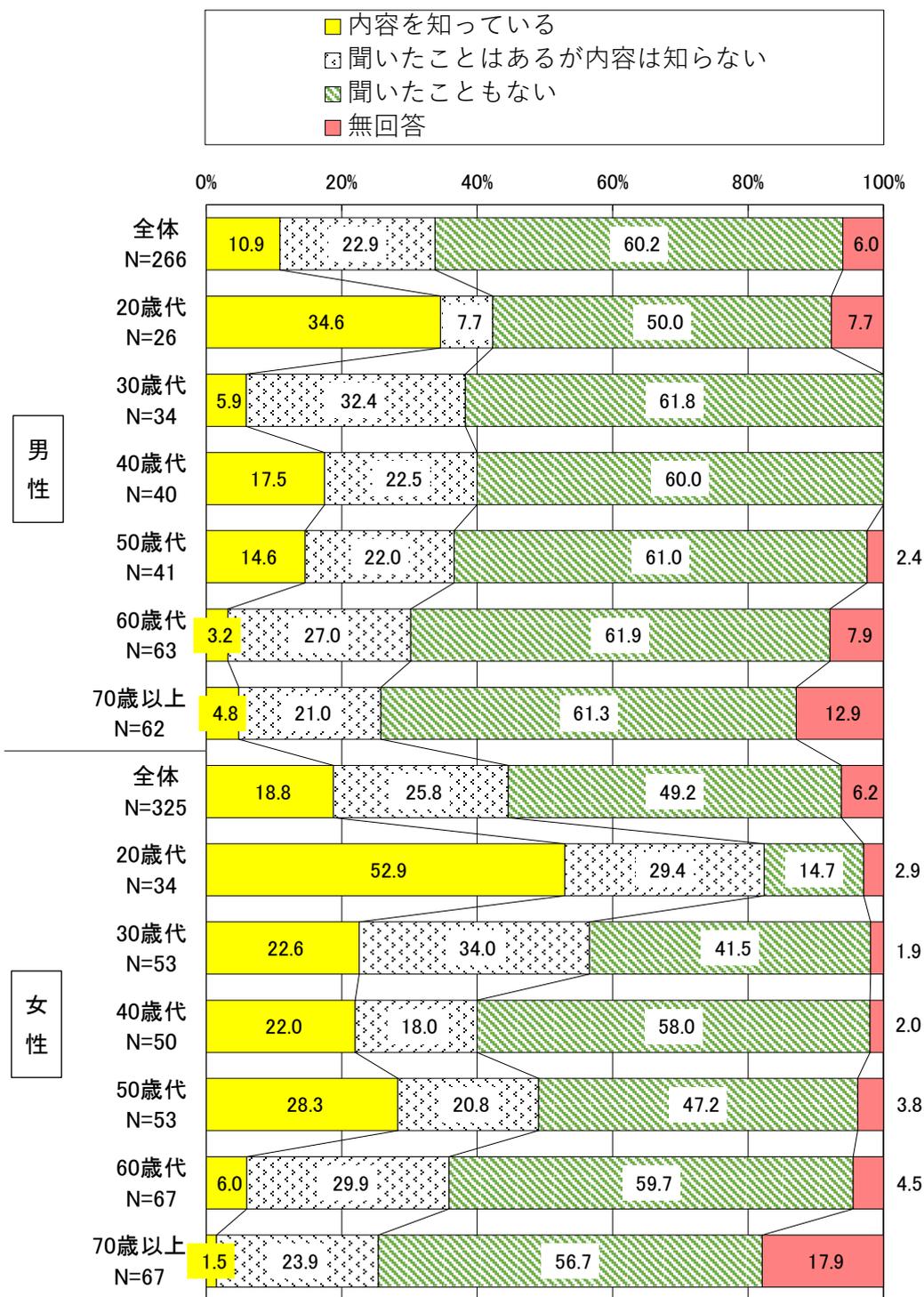
⑦ワーク・ライフ・バランス《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



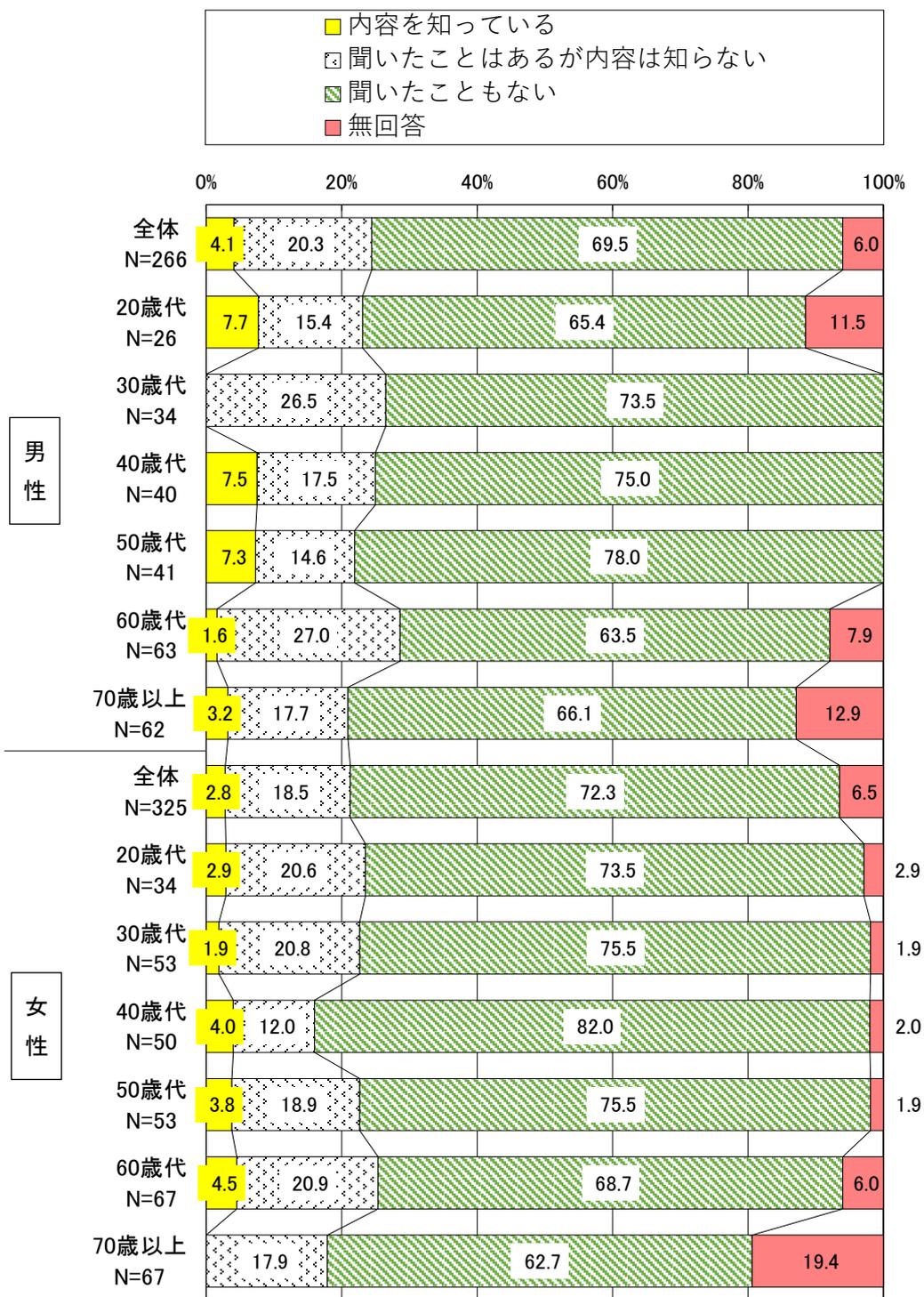
⑧ポジティブ・アクション《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



⑨データDV 《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



⑩クオータ制《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



◎男女共同参画社会を実現するために、取り組んでいることや取り組みたいこと、その他、男女共同参画に関する事で何かご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

【20 歳代】

性別	内 容
男性	男女共同参画により男が立場を失っている部分もある。 働きやすい環境を整えるようによろしくをお願いします。
女性	育休を取得する際、申請するのではなく、取得を原則とするものとして、しない場合にだけ申請するようにしてほしい。
	男女共同参画というと女性側に目を向けがちですが、女性の地位向上が実現した際には性的マイノリティを含む全ての方が暮らしやすい世の中になっていると良いなと思います。どちらかに偏るのではなく社会全体に行き渡るサービス、施策を望みます。
	男女共同参画社会という言葉を使っている間は男女の平等が来ないのだと思います。私は教育現場で勤務しているので子ども達には男女で分けるのではなく、一人の人として共に生活しているということを教えていきたい。子どもは受容的であるが、まずは大人がしっかり受容して男女共同参画社会を作って、このような言葉がなくなることが大切だと思います。
	妊娠、出産、子育てをする中で「働きながら」というのは難しい場面があると思う。男性からの理解を得られない等。どうしても女性がするものという考えが根付いてしまっているので子育てが一段落つかないと女性の本格的な社会復帰は難しいのかなと思う。子育てに対する支援が手厚いと女性としては有難いです。
	非正規雇用が多いことで生活が安定せず、結婚や子育てなどに力を割く余裕がない。正社員の比率が増えないと社会へきちんと参画できているとは言えないと思う。

【30 歳代】

性別	内 容
男性	男性と女性が平等であることが大切ですが、同質ではないのでその点を踏まえてほしい。 様々な生き方が認められる（偏見を持たない）世の中になるといいなと思う。「～でなければならない」というストレスから少しでも解放されたら人生楽しくなると思う。
女性	あまりこういう事、言わないで下さい。言いたい事と言わなくていい事があります。
	まだまだ男性の方が上に立っている世の中なのでなかなか変わらないと思います。女性が子育て家事をするのが「当たり前」ではないということをもっと理解してほしい。もっと感謝してほしいと思う。そして互いに尊重していくべきなのかなと思います。
	芦屋町に引っ越してきて良かった。本当に住みやすいです。感謝します。
	女性ばかりのPTA や子ども会は雰囲気は苦手で馴染めませんが、「一度は必ずやって」の圧が強く、男性はほとんどやらないのでうらやましいです。やる事が正義みたいで、やらないと悪者扱い。女性の集団に馴染むことのできない私はどうしても浮いてしまいます。個人の付き合いはいけど集団はだめです。本当に子どものためですか。どうにかなりませんか。男の人達は当然のようにほとんどの人がやらないのに。当時2才児を連れまわして子供会はかなり精神的に参りました。
	男だから女だからという古い考えを捨てる事が良いと思う。特に年配に多いので政治家も古い人間を一層して若い人材を入れた方が良い。本当に実現を目指すならトップとその周辺を入れ替えた方が良い。
	女性は子育て、男性は仕事といった考え方を根本的に変えなければ、コミュニティ活動などの役員に女性がつくことはないと思う。

性別	内 容
女性	前の職場でいわゆるマタハラを受けた。本当に嫌な思いをして同じ親になるはずの夫は生活の変化がないのに、と職場だけでなく夫にまで八つ当たりしたくなった。男女の差を一番感じた時だった。おかげでもう二度と出産したくなく、人口減少問題にも直結していると思った。
	男女の性差、身体の違いは本来あるものなので何をもってして平等であるのかをしっかりと考えられているのかは疑問に思う。妊娠、出産は女性にしかできない。妊娠中や産後すぐ授乳中など男性と同じように働くことが平等ではない。女性が働く社会の実現ももちろん大切だと感じるが、子を産み愛情をこめて育てることも大切にしたい制度を進めてほしい。
	男女共同参画に関して様々な法や条例があるにも関わらず内容を知らないものが多いのでこれを機に調べてみようと思いました。
	夫が自分のために必要な家事すらできず困っているの、息子には自分の事は自分でできる程度の家事は教えたいと思っています。

【40 歳代】

性別	内 容
男性	孫の面倒を私が見ることで娘たちにはしっかり社会に貢献してもらいたい。
	男女共同参画社会というお題を利用して女性上位の社会を作ろうとするのはおかしいと思う。男女平等といいつつ、女性優遇の風潮が主流となっている。
女性	このアンケートの答えが私と考え方が違ったので答えを見つけるのが難しかった。男女共同参画社会がどれくらい進んでいるのか（実現しているのか）現状をまず把握できていないので、そこから進めていくべきではないのかと思います。
	私には子どもがいます。学童を利用して頂いていますが、子どもが学童には行きたくないと言います。帰りに迎えにいくと先生たちからがみがみと怒られています。大人も見たら嫌になります。アンケートも正直に書きたいけど子どもに持たせて下さい、なので正直に書くのが怖いです。学童は子どものためにあるものなのでもう少しのびのび、叱る時もこれは何だからだめだよと、子どもの心の傷にならないように叱ってもらえればありがたいです。
	女性は結婚している、していない、子どもがいる、いないに関わらず、自分の自立を目指す社会性を持っていないといけないと思います。経済の自立が図れないことによって夫婦の間では男性優位が通ったり、精神の自立を目指さない要因にもなったりします。また男性側も女性の自立を一人の人間として認めていく寛大さが必要だと思います。
	男女共同ということが差別的な感じがする。政治、経済、社会生活全てにおいて性別ではなく、個人の能力で選ばれることを望みます。

【50 歳代】

性別	内 容
男性	アンケートを活かしてほしい。
	一度他の自治体で夫婦共に参加した事があるのですが、芦屋町でも夫婦で参加できる料理教室などいかがでしょうか。実際に参加してみて意識が変化したように思います。既に企画されていたらすみません。
	参画社会の推進と少子化の流れが比例しているような感じがします。女性がしっかり働く社会を目指す施策は理解しますが、中途な施策では少子化の歯止めが利かないのでは？暴力（人権侵害）等については事が起きて諸々の対応が、「情報共有」や「状況の変化への対応能力」が不十分と検証されないような関わり合いが必要ではないでしょうか。

性別	内 容
男性	社会には「女性優遇」もあります。男性が住みにくい世の中になっています。時代錯誤も甚だしい時代遅れのアナログ人間がいます。弱者に支援が行き渡るのが重要と思います。
	男女共同参画、DV、子育て、ワーク・ライフ・バランスを同時に扱うのは混乱してしまう。取組みについてあえて言うなら選択肢を増やすこと。個人や家庭環境によってひと様々だと思う。
女性	「養っているんだ」という意識の根絶。共同生活の正しい意味の把握。全て幼い頃からの教育なのではないでしょうか。今からの子ども達に正しい教育を。
	あらゆる事を広く知る事が大切だと思いました。困りごとに誰でも気軽に相談する場が大事だと思いました。
	子ども達が子育てをする時代には体調を崩した子どものお迎えにパパもママも迎えに行きやすい世の中になっていますように。会社の人、上司ももちろん同僚の方々が「早く行ってあげて」と気持ちよく言ってあげられる世の中であってほしいと願います。「ひとりひとりを大切に」その気持ちを大切にしていきたいと思っております。
	私の世代では男とは女とはという世代の親に育てられました。自分の子育ての時には出来るだけ男女の区別なく育てたつもりです。成人するまでの子ども達に男女共同参画の考えを教育する事が大切だと思います。学校教育だけではなく町主導の企画、イベントがあれば良いと思います。
	男女共同参画で女性の頭数を増やせばいいという考え方は良くないです。性別を意識せず優秀な人材を登用、その結果女性へも戸が開かれるというのが理想的だと思います。女性だから、という考え方より女性だからこそ、という考え方がしやすい社会を。
	男女共同参画社会が必要なのか分からない。男女共同と言っている事がもう共同ではないと感じる。
	男女共同参画社会という言葉がかたくて身近に受けとめにくいです。 男性、女性ではなく一人の人間として認め合って協力しながら生活できる家庭や社会になると良いと思います。
答えたくない	男女共同参画をあまり知られていないように思います。もう少し砕けた感じの方が良いのでは。

【60 歳代】

性別	内 容
男性	各職場で働き活躍することも大事ですが、共同参画の第一歩は地域社会（自治区等）役員やボランティア活動を引き受け、積極的に活動することから始めてほしいものです。そうすることで女性に対する偏見などもなくなり、ますます男女共同参画への活動が広がっていくと思います。
	今日自分自身が生きているのは、女性が子どもを生みつつ今日まで来たからです。動物学で言う人間は動物であり、他の動物よりも進化の過程が速く産業の発達とともに進化が速くなり、それに伴う女性の体の精神的、肉体的負担が過大になっているのではないかと思います。これからはもう少し女性に寄り添った政策、より良い女性のからの意見を取り入れてもらいたい。今後の日本民族を継いでいくには女性に子どもを産んでもらわなくては。人間は進化のスピードに勝ってほしい。
	私の勉強不足ですが、3次の男女共同参画プランの策定を予定しているそうですが、聞いたこともないとならないように広く広報して町民の身近なプランにして下さい。
	人材優先。
	返信用封筒に両面テープの処理がほしい。

性別	内 容
女性	これからも生活しやすい芦屋町にしてほしい。
	既にあるのでしたら余計な事ですが、子どもが病気をした時に預けられる病児保育を中央病院が担ってくれたらと思います。サポートしてくれる人がいない親は夫婦どちらかが休むしかありません。ましてや一人親の方は途方に暮れると思います。ぜひまだ無いのでしたら御一考下さい。
	自治会や町内会の力量は落ちてきている。一人暮らし高齢者、子育てに苦勞する若い親たちの存在を考えると小さな地域での人的な交流や助け合いが不可欠になっている（地域活動や社会活動への参加についてのおたずねより）。広報あしや2021.6⑩で内容を知りました。
	上記はとても大事な事なので充実してほしいです。

【70歳以上】

性別	内 容
男性	アンケートをする者を間違っている。
	これまで介護生活で参画の意思は全く無かった。しかし介護生活から解放されたので地区の活動等に力を入れる事ができると思っています。
	共同参画に取組みやすい事からスタートさせて、参加するのに障害は何かを深堀し、誘導案内し存在感、増加意欲を作り出すチームの作成。
	正確な判断できる識者を多く育てることが重要と考える。
	男女共同参画以前に今家庭、地域あるいは職場でのコミュニケーションが大いに不足している。人はより多くの人と交わることで成長していく。少子化も大きな問題であるが、今の日本の教育は基本的に間違っている。人を育てるという基本理念に欠けている。もっと住みやすい社会をつくるためには教育を考え直す必要がある。お金のかからない制度、少子化改善にもつながり、ゆとりのある社会になる、教育が全て。日本の現状は情けない限りです。
町内道路の美化活動をして下さい。道路が汚れている。	
女性	60才代までは多く社会参加し勉強させて頂きました。現在80才を過ぎ、発言の場も少なくなりました。ボランティア等3、4か所続けています。
	70才になり、社会と久しく交わることが減ったので昔の感覚が強く、テレビで放映されているのを見て男女共同参画はぜひ進めてほしいと思っています。女性の方が平和な考えに至るのではと思います。
	70才女性ですが若い頃に比べたら随分社会生活が女性にとってやりやすくなっています。子育て支援なども全く違います。私たちの頃は支援はあまりなかったので自力で頑張ってきました。支援が当たり前と思っている人が多いのではと感じることもあります。
	私たち80代は家事、育児、仕事を頑張ってきました。現在は政治の世界、企業の管理職と女性が活躍しています。だが日本は世界に比べてまだまだです。早く女性の地位が上がってほしいと思います。働きやすくなるよう願っています。
	他人の事は興味があっても真剣に相談にのってくれる方がいると思えない。またそう思わせる答えしか戻ってこない。最初から相談、期待しない方が無難と思われる。
	男女共同参画について内容は詳しく分からないので広報等で分かりやすく説明してもらいたい。興味を持っていこうと思いました。
男女共同参画社会を実現するためにはまず一人ひとりが「ジェンダーの平等」の意味を理解すべき。	

性別	内 容
女性	性別による役割、当然のこととして生きてきた者としては、古過ぎるのかと思いつつも増々結婚しない、少子化が気になります。子や孫には自由に生きられるように力を付けてほしいと思います。そしてそれが認められる社会になってほしい。
	責任ある質問で記入しづらい項目でした。年金生活者の私には少し難しかった。
	男女共同と言っても全てを同じようにすることではないと思う。それぞれ事情に応じてよく話し合っ、いいように生活できるよう努力と学習をすべきと思う。
	地域活動で高齢の男性の意識の低い人がおられ、「男女共同参画」に対して反発される人がいます。どうしたら男性の参加（とても少ない）を増やせるか。まだまだ時間がかかると思っています。
	地区の役員になった人は弱者に対してもっと優しくなってほしい。人を傷つけないよう、心配りが出来る役員を選んでほしい。
	内容は 70 才代には少々難しいように思います。若い年代の方のアンケートが良いのではと思います。

芦屋町男女共同参画に関する町民意識調査結果報告書

令和4年3月

発行 福岡県芦屋町
企画・編集 芦屋町教育委員会 生涯学習課 社会教育係

〒807-0198

福岡県遠賀郡芦屋町幸町2番20号

TEL 093 (223) 3546

FAX 093 (223) 3885
